新潟県埋蔵文化財調査報告書　第137集

# 上信越自動車道関係発掘調査報告書XV

## 蟹　沢　遺　跡

２００４

新　潟　県　教　育　委　員　会

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

# 上信越自動車道関係発掘調査報告書XV

## 蟹沢（がんざわ）遺跡

２００４

新　潟　県　教　育　委　員　会

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

# 序

上信越自動車道は、首都圏と上越地方を結ぶ幹線道路として、群馬県藤岡ジャンクションから分岐し、群馬県・長野県を経て新潟県上越市に至る全長203kmの高速自動車国道です。これによって、関越・磐越自動車道と並び、日本海側と太平洋側を結ぶ大動脈として、沿線地域の発展に多大な効果をもたらすものと期待されています。

新潟県教育委員会は、昭和63年度から建設用地内の埋蔵文化財について調査を開始し、平成７年度には長野県境～中郷インターチェンジ間の発掘調査を、平成９年度には中郷インターチェンジ～上越ジャンクション間の発掘調査を終了して、県内全線の調査業務を完了しました。

本書は上信越自動車道建設用地内において、平成７・８年度に行った蟹沢遺跡の発掘調査報告書です。調査の結果、地滑り地帯の当地において、古代から近世にかけて地滑りや沢の埋没により刻々と地形が変化し、あわせて土地利用のあり方も変化していった様子をうかがい知ることができました。とくに近世においては正保の国絵図に描かれたかつての滝寺村の一角を当遺跡が占めていた可能性を指摘できました。

今回の調査成果が、歴史を解明するための資料として広く活用され、埋蔵文化財に対する理解と認識を深める契機となれば幸いであります。

最後に、この調査に関して多大なご協力とご援助を賜った上越市教育委員会ならびに地元の方々をはじめ、日本道路公団新潟建設局（現、北陸支社）・同上越工事事務所に対して厚く御礼申し上げます。

平成16年６月

新潟県教育委員会

教育長　板屋越　麟一

# 例　　言

1　本書は新潟県上越市大字滝寺字蟹沢928番地・字ほき立974番地ほかに所在する蟹沢遺跡の発掘調査記録である。

2　発掘調査は上信越自動車道の建設に伴い、新潟県が日本道路公団から受託して実施したものである。

3　発掘調査は新潟県教育委員会（以下、県教委）が調査主体となり、財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（以下、埋文事業団）が平成７・８年度に調査を実施した。

4　整理および報告にかかる作業は平成15年度に実施し、埋文事業団職員がこれにあたった。

5　出土遺物と整理にかかる資料はすべて県教委が保管・管理している。遺物の註記記号は「ガン」とし、出土地点・層位などを併記した。

6　グリッド杭の打設と地山面の地形測量の一部は有限会社中郷測量に委託した。

7　本書で示す北方位は日本平面直角座標第Ⅷ系（旧座標）のＸ軸方向を指す。

8　作成した挿図・図版のうち、既存の図を使用した場合にはそれぞれにその出典を記した。

9　掲載した遺物の番号は、すべて通し番号とし、遺物実測図版と写真図版の番号は一致している。

10　文中の注釈はページごとの脚注とした。また、引用参考文献は著者および発行年を文中に［　］で示し、巻末に一括して掲載した。

11　本書の編集・執筆は高橋保（埋文事業団調査課整理担当課長代理）・土橋由理子（同班長）が担当した。ただし、第Ⅱ章２は県教委・埋文事業団の既刊報告書［小田2003］［北村2001］を一部改変して転載した。執筆分担は第Ⅳ章１～４、第Ⅴ章１、2Bが高橋、ほかは土橋である。編集は土橋が行った。

12　本書作成作業の一部は株式会社セビアスに委託した。詳細は第Ⅰ章に記す。

13　本遺跡については『埋文にいがた』［高木1996］、『新潟県埋蔵文化財調査事業団年報』［高木1997］に記載されているが、本書の記述をもって正式な報告とする。上記『年報』等と本書に齟齬がある場合は、本書の記述をとるものとする。

14　遺物のうち、古代土師器・須恵器に関しては、笹澤正史氏（上越市教育委員会）、緑釉陶器に関しては井上喜久男氏（愛知県陶磁資料館）、尾上善裕氏（京都国立博物館）、平尾政幸氏（財団法人京都市埋蔵文化財研究所）から土器の見方、年代観、様相等の指導を得た。また中世青花に関しては、鶴巻康志氏（新発田市教育委員会）、近世土器に関しては、大橋康二氏（九州陶磁文化館）、渡邊ますみ氏（新潟市教育委員会）、安藤正美氏（見附市教育委員会）、伊藤啓雄氏（柏崎市教育委員会）、相羽重徳氏（株式会社古田組）、宮田進一氏（財団法人富山県文化振興財団）から、それぞれ土器の見方、年代観の御指導を得、報告書に反映させた。

15　発掘調査から本書の製作に至るまで、下記の方々から多大な御教示を賜った。厚く御礼申し上げる（敬称略　五十音順）。

相羽　重徳　　安藤　正美　　伊藤　啓雄　　井上喜久男　　大橋　康二　　尾上　善裕　　小島　正巳
小島　幸雄　　笹澤　正史　　高橋　　勉　　鶴巻　康志　　平尾　政幸　　宮田　進一　　渡邊ますみ

# 目　　次


## 第Ⅰ章　序　　説

1　調査に至る経緯 …… 1

2　調査の経過と体制 …… 1
A　一次調査 …… 1
B　二次調査 …… 2
C　調査体制 …… 3

3　整理の経過と体制 …… 3
A　経　　過 …… 3
B　整理体制 …… 4

## 第Ⅱ章　遺跡を取りまく環境

1　地質的環境 …… 5

2　歴史的環境 …… 5

## 第Ⅲ章　層序と遺構

1　グリッドの設定 …… 8

2　層　　序 …… 9
A　基本層序 …… 9
B　沢 …… 9
C　地形改変に伴う土層堆積状況 …… 10

3　遺　　構 …… 10
A　概　　要 …… 10
B　各　　説 …… 10
1）井　　戸 …… 10
2）畝状遺構 …… 11
3）炭　　窯 …… 11
4）土　壙　墓 …… 12
5）土坑・ピット …… 12
6）溝状遺構 …… 13
7）その他の遺構 …… 13

## 第Ⅳ章　遺　　物

1　遺物の取り扱い …… 14

2　古　　代 …… 14
A　器種分類 …… 14
1）須　恵　器 …… 14
2）土　師　器 …… 16
3）緑釉陶器 …… 17
4）灰釉陶器 …… 18
B　遺構（SK21）出土土器 …… 18

3　中　　世 …… 18
1）珠　洲　焼 …… 18
2）越　　前 …… 18
3）青　　磁 …… 18
4）白　　磁 …… 18

5）青　　花 …… 18

4　近　　世 …… 19

1）肥前系磁器 …… 19　　2）肥前系陶器 …… 19

3）越 中 瀬 戸 …… 20　　4）瓦 …… 20

5　その他の遺物 …… 21

A　縄文時代の遺物 …… 21

B　古代以降の石器等 …… 21

## 第Ⅴ章　ま　と　め

1　遺　　物 …… 23

A　古代・中世 …… 23

B　近　　世 …… 23

1）個体数の算出 …… 23　　2）産地別割合 …… 24

2　遺跡の性格 …… 25

A　地形改変と土地利用 …… 25

B　遺跡の性格 …… 26

《要　　約》 …… 27

《引用・参考文献》 …… 28

《観　察　表》 …… 30

## 挿 図 目 次

第 1 図　一次調査トレンチ位置図 …… 2

第 2 図　周辺の遺跡分布 …… 7

第 3 図　グリッド設定図 …… 8

第 4 図　炭窯の分類 …… 11

第 5 図　時代別出土土器量分布図 …… 15

第 6 図　粉挽臼の各名称と細部の分類 …… 22

第 7 図　産地別器種割合図 …… 24

第 8 図　遺跡周辺の小字名（大字滝寺）…… 26

## 表　目　次

第 1 表　周辺の遺跡地名表 …… 6

第 2 表　古代土器分類表 …… 16

第 3 表　口縁部残存率による個体数識別（a）と底部数、文様等による個体数識別（b）の比較 …… 24

第 4 表　産地別土器量比較表 …… 24

## 図 版 目 次

［図面図版］

図版 1　遺構全体図

図版 2　分割図（1）

図版 3　分割図（2）

図版 4　分割図（3）

図版 5　メインセクション図（1）

図版 6　メインセクション図（2）

図版 7　地形改変模式図

図版 8　沢セクション図（1）

図版 9　沢セクション図（2）

図版10　遺構個別図（1）

図版11　遺構個別図（2）
図版12　遺構個別図（3）
図版13　遺構個別図（4）
図版14　古代の土器（土師器・須恵器）
図版15　古代の土器（須恵器）
図版16　古代の土器（土師器）
図版17　古代の土器（土師器）
図版18　古代の土器（土師器・緑釉陶器・灰釉陶器）
図版19　中世の土器（珠洲焼・青磁ほか）
図版20　近世の土器（肥前系磁器・陶器）
図版21　近世の土器（肥前系陶器）
図版22　近世の土器（肥前系陶器）
図版23　近世の土器（肥前系陶器・越中瀬戸）　瓦
図版24　近世の瓦、縄文時代の石器、中近世の石製品ほか
図版25　中近世の石製品、炉壁、刀子

［写真図版］

図版26　整地面
図版27　沢、盛土、土塁
図版28　SK30、SK31、SK33、SK20、SK13
図版29　SK13、SK14、SK19、SK28
図版30　SK29、SK22、SK25、SK26・27
図版31　SK11・12、SK23、SK24
図版32　SK21、Pit8
図版33　SK5、SK32、SK1、SK2、SD2
図版34　SD8、SD7、SD6、SD3、畝状遺構
図版35　古代の土器（土師器・須恵器）
図版36　古代の土器（土師器）
図版37　古代・中世の土器（土師器・灰釉陶器・緑釉陶器、珠洲焼・青磁ほか）
図版38　中近世の土器（青花、肥前系磁器・陶器）
図版39　近世の土器（肥前系陶器）
図版40　近世の土器（肥前系陶器・磁器）
図版41　近世の土器（肥前系陶器）
図版42　近世の土器（肥前系陶器・越中瀬戸）
図版43　近世の瓦、縄文時代の石器、中近世の石製品ほか
図版44　古代～近世の石製品、炉壁、刀子

# 第Ⅰ章　序　　説

## 1　調査に至る経緯

上信越自動車道（旧名称は関越自動車道上越線。以下、上信越道と略す）は群馬県藤岡ジャンクションから新潟県上越ジャンクション間の総延長203kmにわたる高速自動車道である。本路線は、関越自動車道と北陸自動車道を結ぶ基幹輸送体系として、また、沿線地域の各種開発整備計画と関連して社会経済活動に大きな役割を果たすものである。

蟹沢遺跡に係る上信越道第十一次施工命令区間（新潟県中頸城郡中郷村～新潟県上越市）は、昭和48年11月に基本計画が、平成元年１月に整備計画がそれぞれ決定され、平成２年に施工命令が出された。施工命令に先立ち、県教委は公団の依頼を受けて平成２年４月に第十一次区間３市町村（中郷村・新井市・上越市）の踏査を行い、周知の遺跡18か所、新発見遺跡10か所、遺跡推定地25か所の埋蔵文化財包蔵地が存在することを確認し、この結果を公団に通知している。この時、用地内に存在する観音平・天神堂古墳群、斐太遺跡、春日山城跡（以上、国指定史跡）、鮫ヶ尾城跡（県指定史跡）が現状保存に値する遺跡であることなどの意見を添えている。

蟹沢遺跡は周知の遺跡ではなかったが、土塁状の高まりがあり、地形的に遺跡である可能性が高いことから、推定地No.21として報告された。取り扱いは要試掘とされた。

その後、平成６年10月に再度踏査を行い、珠洲焼・唐津焼が表面採集されたため、「蟹沢遺跡」として県教委の遺跡台帳に登録した。種別は集落跡、時代は中世～江戸時代とされた。

一次調査（確認調査）は平成７年10・11月に4,000m$^2$を対象に実施した。実質調査面積は200m$^2$である。調査の結果、丘陵部に地形改変に伴う削平の痕跡を検出し、須恵器・土師器・珠洲焼・近世陶器などが出土した。県教委は一次調査の結果を受けて3,320m$^2$について二次調査（本発掘調査）が必要であると公団に通知した。二次調査は平成８年４～９月に実施した。

## 2　調査の経過と体制

### A　一 次 調 査

平成７年度に4,000m$^2$を対象に調査を実施した（第１図）。調査は対象地の任意の位置に試掘坑（トレンチ）を設定し、バックホーを使用して徐々に掘り下げながら、調査員による精査を併行して行い、遺構・遺物の有無、土層の堆積状況を確認する方法で行った。

対象地の地形は大きく水田部と丘陵部に分けられる。水田部は近年耕地整理が行われ、大きく撹乱されていた。調査では遺物包含層に相当する層が検出されたが、遺物は須恵器片が１点出土したのみであった。丘陵部では削平等の地形改変が認められ、土師器・須恵器・珠洲焼・鍛冶滓・近世陶器・砥石等の遺物が出土した。

地元の伝承によれば、調査対象地を含む一帯は中世の上杉氏の時代頃に滝寺集落があったとされ、珠洲焼などの中世陶器の出土は伝承を証明できる資料となる可能性が考えられた。また、地形改変も認められ

ることから建物跡が存在した可能性が高く、ほかに平安時代の土師器がまとまって発見されていることから平安時代の遺跡と重複している可能性が考えられた。一次調査では土坑等が検出されなかったので遺跡の性格については判然としなかったが、集落遺跡である可能性が強まった。よって、二次調査を行う必要があると判断された。

## B　二 次 調 査

二次調査は平成８年４月15日～９月12日に実施した。

４月16日～22日に現況の地形測量を実施し、22日～24日にバックホーによる表土除去を行った。地形把握のための試掘トレンチを入れながら包含層掘削を進めていくうちに、当初の対象範囲外の南側にも遺跡が広がる恐れが出てきた。このため、５月上旬に該当部分に試掘トレンチをいれた。この結果、住居跡らしき落込みが検出され、土師器片が多数出土したので、５月17日に調査面積を約500m$^2$拡張することとした。このため二次調査面積は3,750m$^2$となった。

５月下旬には舌状部で沢が検出され、さらに、沢の埋土の上に盛土されている可能性が出てきたため、周辺を中心に遺構精査を行った。６月は遺構精査を中心に作業を進め、井戸や土坑・炭窯などを検出した。遺構には仮名称・仮土層番号を付して遺物の取り上げ・図面記録の作成を行った。７月は遺構および沢の埋土の掘削を行い、８月上旬には沢を完掘した。８・９月は遺構図面作成と出土遺物の水洗を主に行い、併行して次に展開する炭山遺跡の準備作業をすすめた。９月９日までに全ての作業を終了し、現場を撤収した。

調査終了後、仮遺構名・仮土層番号を整理して最終的な遺構名称・土層番号を決定し、これに基づいて遺物に註記した。

第１図　一次調査トレンチ位置図

## C　調 査 体 制

**一次調査**

| | |
|---|---|
| 調査期間 | 平成７（1995）年10月31日～11月２日 |
| 調査主体 | 新潟県教育委員会（教育長　平野清明） |
| 調　　査 | 財団法人　新潟県埋蔵文化財調査事業団（理事長　平野清明） |
| 管　　理 | 藍原　直木（事務局長） |
| | 山上　利雄（総務課長） |
| 庶　　務 | 泉田　　誠（総務課主事） |
| 調査総括 | 亀井　　功（調査課長） |
| 調査指導 | 藤巻　正信（調査課調査第一係長） |
| 調査担当 | 田海　義正（調査課主任調査員） |
| 調査職員 | 三ッ井朋子（調査課文化財調査員） |

**二次調査**

| | |
|---|---|
| 調査期間 | 平成８（1996）年４月15日～９月12日 |
| 調査主体 | 新潟県教育委員会（教育長　平野清明） |
| 調　　査 | 財団法人　新潟県埋蔵文化財調査事業団（理事長　平野清明） |
| 管　　理 | 藍原　直木（事務局長） |
| | 山上　利雄（総務課長） |
| 庶　　務 | 泉田　　誠（総務課主事） |
| 調査総括 | 亀井　　功（調査課長） |
| 調査指導 | 藤巻　正信（調査課調査第一係長） |
| 調査担当 | 高木　　裕（調査課主任調査員） |
| 調査職員 | 三ッ井朋子（調査課文化財調査員） |
| | 加藤　　学（調査課文化財調査員） |

# 3　整理の経過と体制

## A　経　　過

出土遺物の水洗・註記作業は、発掘調査中および発掘調査終了後に調査現場・埋文センターで行った。註記は手書きのほか、インクジェット方式による註記機械を併用した。

平成９年度には遺構図面の基礎整理と遺構出土遺物の註記作業を行った。

報告書作成作業は、埋文センターにおいて平成15年度に実施した。作業内容は以下の通りである。

**遺物**　事業団職員が、接合および実測遺物の選出・図化・トレース・写真撮影を行った。写真撮影にはデジタルカメラ（ニコンD100）を使用した。

**遺構**　遺構の製図作業は、原図および仮版作成を事業団職員が行い、トレース・版組みを株式会社セビアスに委託した。

**版下作成・印刷製本**　版下作成から印刷製本にかかる作業については、デジタル化に適応して従前の手法を転換し、トレースの一部と版構成作業を株式会社セビアスに委託するとともに、印刷業者の作業を印刷・製本に限定した。委託した業務は遺構図面などのコンピュータトレースと従来印刷業者が行っていた版構成作業一般であり、埋文事業団は本文・図版のレイアウトを含む編集作業を行い、以下の資料を支給した。

本 文 ・ 挿 図：テキスト形式・Microsoft社Excel形式のデータ、貼り込み版下

遺構図面図版：原図コピー・レイアウト図案・文字データ

遺物図面図版：個々のトレース図・レイアウト図案・拓影・文字データなど

遺構写真図版：遺構写真のCD－R・レイアウト図案

遺物写真図版：遺物写真のCD－RW・レイアウト図案

## B　整理体制

### 平成9（1997）年度

| | |
|---|---|
| 整理主体 | 新潟県教育委員会（教育長　平野清明） |
| 整　　理 | 財団法人　新潟県埋蔵文化財調査事業団（理事長　平野清明） |
| 総　　括 | 須田　益輝（事務局長） |
| 管　　理 | 若槻　勝則（総務課長） |
| 庶　　務 | 泉田　　誠（総務課主事） |
| 整理総括 | 亀井　　功（調査課長） |
| 整理指導 | 藤巻　正信（調査課調査第一係長） |
| 整理担当 | 高木　　裕（調査課主任調査員） |

### 平成15（2003）年度

| | |
|---|---|
| 整理期間 | 平成15年4月1日～平成16年3月31日 |
| 整理主体 | 新潟県教育委員会（教育長　板屋越麟一） |
| 整　　理 | 財団法人　新潟県埋蔵文化財調査事業団（理事長　板屋越麟一） |
| 総　　括 | 黒井　幸一（事務局長） |
| 管　　理 | 長谷川二三夫（総務課長） |
| 庶　　務 | 高野　正司（総務課班長） |
| 整理総括 | 藤巻　正信（調査課長） |
| 整理指導 | 高橋　　保（調査課整理担当課長代理） |
| 整理担当 | 土橋由理子（調査課班長） |
| 作　　業 | 和泉裕子　小熊洋子　小倉睦子　小林智美　笹川陽子　島倉はるみ　田口和子　中川祥子　柳谷栄子<br>吉原智子　渡辺和子（以上、嘱託員） |

# 第Ⅱ章　遺跡を取りまく環境

## 1　地質的環境

蟹沢遺跡の所在する上越市大字滝寺は新潟県上越地域土地分類基本調査の「高田西部」に含まれる［新潟県農地部農村総合整備課1980］。当地域の大部分を占める西頸城山地では地滑りが多発しており、山地斜面のほとんどは地滑り、もしくは崩壊していると考えられている［鈴木1980］。

蟹沢遺跡は西頸城山地の中でも、中ノ俣・綱子山地に区分される地域から東へ連続する春日山丘陵に位置する。地形分類では起伏量200m以下の小起伏山地に分類され、北側は谷底平野に接し、急激に標高を下げる。遺跡の北約30mには丘陵を刻むように流れる大瀬川支流の不動川が東流しており、小規模な沖積面が形成されている。

中ノ俣・綱子山地では個々の地滑り地形が小さく、比高も100m以下のものが密に分布している。現在も地滑りブロックは動いており、斜面を著しく緩やかなものにしている。春日山丘陵では地滑りは北東斜面、崩壊地形は南東斜面に分布するが、山地に比べて少ない。［鈴木前掲］。

遺跡周辺の表層地質は、春日山丘陵が泥岩・砂岩の互層である能生谷層（新第三系、固結堆積物）、谷底平野が泥・砂・砂礫からなる氾濫原堆積物（第四系、未固結堆積物）である［津田ほか1980］。遺跡はこの接点にあって、不安定な地盤であったと推定され、調査でも地滑りの痕跡を検出している。

## 2　歴史的環境（第２図）

蟹沢遺跡の所在する頸城地方は、古代から越後国の政治の中心であり、奈良・平安時代の遺跡が多く存在する。上越市周辺にはいまだ所在が明確でない越後国分寺の有力候補地である本長者原廃寺跡をはじめ、国府や国分寺に関連すると思われる遺構群を検出した下新町・今池遺跡群、郡衙的要素を持つ新井市栗原遺跡などの地方行政に係る遺跡が多く、古代の越後を考える上で重要な地域である。また、蟹沢遺跡近隣には丘陵端部という斜面地形を生かした窯跡が点在し、政治とともに生産面においても拠点的な役割を果たしていたと考えられる。

中世に入ると、越後国は源頼朝の知行国となり、鎌倉幕府による支配が強まっていく。その後、南北朝の争乱の中で貞治元年（1362）に上杉憲顕が国司・守護兼帯となり、国府を掌握し守護代長尾氏とともに越後の支配体制を確立していくことになる。以後、永禄４年（1561）に謙信が上杉憲政から上杉の名跡と関東管領職を譲り受けるまで、守護上杉氏、守護代長尾氏による阿賀野川以南の越後支配が続けられる。鎌倉時代以前の越後国府は、『和名類聚抄』に「国府在頸城郡」とあることから、10世紀前半には頸城郡に所在していたことは明らかであるが、具体的な比定地は諸説あるものの確定はしていない。しかし、仁治２（1241）年の『法橋庄円奉書写』に「府中」がみえており、それ以降は文献中にも府中・府内が散見されるようになる。少なくとも鎌倉時代前期には、現在の直江津地区に国府がおかれていた可能性が考えられている。府中には嘉暦２年（1327）創建と伝えられる時宗の応称寺（後に称念寺）、至徳年間（1384～1387）創建の至徳寺、足利尊氏の発願により全国に設けられた安国寺などの寺院が集中し、南北朝期に

は政治・文化の中心となっていた。その後、中世を通して守護代長尾氏の本拠地となる春日山城も、14世紀までには府中守護所の要害として築城されていた可能性が指摘されている［金子1993］。

16世紀に入ると、永正４年（1507）からの永正の乱や享禄３年（1530）の享禄の乱を経て、守護代長尾為景が守護上杉定実から実質的な支配権を奪取し、天文17年（1548）に子の景虎が家督を相続することになる。景虎はその後謙信と名を改め、越後国内の統一と周辺諸大名との領国争奪戦を繰り返す。また、謙信没後に起こった御館の乱（1578年）で勝利し上杉家を継いだ景勝は、秀吉に臣従して豊臣大名化していくが、この過程において春日山要害は郭群の増設、門・城道などの整備を進め、次第に戦国期城郭として居城化した春日山城へと強化されていく。最終的な府中の範囲は、春日山城と御館の所在する直江津を含めて関川と正善寺川に挟まれた約4km四方の地域と想定されている［小島1989］。

上杉景勝が米沢に移封された後、春日山城主であった堀秀治は直江津に福島城を築城し、慶長12年（1607）に完成した。福島城には春日山城を廃した堀忠俊が入っている。

慶長15年（1610）、堀氏の改易に伴って松平忠輝が信濃国川中島から福島城に入った。当時は上杉遺民一揆鎮圧の時期であり、越後は加賀前田氏の監視の要地であった。このような時代的要請に応えて75万石城主の居城にふさわしい高田城の築城が計画された。工事は伊達正宗（松平忠輝夫人五郎八姫の父）が普請総裁となり、主として北信濃・奥羽の13大名にそれぞれ地域を分担させ、慶長19（1614）年に着工し、わずか４か月で竣工した国役普請であった。本丸には天守閣がなく、三層の櫓を城のシンボルとし、石垣はなく土塁で固めた。内堀は薬研堀で、外堀は関川の褶曲部を利用している［久保田1991］。

このように越後支配の要地であった当地には、京都や江戸に通じる街道が整備されてきた。上杉謙信の重要政策の一つに交通政策があり、街道の普請はもとより、伝馬宿送制度の整備にも力を注いだ。景勝もこれを継承し、さらに北陸道・北国街道・奥州街道・松之山街道を幹線街道として整備した。あわせて河川交通の保護に努め、城米輸送のための石見・長崎との海上交通も行っていた［亀井1991］。

近世に入ると、北陸街道（加賀街道）・北国街道として確立し、整備が進められる。

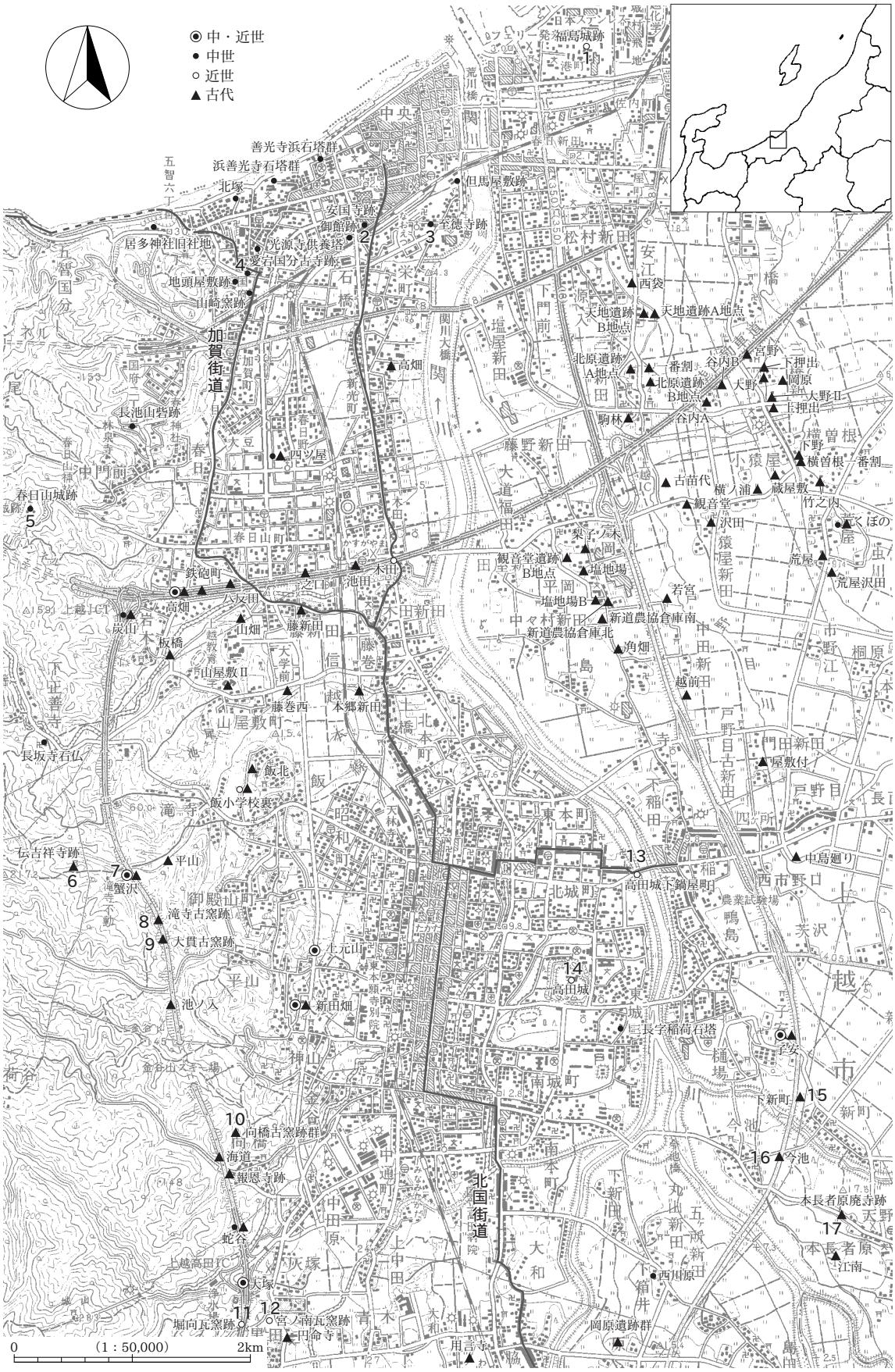
松平忠輝は福島城入封早々から積極的な交通政策を展開した。「江戸・駿河如御仕置」として天下の大法に基づいて人馬の確実な継立と多用される宿場の保護が強力に推進され、幕藩制的宿駅体制へと編成されていった。高田城築城にあたり、伊達正宗もこの街道を利用して高田入りしている。

寛永元年（1624）、高田藩主となった松平光長も北国街道の宿駅機能の拡充を図った。新井宿に出された定書や、万治３年（1660）に松崎宿や二俣宿などに通達された「馬宿作法定書」には、中世以来の問屋特権の限定、宿別の庄屋給の確定、小百姓の保護など、それまでの掟を踏襲しつつも、さらに具体的で近世的な農民支配の方向が示されている。ここに北国街道の宿駅体制は確立した。このような動向にあわせて北国街道の沿道には、街道の助成村として新田村の村立が推進された［山本1991］。

蟹沢遺跡は春日山城・高田城まで直線距離で約4km、街道筋まで2.5kmという場所にあり、南に約4kmの所には高田城の瓦を焼いた瓦窯跡が点在する。このような立地から、時代の流れの影響をいち早く受けてきたと考えられる。

| 番号 | 遺跡名 | 時代 | 番号 | 遺跡名 | 時代 | 番号 | 遺跡名 | 時代 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 福島城跡および城下 | 江 | 7 | 蟹沢遺跡 | 平～江 | 13 | 高田城下鍋屋町遺跡 | 江 |
| 2 | 安国寺跡 | 南～安 | 8 | 滝寺古窯跡 | 奈～平 | 14 | 高田城跡および城下 | 江 |
| 3 | 至徳寺跡 | 室～安 | 9 | 大貫古窯跡 | 平 | 15 | 下新町遺跡 | 平 |
| 4 | 愛宕国分古寺跡 | 室 | 10 | 向橋古窯跡群 | 奈・平 | 16 | 今池遺跡 | 平 |
| 5 | 春日山城跡および城域範囲 | 室 | 11 | 堀向瓦窯跡 | 江 | 17 | 本長者原廃寺跡 | 奈～平 |
| 6 | 伝吉祥寺跡 | 平 | 12 | 宮ノ南瓦窯跡 | 江 | | | |

**第１表　周辺の遺跡地名表**




**第２図　周辺の遺跡分布**

（国土地理院発行「高田東部」平成11、「高田西部」平成13、「柿崎」平成10、1：50,000原図に［新潟県教育委員会1991a・b］をもとに街道を加筆。遺跡分布図は［上越市史編さん委員会2003aを元に作成）

# 第Ⅲ章　層序と遺構

## 1　グリッドの設定（第３図）

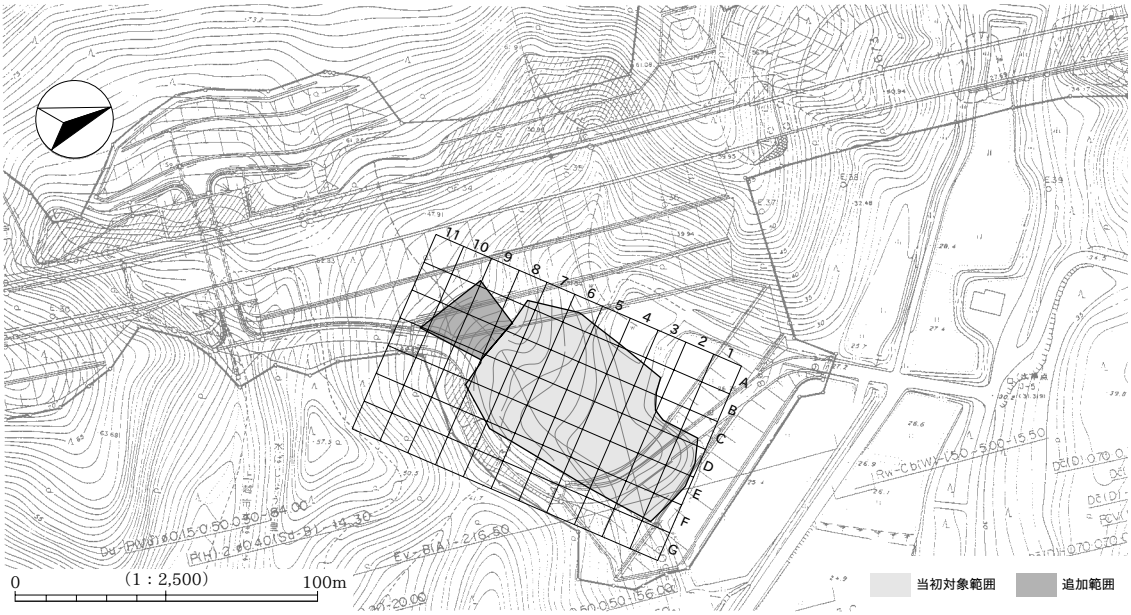
グリッドは地形に合わせて設定した。設定にあたっては、高速道路法線杭STA671+29.5RとSTA671+41.5Rをもとに座標計算を行い、グリッド主軸の２点P.1とP.2を定めた。当遺跡における国家座標の磁針方位は西偏約７°である。本報告書で示す北は国家座標第Ⅷ系のＸ軸方向を指し、グリッド主軸は真北から約42°－21′－54″東偏する（新・旧座標とも共通）。

10m方眼を大グリッドとし、南北方向は北から算用数字を付し、東西方向は西からアルファベットを付して「2F」のように組み合わせて大グリッド名とした。大グリッド杭は北隅に打設した。なお、グリッド主軸の基準としたP.1・P.2はそれぞれ2E杭・8E杭に対応する。

大グリッドを2m方眼に25分割したものを小グリッドとし、1～25の算用数字を付し、大グリッド表示に続けて「19H1」のように表記した（図版1）。

グリッド設定に係る座標値を以下に示す。本遺跡で用いたのは旧座標である。

| 杭 | 日本平面直角座標第Ⅷ系（旧座標） | 〔新座標　JGD2000系（計算値）〕 |
|---|---|---|
| STA671+29.5R | （X＝123742.202、Y＝－24879.862） | 〔X＝124092.8525、Y＝－25160.5673〕 |
| STA671+41.5R | （同X＝123763.911、Y＝－24868.952） | 〔X＝124114.5610、Y＝－25149.6553〕 |
| P.1：2E杭 | （同X＝123818.828、Y＝－24853.404） | 〔X＝124169.4765、Y＝－25134.1072〕 |
| P.2：8E杭 | （同X＝123774.496、Y＝－24893.835） | 〔X＝124125.1453、Y＝－25174.5376〕 |




第３図　グリッド設定図

# 2　層　　序

## A　基本層序

遺跡は地滑り地帯に立地しているため、地山面の様相は一様ではない。沢の埋没や人為的な地形改変を受けて、地山より上位についても場所によって異なる堆積状況を示していた。地形改変等の影響が比較的少ない調査区西側の6Bグリッドでは以下のような堆積状況を示す（図版６のＡ－A'参照）。

Ⅰ層　鈍い黄褐色土　現表土。層厚約10～20cm。

２層　褐色土　　しまり強。粘性やや強。細粒。層厚約10～50cm。

Ⅲ層　灰白色土　　明黄褐色を呈する部分や砂質の部分がある。地山。

基本的には上記のような単純な堆積を示すが、これに盛土や削平、沢の埋め立てなどの地形改変、土砂崩れや沢の埋没等の自然変化が加わり、複雑な状況となっている。そのため離れた地点の土層対比は容易ではなく、地点ごとに層位番号を付して遺物の取り上げや遺構検出面の認識を行った。ただし、離れた地点でも土層対比が可能な場合は共通する土層番号を付した。地点ごとの堆積状況は次項以下の「B　沢」「C　地形改変に伴う土層堆積状況」で述べる。

次項以下の土層説明で提示するセクション図（図版５・６・８・９）では、表土をⅠ層、地山をⅢ層と統一したほかは発掘調査時に付した土層番号を基本的には変更していない。これは、遺物註記がその土層番号に従って行われているため、変更すると対応関係の説明が煩雑になるからである。その代わり、土層註記から同一層と捉えられる土層には共通の網がけをして、対応関係を示した。なお、遺構・遺物の記載で用いる土層番号は最寄のセクション図の土層番号を参照されたい。

## B　沢（図版５Ｅ－E'①、図版６Ａ－A'、Ｂ－B'、Ｄ－D'、図版８・９・27）

調査区の東側を南西から北東に向かって緩やかに蛇行しつつ流れる沢が、長さ約90mにわたって検出された。横断面形はＶ字状を呈し、深さは約2.5～3.0mである。幅は約２～20mで、蛇行部分は太く、直線的に流れる部分は狭くなっている。9C・10Cグリッドでは浅い沢が本流の南側に分岐していた。分岐した沢は幅約３～4m、深さ約45cmで最下層は沢セクションＦ－F'の⑥層に相当する土層であった。この部分は当初、地山とは異なる土から遺物が出土するためSX1として遺構の可能性を含めて調査していたが、進むにつれて沢の一部であることが明らかとなった場所である。

沢の埋土を除去していく過程で５・７・18・20・21層（図版５のＥ－E'①参照）において遺構が検出されているので、埋没過程で比較的安定した地盤となっては土砂崩れ等で埋没することを繰り返していたことがわかる。埋土からは大量の遺物が出土しており、層位ごとにおおむね時期が分かれる。

基本的な堆積は下位から33・32・30・18・15層で、主に古代の遺物を包含する。グリッド６列より南西側にはこの上に中世の遺物包含層である５・７層が堆積する。グリッド５列より北東側の舌状部では、整地に伴う盛土層が形成されている。

9C～6Eグリッドにかけては、底面から約80～120cmは地山を主体とする崩落土によって埋没している。ここに遺物は含まれない。崩落土より上位はレンズ状の堆積状況を示し、沢の流れが運搬してきた土砂が堆積したと推定される。5E～2Fグリッドにかけては底部に地山の崩落土は見られず、流れに伴う土砂の堆積が連続する。ここに遺物が含まれる。2Fグリッドでは植物遺体を大量に含むほぼ水平の堆

積層が形成されている。沢幅が狭まる場所でもあり、ここに湛水するような環境が形成されていた可能性がある。

次に、埋土とそこに包含される遺物の時期の対応関係を示す。時期の詳細は第Ⅳ章を参照願いたい。最下層の33層には9世紀代の遺物を主体に9世紀中葉～11世紀前葉、10世紀後葉～11世紀末葉のものが少数包含される。続く32層は9世紀前葉～末葉、30層は9世紀前葉、10世紀後葉～11世紀前葉の遺物を包含する。これより上位の21・20・18・16層は10世紀前葉～11世紀前葉の遺物を主体に9世紀中葉～末葉の遺物を含む。18層には中世の遺物も少数ながら含まれる。よって、沢の埋没は9世紀前葉に始まり、11世紀代にはほぼ埋没しきっていたと推定される。

### C　地形改変に伴う土層堆積状況（図版5～9・26・27）

沢の埋没後、舌状部において、盛土・切り土などを行い、6面の平坦面が作り出されている（図版7 地形改変模式図参照）。盛土層は中世の遺物包含層（沢5層）や古代の包含層（沢15層以下）を覆い、近世の遺物を包含する。盛土層は、メインセクション図ではD－D'の2-1層、E－E'②・J－J'の②層、B－B'・E－E'①・I－I'（舌状部）の2層、D－D'の舌Ⅱ層などが相当する。

整地の方法は、4・5Fグリッドにおいて東側斜面を切り崩し、この土を平坦面とするべき場所に埋めて地形の凹凸を無くしている。盛土は埋没した沢の上にも及ぶ。ただし、切り崩しによって得られる土だけでは整地に要する土量には満たないので、不足分はほかからの搬入により補ったと推定される。大小の平坦面はおおむね4段に区切られ、最上段は土塁により区画されている。土塁は2か所に築かれており、1つは幅約1.7m、高さ約20cmのL字状を呈する。盛土の上にさらに10cmほどの厚さで土を盛って成形している。もう1つは長さ約6.5m、幅約2.5mの直線的なものである。出土遺物・整地面から近世の造成と考えられるが、整地面で建物跡などの遺構は検出されておらず、造成の目的は不明である。

## 3　遺　　構

### A　概　　要

前節の地形改変のほか、井戸1基、畝状遺構2群、炭窯10基、土壙墓6基、性格不明の土坑13基、溝状遺構7条が検出された。遺構は埋没した沢がある調査区南側から東側にかけて分布し、北側斜面部では検出されなかった。地山面のほか、沢の堆積土中でも検出された。

### B　各　　説

#### 1）井　　戸（図版13・33）

**SD2**

2Fグリッドで検出された。舌状部の東側で、埋没した沢が東方向に大きく迂回する付近に立地する。地山と埋没した沢の北岸の一部を削り出して作出されている。いわゆる横井戸で、湧出部上端が標高約26.7m、そこから幅約2.4mの溝が長さ7m余り伸びて調査区外へ連続する。溝の最低部の標高は約26.5mである。湧水部は直径約1.3mの円形を呈し、深さは約80cmを測る。溝部分は水澄ましおよび湧水の流路のための施設と推定されるが、掘り込みが浅く平面形は明瞭ではない。溝の一部は掘りすぎのため形を掴むことができなかった。

湧水部付近から溝にかけては礫などが敷き詰められていたが、湧水部付近では大きな礫が多く、離れるほど小礫が主体となる。自然石のほかに、石造物の破片や瓦・近世陶磁器、古代の土器・中世の珠洲焼なども利用されていた。図版13に礫出土状況として上・中・下層の図面を提示したが、石組みの作業単位を示すものではなく、発掘調査時に礫を取り上げながら随時作成したものである。

井戸の埋没土の上面を地形改変に伴う盛土層が被覆しているので（a－a'の１層）、井戸の使用時期は地形改変より前であったことがわかる。SD2から出土した陶磁器の年代は1630年代～1690年代および17世紀後半～18世紀前半、瓦の年代は18世紀後半以降であるので、構築時期は18世紀後半以降の可能性がある。

## 2）畝状遺構（図版４・５・34）

畝状遺構とは畑作に伴う畝間跡と理解されている遺構である。畝状遺構は３・4Eグリッドにおいて、地形改変に伴う盛土の下で検出された。長軸がほぼ南北方向を向く「畝状遺構1」と東西方向を向く「畝状遺構2」に大別される。

**畝状遺構１**

長さ約1.2～3.5m、幅約40cmの溝が40～70cm間隔で並列する。西側の５列と東側の５列に大別され、両者の間隔は約2.5mである。東側の一群は南端を新しい沢（図版６のＤ－D'②～④層）に切られている。検出面は中世の遺物包含層（沢５層）を覆う３層（図版５のＥ－E'①）上面である。覆土は地形改変に伴う盛土（2層）である。よってこの遺構の構築時期は地形改変前であり、盛土との間に間層を挟まないことから地形改変と時間的に大きな隔たりはないと推定される。同じく盛土に被覆されるSD2の構築時期を18世紀後半以降としたので、畝状遺構も同時期に構築された可能性がある。

畝状遺構１の西側から北側にかけては、これを囲むようにピットが廻る（Pit1～5）。確認面は畝状遺構と同一である。柵のようなものが立てられていた可能性もある。

**畝状遺構２**

長さ２～6m、幅約30～50cmの溝が30～50cm間隔で並列する。北側の３列と南側の４列に大別され、両者の間隔は3m離れている。検出面・覆土は畝状遺構１と同一である。

## 3）炭　　窯（図版10・28～30）

埋土に焼土や炭化物を多く含んだり、壁面が焼けている土坑を炭窯とした。炭窯は10基検出されたが、いずれも土坑内部に材料となる木材を置き、上を土などで被覆して焼き上げる伏せ焼き炭窯［田口・穴澤1994］と推定される。平面形はⅠ類：円形、Ⅱ類：隅円長方形、Ⅲ類：隅円方形の３種類に分類される。断面形はa類：箱型、b類：皿型に大別される。個々の詳細は観察表に記す。

第４図　炭窯の分類

地山面あるいは沢埋土中での検出であるが、検出面となった沢埋土は古代の遺物包含層でもあるため、炭窯の構築時期も古代の可能性が高い。

### 4）土　壙　墓（図版11・30・31）

SK12・16・25～27の埋土には火葬骨とみられる骨片が含まれていたため、火葬骨を埋葬した土壙墓と判断した。SK25～27は近接していた。SK12に近接するSK11は埋土に骨片を含まないが、埋土や規模がSK12に類似するので、同じく土壙墓の可能性がある。個々の詳細は観察表に記す。

### 5）土坑・ピット（図版11・30～33）

土壙墓６基、性格不明の土坑13基が検出された。ピットも検出されたが、多くは木の根による撹乱の可能性がある。このほかにメインセクションＥ－E'①の「Ｅライン遺構」の③層では須恵器・炉壁・木炭が出土しており、平面的に検出することはできなかったが土坑であると考えられる。個々の詳細は観察表に記す。

**SK24**

確認面で土師器が潰れた状態で出土した。埋土に焼土・炭化物を含むが、壁面に被熱の痕跡はない。

**SK23**

トレンチにより北と西が破壊されている。

**SK21**

不整形の土坑で、土師器片が多量に出土した。出土量は１層1,704g、２層4,351g、３層242g、４層1,113gである。このほか２層には炉壁の小破片や径５～25cmの円礫・扁平礫、同大の被熱し破砕した角礫が平箱２箱分含まれていた。出土状況は破片が密集するような状況であるので、廃棄されたものと推定される。周囲には炭窯が多数分布するので、被覆する土を供給したなど、炭窯と何らかの関係がある土坑かもしれない。出土した土師器の時期は10世紀後葉～11世紀末葉である。

**SK15**

炭化物を含む不整形の土坑。検出面が中世の遺物包含層（沢５層）であるので、中世以降の構築であると推定される。

**SK3・4・10・5・8・9**

2Dグリッドにおいて集中して検出された。いずれの土坑からも近世の遺物が出土した。規則的な配列は認められず、性格は不明である。SK10は底面がしっかり焼けていた。

**SK32・1・2**

1E・Ｆグリッドで近接して検出された。SK2からは近世の遺物が出土した。舌状部の遺構埋土の最上層には小石を含む傾向が認められ、この中には確実に近世に属するものがあることから、同様の埋土を有するSK32・１・２も近世の所産である可能性が高い。

**Pit8**

小さなピットであるが、中央に周囲に存在しない礫が入っているので、何らかの意図があって埋められたものと推定される。

## 6）溝 状 遺 構（図版２～４・34）

溝状遺構は７条検出された。沢岸の傾斜変換点に沿ってSD3～６のような幅20～30cmの溝が断続的に検出されているのが目に付くが、性格は不明である。畝状遺構１の南側に新しい小規模な沢が形成されているが、これと同様に旧地形のわずかに標高が低い部分を水が流れ下った痕跡の可能性もある。

**SD7・8**（図版２）

7B・8B・8Cグリッドの地山面で検出された。幅約50cm、深さ15～35cmのほぼ南北方向に伸びる溝である。途中3mほど途切れるが、この北側をSD8、南側をSD7と称する。SD7は南端が沢に合流する。正確な用途は不明であるが底面のレベルが北から南へ向かって若干下がっていくので、排水に関わる施設であった可能性がある。

**SD6**（図版３）

6Dグリッドの18層で検出された。長さ約2.8m、幅約30cm、深さ約15cmの北東ー南西方向に伸びる溝である。埋土に土師器片を含む。SK17・18が近接し、長さ約90cm、幅約40cm、深さ約15cmの不整形の土坑を切る。出土遺物や検出面から、構築時期は平安時代と考えられる。

**SD4**（図版３）

5Eグリッドの沢５層で検出された。東斜面から平坦部へ移行する傾斜変換点付近に立地する。長さ約3.5m、幅約20cmでほぼ東西方向に伸びる。構築時期は、中世の遺物包含層である沢５層に構築されていることから、中世以降と推定される。

**SD1**（図版４）

1Eグリッドの舌状部が北側に向かって張り出す先端斜面部で検出された。長さ約4m、幅約1.2m、深さ約20cmの溝が斜面に直行する形で掘られ、これに平行する形で斜面下側に皿状の平坦部が形成されている。平坦部には小礫を含む土が敷き詰められている。平坦部は溝の北側にも廻り、あわせて径1.1～1.3m、深さ約20cmの土坑２基が掘られている。埋土から近世の遺物が出土した。

斜面を段切りするように形成されていることや、埋土に滑り止めとも解釈できる小礫を含むことから、道あるいは階段のような役割を果たしていた可能性がある。同じ傾斜変換点上に並び、SD1と類似する埋土を持つSK1・2・32も関連がある遺構の可能性がある。

**SD3**（図版４）

4Eグリッドの地山で検出された。検出した部分の長さは9.2mであるが、本来はこれより長いと推定される。幅は30～60cm、深さは約15cmである。出土遺物はない。

## 7）その他の遺構（図版11）

**炭化物集中**

径70～80cmの範囲で炭化物の集中が見られた。きわめて浅く、垂直方向の広がりは認められない。

# 第Ⅳ章　遺　　物

## 1　遺物の取り扱い

出土遺物は平箱（約54×34×10cm）約80箱であるが、主体を占めるのは古代で、続いて近世、中世があり、縄文時代の遺物も若干認められる。遺構は明確なものは少なく、多くは谷筋の包含層からの出土である。発掘調査時の現況は山林および荒れ地で、削平による段がいくつか認められる。第5図は、古代、中世、近世別の遺物量（破片数）分布図である。共通して言えることは、いずれの時代の遺物も、その多くが東側の谷筋に集中し、段切りされた舌状平坦部にはほとんどないことである。段切りされた平坦部に近世の遺構もほとんど存在しないことからすると近世以降に段切りが行われた可能性が高い。

遺構からの出土はほとんどなく、断片的なもののみであり一括性に乏しいことから、記述は古代の遺物が比較的まとまっていたSK21を除いて、包含層、遺構出土を一括で扱うことにした。SK21以外の遺構出土遺物は遺物観察表で確認されたい。

## 2　古　　代（図版14～18）

以下に器種分類と年代観の概略を記す。年代観については、上越市史［笹澤2003a］によった。

Ⅰ期（6世紀後葉～7世紀前葉）　　Ⅵ期（9世紀中葉～9世紀末葉）
Ⅱ期（7世紀中葉～8世紀初頭）　　Ⅶ期（10世紀前葉～10世紀中葉）
Ⅲ期（8世紀前葉～8世紀中葉）　　Ⅷ期（10世紀後葉～11世紀前葉）
Ⅳ期（8世紀後葉～8世紀末葉）　　Ⅸ期（11世紀中葉～11世紀末葉）
Ⅴ期（9世紀前葉）

### A　器種分類（第2表）

#### 1）須　恵　器

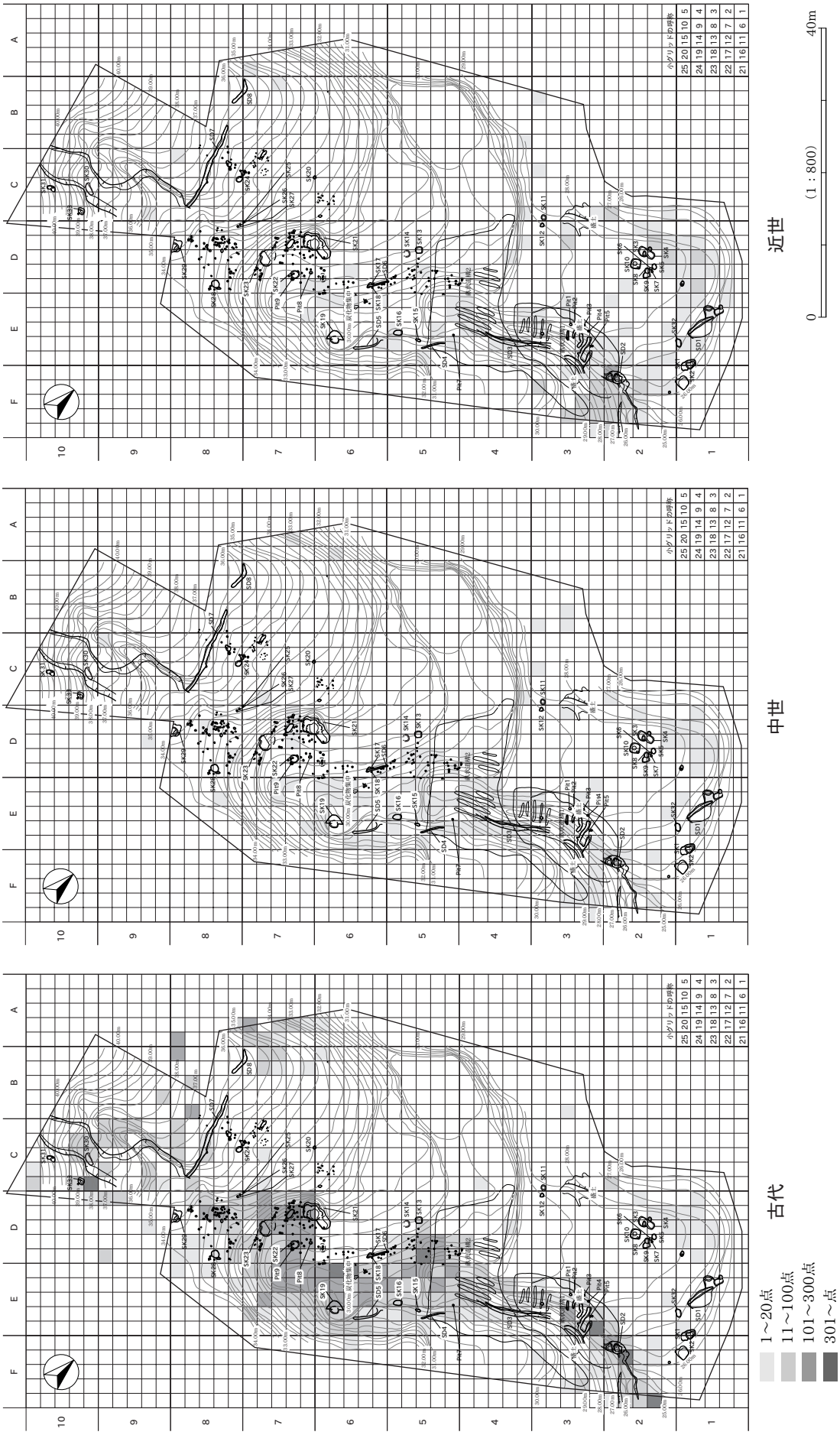
**杯Ⅰ類**（19～26）　口径13cmと小さく、器高指数30前後となるものである。全て糸切りで下半部に強いヨコナデが施される。胎土やや白っぽく、19等には火襷が認められる。24～26も便宜上当類に含めた。同類は上越市縄手遺跡［笹澤2003b］等にあり、年代はⅤ期（9世紀前葉）くらいであろう。

**杯Ⅱ類**（18）　1点である。Ⅰ類より器高指数低いものである。底部厚く、切り離し不明。Ⅰ類より古い器形でⅣ期にあたる。

**有台杯Ⅰ類**（27～31）　口径10～12cmと小さく、身部立ち上がり直線的で浅いものである。底部篦切りのものa類（27）と底部糸切りのものb類（28～31）がある。b類は特徴的な器形で隣接する滝寺窯跡出土品に類似する。Ⅴ期の範疇であろう。a類もほぼ同時期であろう。

**有台杯Ⅱ類**（32）　1点のみである。口径16cmと大きく、深みのものである。糸切り。滝寺窯跡出土品に類似する。Ⅴ期。

**杯蓋Ⅰ類**（33～41）　口径13～14cm、丸みがなく中央やや窪む。端部受け口部垂直に落ちる。33は




第５図　時代別出土土器量分布図

やや小さく、36・40やや大きい。41は全くの酸化炎焼成であるが、当類に含めた。時期限定は難しいが、およそⅤ～Ⅵ期であろう。

**杯蓋Ⅱ類**（42）　つまみが円環状となるものである。

**杯蓋Ⅲ類**（43）　天井部やや丸みをもち、端部折り返しがないものである。1点のみ。

**脚部**（44）　1点のみ。脚部長く、外面磨き、内面は円筒状に突き抜ける。やや特殊。器台または、鳥形等の脚部であろうか。

**高杯**（45）　1点のみ。脚部のみである。脚部短く、ハの字状に開く。類似の脚部は、近接の滝寺窯跡出土品にある。Ⅴ期。

**長頸瓶Ⅰ類**（48～50）　全体は窺い知れないが、やや大ぶりのもの。50も同類と考えられるが、底部に叩き痕が残存する。

**長頸瓶Ⅱ類**（46・47）　全体は窺い知れないが、やや小ぶりのもの。

**広口瓶**（51）　1点である。肩部に丸みを持ち、底部は大きい。

**横瓶**（52・53）　いずれも破片である。内面格子叩き。

**甕**（54～59）　いずれも破片。55は口縁部外面に波状文を施す。この波状文や口縁端部形態は滝寺古窯跡出土品にも存在する。56～59は体部破片。56内外面が格子叩き。他は同心円文叩きである。

| 種　別 | 器　種 | 分　類 | | 特　　徴 |
|---|---|---|---|---|
| 須恵器 | 杯 | Ⅰ類 | a | 器高指数30前後、底部に厚み |
| | | | b | 糸切り、器高指数30前後 |
| | | Ⅱ類 | | 糸切り、Ⅰ類より器高指数低い |
| | 有台杯 | Ⅰ類 | a | 篦切り、立ち上がり直線的 |
| | | | b | 糸切り、立ち上がり直線的 |
| | | Ⅱ類 | | 器高指数高い |
| | 杯蓋 | Ⅰ類 | | 天井部やや窪み、宝珠状つまみ |
| | | Ⅱ類 | | 円環状つまみ |
| | | Ⅲ類 | | 端部返りなし |
| | 脚部 | | | 脚部長いもの |
| | 高坏 | | | 脚部短いもの |
| | 長頸瓶 | Ⅰ類 | | 体部最大径18cm前後 |
| | | Ⅱ類 | | 体部最大径13cm前後 |
| | 広口壺 | | | |
| | 甕 | | | |
| | 横瓶 | | | |
| 土師器 | 椀 | Ⅰ類 | a | 口径13cm以下、器高指数30以下、厚手 |
| | | | b | 薄手 |
| | | Ⅱ類 | | 口径15cm前後、器高指数30以下 |
| | | Ⅲ類 | | 口径15cm前後、器高指数30～35 |
| | | Ⅳ類 | | 口径10～13cm、器高指数35～40 |
| | | Ⅴ類 | | 口径10～13cm、器高指数40以上 |
| | | Ⅵ類 | | 口径17cm以上、器高指数40前後以上 |
| | 有台椀 | | | |
| | 鉢 | | | |
| | 有台鉢 | | | |
| | 鍋 | Ⅰ類 | | 口径25cm以下 |
| | | Ⅱ類 | | 口径25cm以上で深いもの |
| | | Ⅲ類 | | 口径25cm以上 |
| | 長釜 | | | |
| | 小釜 | | | |
| 緑釉陶器 | Ⅲ | | | |
| 灰釉陶器 | Ⅲ | | | |
| | 壺 | | | |

**第2表　古代土器分類表**

## 2）土　師　器

**椀Ⅰ類**（60～72）　口径13cm以下。器高指数30以下と浅いものである。全てヨコナデ、糸切り調整である。体部が直線的なもの（60～64）とやや丸みのあるもの（65～69）とがある。70～72は器壁薄くb類として細分した。同類は上越市一之口遺跡東地区SD1’に多く出土している［鈴木1994］。Ⅷ期であろう。

**椀Ⅱ類**（73・74）　口径15cm前後で、器高指数30以下のもの。ヨコナデ、糸切り。73は内黒である。Ⅰ類より古いであろう。

**椀Ⅲ類**（75～81）　口径15cm前後で、器高指数30～35のやや深いもの。ヨコナデ、糸切り。体部に丸み。子安遺跡SI354［笹澤2003c］や新田畑SD38［笹澤2003d］に近いであろうか。Ⅵ後半～Ⅶ期？

**椀Ⅳ類**（82～91）　口径10～13cmで、器高指数35前後～40と小ぶりでやや深いもの。体部丸みを持つ。ヨコナデ、糸切り。同類は、今池遺跡SD3Ⅳ層［坂井1984］に認められる。Ⅵ～Ⅶ期。

**椀Ⅴ類**（92～96）　口径10～13cmで、器高指数40以上と小ぶりで深いもの。体部丸みを持つ。ヨコナデ、糸切り。口縁部はやや外反するが、93のように、直立するものも見られる。95・96も一応当類とした。同類は子安遺跡SI354、新田畑遺跡等に認められる。Ⅵ期。

**椀Ⅵ類**（97～104）　口径17cm以上で、器高指数40前後以上。本来鉢と分類されるものであるが、形態上椀として扱う。ヨコナデ、糸切り。101はやや小ぶりで器高指数も38と低い。口縁は緩やかに外反するもので、他とは区別すべきかもしれない。97～100はいずれも口縁端部が直立または内傾する。上越方面では、子安遺跡、新田畑遺跡に類例がある。その年代観からすればⅥ～Ⅶ期前半になる。

**有台椀**（105～119）　全体を窺えるのは105である。口縁部は105のように薄くなだらかに外反するものと、106のように直立して外反するものとがある。高台は113がやや高い。105～114は内黒で、109は十字の暗文である。やはり一之口遺跡東地区SD1’に認められる。およそ11世紀代であろう。

**鉢**（120・121）　120は口縁端部がやや立ち上がる。121は底部。

**有台鉢**（122～124）　122はやや外傾した口縁が端部で立つ。123は厚手で端部直線。124は台部である。この有台鉢は類例が少ない。上越方面では、保坂遺跡［高橋2003］にある。それからすればⅦ期となる。

**鍋Ⅰ類**（125～132）　口径25cm以下の小型鍋である。大型（Ⅲ類）に比べると体部の膨らみが大きく、深みである。類例は少ない。

口縁端部は、ほぼ直線となり、外反の少ないもの（125・126・131・132）、緩く外反し、口縁端部がつまみ上げられるもの（127～130）とがある。おこげや煤の付着は少ない。口縁外反の少ないものは保坂遺跡からすればⅦ期後半にあたり、口縁外反するものはそれより古く、Ⅵ～Ⅶ期前半にあたるであろう。

**鍋Ⅱ類**（133）　一応鍋としたが、類例がない。薄手で剥落が著しい。甲型で深く、口縁部は外反する。鉄鍋の模倣であろうか。

**鍋Ⅲ類**（134～137）　口径25cm以上のものである。135のみ口縁端部がつまみ上げられる。上半部はヨコナデ、カキメである。Ⅵ～Ⅶ期。

**長釜**（138～148）　長釜を一括した。名称としては長“甕”が一般的であるが、最近の例［宇野1992］から“釜”とした。口縁部形態には違いがある。上半ヨコナデ、下半叩きである。144は薄手で口縁直線的に外反する北信地方の形態である。147は内面ハケ調整。およそⅥ～Ⅶ期と考えられるが、145は口縁形態からⅤ期まで遡るか。

**小釜**（149～151）　全体ヨコナデ調整、糸切り。

### 3）緑 釉 陶 器

**皿**（152）　内面に段を有する皿である。底部は比較的薄く、高台内側に段を有する。釉は濃緑色で底部まで全面施釉される。高台に段を有する所謂「二重高台」であること、調整にミガキがないこと等は近江産の特徴とされる［畑中2003］。しかし、全面施釉で露胎がないこと、底部が薄手であること、糸切りが明確でないこと等から近江産と言い難い面も持っている。時期は形態から10世紀代であろう。

### 4）灰 釉 陶 器

**皿**（153・154）　小破片で、詳細は不明。

**壺**（155～160）　155～157は体部破片。159・160は底部である。

## B　遺構（SK21）出土土器

全て土師器で占められる。椀は1（Ⅳ類）、2（Ⅲ類）が口径やや大きく、丸みをもつ。他の椀（3～11）はⅠａ類である。9～11が典型である。12はⅥ類であろう。13～15は、有台椀で15は内黒である。16は長釜、17は小釜である。

# 3　中　　世（図版19）

中世の土器には、珠洲焼、越前焼、輸入陶磁器などがあるが、出土量は少ない。珠洲焼の分類・年代観は吉岡編年［吉岡1994］、青磁は上田編年［上田1982］、青花は小野編年［小野1982］によった。

### 1）珠　洲　焼

**壺**（161・162）　161はＲ種の壺で肩部に大きな櫛波状文が見られる。肩の張りは大きくない。162はＫ種と思われる。

**甕**（163～173）　163～165は口縁部破片。口縁はいずれもくの字状に外反するが、あまり顕著でない。166～173は胴部破片である。一応甕としたが、中には壺の破片もある可能性がある。

**擂鉢**（174～185）　口縁端部はいずれも三角形状で内側を向く。177・178には口縁端部に波状文がある。櫛目間隔は182・184のように粗いものも見られる。185は底部で、一応擂鉢とした。176の口縁部形態、181・182・184といった間隔のある櫛はⅣ期の可能性があるが、他はⅤ期以降である。

### 2）越　　前

**甕**（186）　口縁部破片である。端部上方に直立する。

### 3）青　　磁

**碗**（187・188）　187は口縁外反。無文の碗。188は口縁部雷文帯。見込み部分に不動明王を示す凡字「カーン」があり、周囲に月輪が廻る。青磁蓮弁文碗Ｃ群［上田前掲］で15世紀前半にあたる。

**皿**（189）　端反りである。

### 4）白　　磁

**皿**（190）　底部破片である。

### 5）青　　花

**碗**（191）　底部のみである。見込み部分に二重圏線、その中央に如意雲である。小野分類の染付碗Ｅ群Ⅸ類にあたる。16世紀後半にあたる。

## 4　近　　世（図版20～23）

近世は、大きく肥前系磁器・陶器、越中瀬戸に分類される。肥前系陶磁器の分類・年代観は、『九州陶磁の編年』［九州近世陶磁学会2000］、越中瀬戸は宮田編年［宮田1997］によった。産地、器種ごとに説明を加える。

肥前系陶磁器の時期区分

Ⅰ－1期　1580年代～1954年頃　　Ⅲ期　1650年代～1690年代
Ⅰ－2期　1594年頃～1610年代　　Ⅳ期　1690年代～1780年代
Ⅱ－1期　1610年代～1630年代　　Ⅴ期　1780年代～1860年代
Ⅱ－2期　1630年代～1650年代

### 1）肥前系磁器（伊万里）

**皿**（192～202・213）　193には、内面海老が描かれ、194・195は体部区画文、見込みに「寿」字が描かれる。底部蛇の目釉剥ぎ高台。これらはⅡ期に入るであろう。196～198も内面にのみ文様を有する。唐草や草木である。201・202には裏文様が加わる。201は折れ松葉である。199・200は青磁釉の皿で見込み蛇の目釉剥ぎである。高台無釉。213はやや大型の皿である。口縁断面四角で、端部は口錆である。全面透明釉。内面口縁付近に模様が見られるが、内容は不明。

**碗**（203～207）　203・204は高台無釉。笹が描かれる。205は花文であるが型紙摺であろう。206は網目文である。

**鉢**（208）　見込みに菊唐草文である。

**仏飯器**（209）　脚下部無釉。

**瓶**（210）　碁笥底であり、底部に小砂利粒が付着する。体部に草文。

**小杯**（211）　口縁薄く外反する。高台無釉。210の瓶と胎土、釉類似。

**壺**（212）　白磁の壺である。

**色絵**（214～217）　214～216は瓶である。214、215は同一個体と思われる。圏線は赤、他を青、緑、赤、黒で描いている。216は圏線赤である。217は蓋である。七宝は赤、他を緑、赤、鉄色で描いている。

### 2）肥前系陶器（唐津）

**皿**（218～239）　218・219は色絵を有するものであるが、全体の器形を追うことはできない。溝縁皿（221～225）、波皿（220）、平口縁（226）はいずれも砂目、227～230は銅緑釉に見込み蛇の目釉剥ぎのいわゆる内野山タイプである。231～237は透明釉である。特に、透明釉の土器は胎土が赤く、特徴的である。238は、無釉（口縁のみ自然釉）の灯明皿である。239は特殊な皿で、唐津かどうか不明。薄手で1か所に耳がつく。

**碗**（240～250）　240は、藁灰釉。241は内外面鉄釉、242～250がいわゆる京焼風または呉器手と呼ばれるものである。特に247から250は文様が描かれる。247は2面に文様が描かれ、正面には、緑、青、赤の色分けを用いている。底部に「清水」の刻印がある。248も同様の楼閣山水文であるが、やや

乱れている。249・250は銅緑釉である。

**火入れ**（251・252）　251銅緑釉に刷毛目波状文、252は灰釉が内面上半までかかる。

**灯火具**（253）　受け皿付きである。

**瓶**（254・255）　254は糸切り鉄釉、255は薄く面取される。胎土は239に類似。

**擂鉢**（256～263）　口縁部形態により3つに分類される。1つは口縁内面に突帯が鍔状に廻るもの（256・257）、1つは鍔がほとんどなくなったもの（258）、1つは完全に消失し、端部玉縁となるものである。256は口縁部のみに鉄釉がかかる。256・257の櫛は単位ごとに間隔があり、引きっぱなしで、端部が揃わない。261～263は底部で、糸切りである。

**鉢**（264）　いわゆる三島手の象嵌である。

**瓶**（265）　瓶としたが、明確でない。底部厚く、糸切り。

**甕**（266・267）　266は肩の張りがない。口縁直立し、端部断面三角形でやや外を向く。格子叩き。267はやや肩が張る。口縁外反し、端部外を向く。格子叩き。

### 3）越中瀬戸

**皿**（268～273）　268～270は直線的に伸びる丸皿で高台は削り出し。見込みに削り出しの段は認められない。鉄釉（錆）の付け掛けである。271も同様であるが、見込みに重ね焼き痕がある。釉はやや光沢を持つ。272・273は小形の皿。272は見込みに段を有する。灰釉で、見込みに重ね焼き痕を有する。273も見込みにわずかに段を有する。釉はほとんどとんでいる。これらの皿は、268～271が、見込みの段が消失し、付け掛けであることから、Ⅲ期（17世紀後半から18世紀前半）に当たると考えられる。272・273はⅡ期の可能性もある。

**壺**（274～280）　口径10～12cmと安定している。口縁はほとんど直立する。体部は、肩がやや張るもの（276）と丸みを持つもの（その他）とがある。いずれも鉄釉。

**天目**（281）　口縁やや外反する。鉄釉。下部無釉。

### 4）瓦

**丸瓦**（282）　釘穴が見られないことから、丸瓦と判断される。玉縁部分は幅9.3cm、長さ4.9cmで先端が三角形状にややすぼむ。凸面はナデ、ミガキで、施釉される。凹面は玉縁付近に布痕を残す。胴部には、板状側面によるタタキ痕が残る。この板状タタキ痕は、近くの堀向瓦窯跡でも出土があるが多くはない。

**軒丸瓦**（283）　丸瓦部分のみである。径15.4cmを測る。連珠三巴文である。連珠は16個、その中に右巻き三巴文を配する。連珠、巴ともに肉厚で断面かまぼこ状を呈する。巴と連珠の間には細い突帯が廻り、2つを区分している。瓦の形態は、高田城、堀向瓦窯跡出土品［小田2003］に類似する。高田城出土瓦は、4時期に区分されており［小島1990］、その区分から言えば4期（18世紀後半以降）となる。4期の特徴としては、巴が突帯で囲まれ、連珠と明確に区分されることがあげられている。近世遺物の主体が17世紀であることから、時代にずれが生じるが、19世紀以降の遺物も存在するものの、当地に瓦葺の建物が存在したとは考えにくい。

## 5　その他の遺物（図版24・25）

### A　縄文時代の遺物

縄文土器が出土していないので時期の詳細は不明であるが、形態から縄文時代の所産と推定される遺物は、土製耳飾り・石鏃・剥片各１点、磨製石斧２点・磨石類29点がある。沢やSD2・SK21出土の円礫には磨石かと思われるものが含まれていたが、鉄分が付着し、磨面の認定が困難であったため、除外した。この他に無斑晶質安山岩の礫片・拳大の亜円礫が20点出土した。礫は２層１点、礫片はⅡ層１点、５層４点、７層３点、10・18層各１点、17層２点、20層４点、ほか不明３点の出土である。打点が不明瞭なので人為的に加工されたものではないと考えるが、遺跡の立地する土地には含まれない石材であるので、石器石材として搬入されたものと推定される。

以下に個々の遺物の説明を行うが、法量・出土地点などの属性は観察表に記す。

**土製耳飾り**（288）　無文で、鼓状を呈する。

**石鏃**（284）　素材剥片の打面が下端に残存しており、これに伴うバルブとバルバースカーが裏面に残されている。

**磨製石斧**（285・286）　285は裏面からの衝撃で下半分を欠損している。286は円礫の周囲を粗割した後、研磨を施している。

**磨石**　287は表面に凹痕、上面に敲打痕が残る。この他に28点あり、そのうち３点は特殊磨石である。出土層位は沢33層11点、沢20層３点、沢２層１点、Ⅱ層４点、その他は不明である。

### B　古代以降の石器等

古代以降の遺物には、砥石15点・転用砥石２点・粉挽臼２点・石鉢３点・五輪塔の火輪２点・土錘１点・刀子１点・炉壁・鉄滓がある。このうち砥石４点、粉挽臼・石鉢・火輪はSD2の石組みの中に含まれていた。

以下に個々の遺物の説明を行うが、出土グリッド・法量等の属性は観察表に記す。

**砥石**（289～291）　砥石は８点がSD2から出土した。残る24点は近世の盛土（2層・Ⅱ層）９点、沢５層４点、沢２・30層各２点、沢20層・トレンチ各１点、その他５点の出土である。石材は主に凝灰岩・砂岩が使われている。砂岩製の一部は縄文時代の所産の可能性がある。形態は基本的には四角柱であるが、使用あるいは破損によって変形している。289の表裏面には１単位７本／7mmの櫛歯状の擦痕が認められる。各条の横段面形は「コ」字状を呈する。おそらく金属製の工具によってつけられたものだろう。

**転用砥石**（292・294）　292は須恵器甕の体部片を転用している。当て具痕が平滑になるほど磨り減っている。294は硯背下半部が下側からの衝撃で剥落し、その後、硯背上部の周囲が打ち欠かれている。硯縁側面には工具痕が点状に残り、表面には２本１組の溝が密接している。このことから、２本１組の鋭利な籤状のものを用いて硯縁側面を打面、硯縁表面を作業面として硯縁の打ち欠きを行ったと推定される。打ち欠きおよび剥落面の稜線は磨耗しているので、砥石に転用されたと判断した。

**土錘**（293）　紡錘形の土錘で表面がかなり磨耗している。

**石鉢**（295～297）　295は表面が椀状を呈し、裏面も皿状に窪んでいる。完存すれば鼓状を呈するものと推定される。296外面底部は平滑に磨り減っている。297外面には煤が厚く付着する。

**粉挽臼**（298・299）　粉挽臼はいずれも上臼である（第6図）。298は供給口と直径約1.5cmの芯棒受けが残る。299はものくばりが左向きに出ているので、左回しの正常臼である。

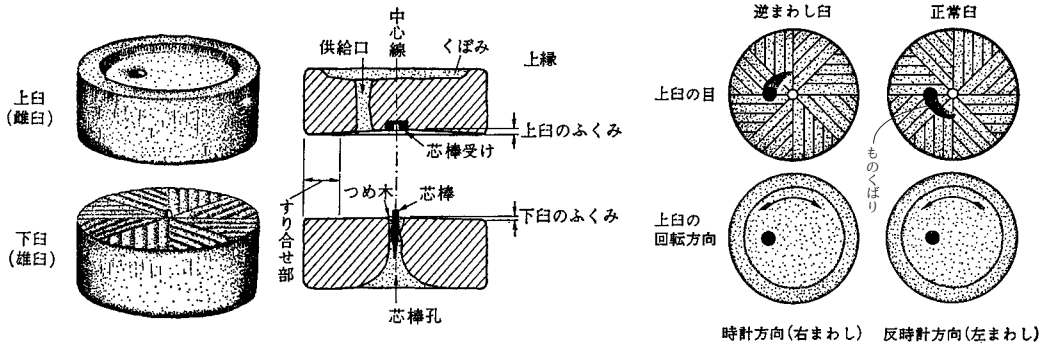
**火輪**（300）　300は軒口～軒反りにかけての破片である。図化していないもう1点も同様である。

**刀子**（303）　厚く錆に覆われており肉眼で確認することは困難であるが、X線撮影により刃側に関部を認めることができる。20層からの出土であるので、平安時代の所産の可能性が高い。

**炉壁**（301・302）　ここでいう炉壁は「人為的に鉱石や金属を還元したり、加熱したりする場合に設けられる炉の壁」［田口・穴澤1994］を想定している。遺物としてはスサ入りの炉壁材に、溶解した鉄が付着したものを抽出した。鉄滓とみられるものもわずかに含まれる。炉壁は包含層および遺構から出土し、包含層全体では3,313gを計る。出土層は2・5・7・20・21層が多く2,277gを計り、特に20・21層が1,082gと多い。分布は5層が5・7D、5・7Eグリッド、7・20・21層が6・7・8Dグリッドに集中する。各層とも7Dグリッド出土のものが半数以上を占め、7Dグリッド出土総量は1,030gである。遺構ではSK21の2層から110g、Eライン遺構の③層（図版5のE－E'①参照）から400gが出土した。SK21の2層では被熱した礫も多く出土している。20・21層は炭窯やSK21が検出された層位でもあり、遺跡がこの面にあった頃、炭焼きや製鉄に関わる作業が行われていた可能性を示唆しているのではないか。

301は竪形炉の一部と推定される。推定径32.4cmである。302はSK21出土である。

このほか、須恵器破片が付着した窯壁の破片1点が5E13グリッド18層から出土した。遺跡近隣には滝寺古窯跡・大貫古窯跡がある。地滑り等で壊滅したかもしれないが、当地においても窯跡が存在した可能性がある。




**第6図　粉挽臼の各名称と細部の分類**（三輪［1978］から転載）

# 第Ⅴ章　ま　と　め

## 1　遺　　物

### A　古代・中世

遺構で記述のように、後世の段切りにより、近世以前の遺構はほとんど削平、破壊され、遺跡の性格を示す遺構は残存しない。遺物は８世紀末～11世紀にかけて確認され、定量の出土を見ている。出土地点はほとんどが谷筋で、二次堆積土であり、小破片がほとんどである。器種分類が難しい破片が多く、器種別出土量識別は行っていない。

９世紀前半は、食膳具は須恵器を主体としているが、９世紀末葉以降土師器が主体を占めるようになり、11世紀まで継続する。９世紀後半は、上越方面でも小泊産須恵器が大量に流入するが、ここでは小泊産の須恵器杯類はほとんど認められず、一時遺跡が断絶した可能性がある。全体的には煮炊具の割合が高い傾向がある。

土師器、須恵器の他には灰釉陶器数点、緑釉陶器１点が出土している。これらの出土遺物から、当地に古代の集落が存在した可能性が高い。古代の集落は平野部に立地するのが一般的であるが、このような立地の遺跡は、一般集落とは異なる性格を考える必要があろうか。近接して、滝寺、大貫須恵器窯跡が存在するが、その工人の居住地であった可能性もあるが、確認されている窯の年代が８世紀末～９世紀中葉であり、時期が限定される。第２図に示した遺跡分布図を見ると、関川左岸と右岸では、古代の遺跡分布に違いが認められる。関川右岸は、平野が広がり、自然堤防上に古代の遺跡が多く分布する。左岸は平野部が比較的狭く、市街地が広がっていることもあって、高田市街周辺には遺跡が確認されていない。市街地の西側丘陵部には転々と認められるがそう多くはない。しかし、今回の上信越道の調査では、山間部で多くの古代遺跡が確認されている。開発等による調査がない限り、遺跡の発見が困難な状況を考えると、山間部にも多くの古代遺跡が存在する可能性がある。生産遺跡も考えられるが、大きな谷筋低地を利用した稲作農耕を生業とする一般的集落を考えることもできる。古代の蟹沢遺跡もそういった一つであろうか。

中世については、遺物は散発的である。14世紀以降の時代が主体的であるが、15～16世紀の青磁、青花も認められる。古代以降断絶はあるものの、集落として利用されていたものと考えられる。

なお、時代は明確でないが、製鉄に関連した炉壁と考えられる残片の出土があり、鉄滓も認められることから、付近で製鉄も行われていたことが窺える。

### B　近　　世

近世の遺構は明確でなかったが、年代的にはほぼ17世紀代であり、少量ながらもまとまった出土をみた。土器の産地も限定されることから、産地、器種の分類を行い分析する。

#### 1）個体数の算出

近世陶磁器は、19世紀以降も出土しているが、17世紀代に限定した。器種は『九州陶磁の編年』によった。器種ごとの個体数は法量、器形（口縁部形態・底部）、文様の違いにより個体識別に努めた。不明確

なものもあり、絶対的な数量算出はできていない。ちなみに、よく用いられる口縁部残存率による個体数識別と上記方法による数量の違いを比較してみた（第３表）。

| 産　地 | 器　種 | 口縁（a） | 底部等（b） | b/a |
|---|---|---|---|---|
| 肥前系陶器 | 摺鉢 | 3.00 | 7 | 2.33 |
| | 皿 | 17.25 | 55 | 3.19 |
| | 京焼風碗 | 5.25 | 21 | 4.00 |
| 越中瀬戸 | 壺 | 7.90 | 29 | 3.67 |
| | 皿 | 2.30 | 11 | 4.78 |
| 合　計 | | 35.70 | 123 | 3.45 |

**第３表　口縁部残存率による個体数識別（a）と底部数、文様等による個体数識別（b）の比較**

例えば、肥前系陶器の皿では、口縁部残存率では、17.25個体、底部等では55個体を識別できた。約３倍の開きがある。京焼・呉器手碗では、口縁部残存率で5.25個、底部等では21個と４倍の開きがある。越中瀬戸の皿では、4.8倍もの開きが認められる。他についても同様の結果が得られ、その比率は、軽いものほど大きく、口縁部はなくなりやすいのである。この結果から、個体数算出には大きな開きが認められる。このことから口縁部残存率による個体数算出の有効性には問題が残る。しかし、器種組成比率には両者とも近い比率が求められ、有効性が実証された。

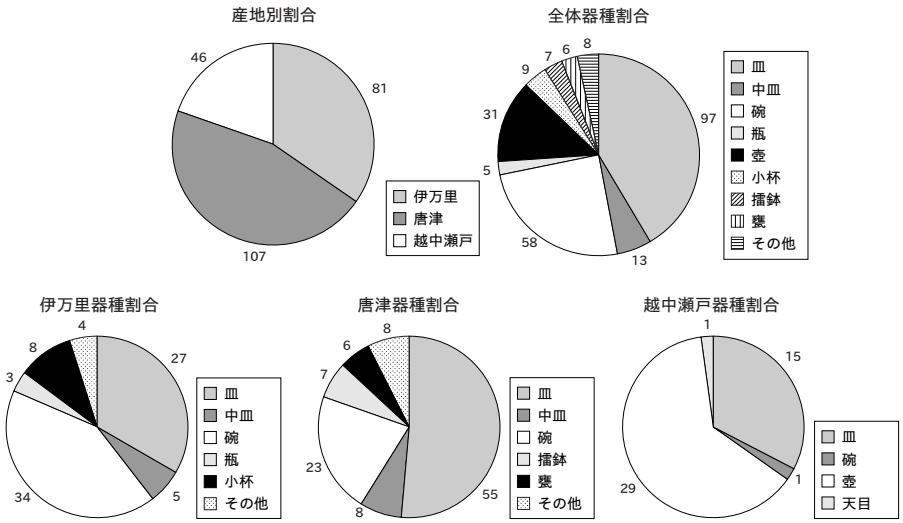
## 2）産地別割合（第４表・第７図）

**肥前系磁器**（伊万里）　全体の35％を占める。全体81個体の内、碗が34個42％を占める。皿もほぼ同数の32個39％を占める。目立つのは、小杯８個10％である。他、仏花器・仏飯器各１個がある。

**肥前系陶器**（唐津）　全体の46％を占める。全体107個の内、皿類が63個と過半数の63％を占める。

| 産地 | 摘要 | 皿 | 中皿 | 碗 | 鉢 | 瓶 | 壺 | 小杯 | 仏花器 | 仏飯器 | 天目 | 擂鉢 | 灯火具 | 甕 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 伊 万 里 | 個体数（a） | 27 | 5 | 34 | 1 | 3 | 1 | 8 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 81 |
| | 器種割合（a/81） | 0.33 | 0.06 | 0.42 | 0.01 | 0.04 | 0.01 | 0.10 | 0.01 | 0.01 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 1.00 |
| | 産地割合（a/d） | 0.28 | 0.38 | 0.59 | 0.50 | 0.60 | 0.03 | 0.89 | 1.00 | 1.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.35 |
| 唐　　津 | 個体数（b） | 55 | 8 | 23 | 1 | 2 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | 7 | 2 | 6 | 107 |
| | 器種割合（b/107） | 0.51 | 0.07 | 0.21 | 0.01 | 0.02 | 0.01 | 0.01 | 0.00 | 0.00 | 0.01 | 0.07 | 0.02 | 0.06 | 1.00 |
| | 産地割合（b/d） | 0.57 | 0.62 | 0.40 | 0.50 | 0.40 | 0.03 | 0.11 | 0.00 | 0.00 | 0.50 | 1.00 | 1.00 | 1.00 | 0.46 |
| 越中瀬戸 | 個体数（c） | 15 | 0 | 1 | 0 | 0 | 29 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 46 |
| | 器種割合（c/46） | 0.33 | 0.00 | 0.02 | 0.00 | 0.00 | 0.63 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.02 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 1.00 |
| | 産地割合（c/d） | 0.15 | 0.00 | 0.02 | 0.00 | 0.00 | 0.94 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.50 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.20 |
| 合　　計 | 個体数（d） | 97 | 13 | 58 | 2 | 5 | 31 | 9 | 1 | 1 | 2 | 7 | 2 | 6 | 234 |
| | 器種割合（d/234） | 0.41 | 0.06 | 0.25 | 0.01 | 0.02 | 0.13 | 0.04 | 0.00 | 0.00 | 0.01 | 0.03 | 0.01 | 0.03 | 1.00 |

**第４表　産地別土器量比較表**




**第７図　産地別器種割合図**

次いで碗が23個21％を占める。多くは京焼風である。他目立つのは、擂鉢と甕である。

**越中瀬戸**　全体の20％と割合は低い。器種は皿・壺・碗と限定される。特に目立つのは壺の29個63％である。

**全体**　234個体確認した内、碗皿類が70％以上を占める。肥前系がほとんどである。越中瀬戸は、皿と広口の壺に限定される。小杯はほとんどが伊万里、擂鉢は全て唐津、甕は全て唐津となる。このように、器種によって産地を選別していたことがわかる。上越地方という地域性とも考えられるが、瀬戸美濃系が見られないことも特徴と言える。

## 2　遺跡の性格

### A　地形改変と土地利用

今回の発掘調査によって、蟹沢遺跡における古代から近世に至る地形の変化と地形改変のあり方を知ることができた。地滑り地帯という遺跡の立地上、過去に失われた遺構もあると思われるので、今回検出された遺構が蟹沢遺跡の全ての遺構とは言えないが、そこから明らかになった点について以下にまとめる。

9世紀より前には、舌状台地の東側に深さ2.5mほどの沢が流れていた。この段階の遺物は少なく、遺構も定かではない。

9世紀に入ると徐々に沢が埋没し始める。沢埋土のうち最下層の遺構確認面となる沢20・21層（図版5のE－E'①）の段階で沢は埋没し、周囲の地形との落差がほぼ解消されている。沢が埋没してそれまでより広い平坦面を得ることができるようになったためか、本格的な土地利用が開始される。沢20・21層からは9世紀代から10世紀前葉～11世紀前葉の遺物が出土するので、土地利用の開始はこれ以降と考えられる。具体的には、炭窯（SK22・28・29）や炭窯の被覆土を供給した可能性のあるSK21が築かれ、一帯で炭焼きが行われていたと推定される。地山面に構築された炭窯の多くも形態的に大差がないので、同時期のものと考えられる。同じ面で炉壁・鉄滓が比較的多く出土するので、製鉄関係の生産が行われていた可能性もある。このほかに沢に流れ込む排水施設の可能性があるSD7・8もこの頃の遺構であると推定される。

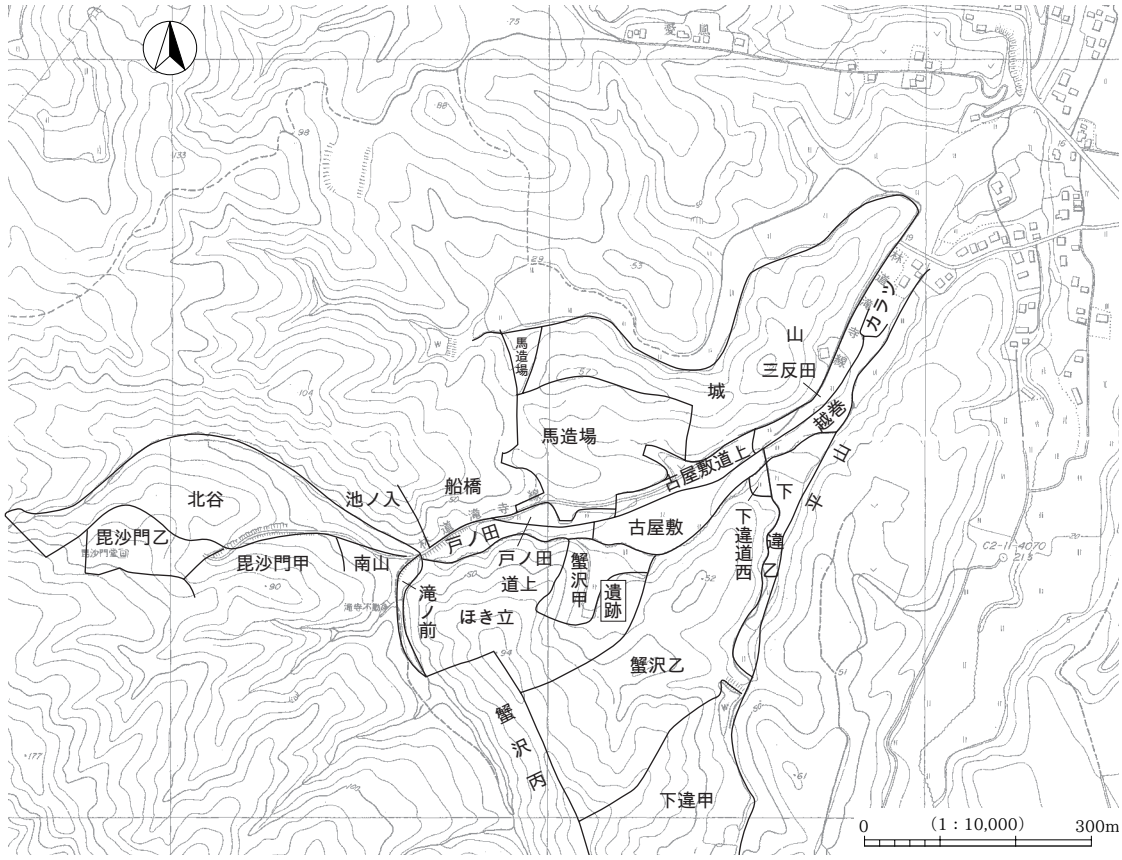
中世に入ると沢5・7層（同E－E'①）が形成される。比較的面的に、地形に沿って分布しているので地滑りに伴い形成された土層であると推定される。この層の上面にはSK15・16などの土坑・土壙墓や畝状遺構が築かれる。検出面は地山だが、畝状遺構と同じく次段階の地形改変に伴う盛土が上面を被覆する横井戸SD2も同時期の所産であろう。横井戸の構築時期は18世紀後半以降と推定されるので、畝状遺構も同様であろう。よって、この段階－18世紀後半以降－には、舌状台地の先端部付近に畝状遺構・井戸が築かれて耕作地として利用され、上手のほうに土壙墓が散漫に分布する状況であったといえる。

次の段階で舌状台地の先端部を中心に地形改変が行われる。まず、埋没した沢のわずかな凹み部分に盛土をして周囲との地形の落差を解消する（図版6のD－D'・図版8の沢F－F'の2-1層）。次に切り土を行い、段差地形を作り出すとともに、平坦面の平面形を整える。この段階で舌状部の中世の遺物包含層は削平されたと推定される（図版5のE－E'）。最後に舌状部全体に厚さ15cmほどの盛土をして、滑らかな平坦面を作り出している。この盛土には近世の遺物が大量に含まれる。時期は1630年代～1690年代のものが主体である。しかし、前段階の横井戸構築時期は18世紀後半以降と推定されることから、この盛土は少なくともこれより新しいと考えなければならない。

横井戸出土遺物の主体となる時期は盛土出土遺物と同じ1630年代～1690年代である。ここから、18世紀後半の耕作や地形改変によって破壊されてしまったものの、蟹沢遺跡には1630年代～1690年代に陶磁器を多く所有する住居等が存在した可能性が考えられる。地形改変後に明瞭な遺構は残されていないので、この後は居住地としての性格を失ったものと推定される。

## B　遺跡の性格

第８図は、大字滝寺の小字名（明治29年土地更正図）を拾ったものである。これによれば、蟹沢遺跡は字「ほき立」にあり、周囲が「蟹沢」である。遺跡は北に向かって若干舌状に張り出しているが、先端は西に向かって走る谷筋とぶつかる。この谷筋に「古屋敷」「古屋敷道上」という字名が残る。この谷を挟んだ北側には東に伸びる尾根があり、「馬造場」「城山」という字名がある。「城山」の尾根上はかなり広い平坦面が造成されている。先述の谷筋には現在林道滝寺線が走っているが、南上流部に字「毘沙門」があり、現在毘沙門堂が建っている。「日本歴史地名大系 新潟県の地名」［平凡社1986］によれば当地にかつて泰澄禅師開山とされる真言宗滝寺山吉祥寺の七堂伽藍があったとされ、この寺の銅造毘沙門天は、上杉謙信の格別の信仰を得たと伝えられている。現堂の周辺には造成されたと思われるいくつもの平坦面があり、何らかの施設が存在したことが窺われる。堂の周囲には低い土塁と思われる高まりもあり、また五輪塔破片の一部も認められる。県の遺跡地図では「伝吉祥寺跡（平安時代）」で登録されている。吉祥寺の言い伝えから言えば古代から存在したことになり、また「馬造場」「城山」は中世を反映したものであろう。このように遺跡周辺には関連した字名が多く存在することがわかる。




**第８図　遺跡周辺の小字名**（大字滝寺）

〔上越市森林基本図に明治29年土地更正図による字境を加えたもの（字境は概略であり正確なものではない）〕

正保の国絵図（1655～58年完成）には、滝寺村（百七十一石余）が見える。ちょうど近世蟹沢遺跡が存在した年代である。天明８年（1788）の「木田組村村書上帳」［上越市史編さん委員会2003b］によれば、滝寺村には29軒の家があったとされる。地元の言い伝えでは、滝寺村はかつて当遺跡の周辺に存在していたが、順次平野部に移動していったとされる。また、先述のように谷筋に「古屋敷」の地名もあり、出土遺物の17世紀代という年代と天明年間とは約100年の開きはあるが、そのうちの１軒が当遺跡に存在した可能性がある。

上越地方で当該期の肥前系陶磁器を出土する遺跡としては、木田遺跡［北村2001］、高田城跡［小島・渡邊2003］等がある。量的にどの程度なのか明確でないが、肥前系陶器・磁器、越中瀬戸の３者を認めることができる。この他県内の遺跡では、佐渡奉行所跡［佐藤・齊藤2001］、村上二之町遺跡［渡邊1996］、神林村天王前遺跡［鈴木ほか1998］、新発田城跡［鶴巻2001］等があるが、いずれも城館跡、寺院等が多く、一般集落の様相は明らかでなく、初期伊万里がどの程度入ってきているかは明確でない。

この初期伊万里が当遺跡では比較的多く認められることや流通の少ない餅田窯［伊万里市教育委員会1989］の藁灰釉碗が出土するなどから、一般集落とは考えにくい一面を持っている。山間部で一般集落でないとすれば、寺院等が考えられるが寺院を積極的に示す資料は出土していない。しかし遺跡周辺の環境からすれば、一概に否定はできない。一方前述のように滝寺村の内とすれば、村の有力者の家が考えられる。

# 要　　約

1　蟹沢遺跡は新潟県南西部の上越市大字滝寺字蟹沢928番地・字ほき立974番地ほかに所在し、春日山丘陵の東斜面に位置する。標高は25～40m前後であり、現況は山林・荒地であった。

2　調査は上信越自動車道の建設に伴い、平成７・８年の２か年に実施した。二次調査面積は総計3,750m$^2$である。遺跡は上信越自動車道用地内にとどまらず、周辺に広がっていると考えられる。

3　調査の結果、縄文時代・平安時代・中世・近世の遺物が発見された。土器が大半を占め、石器等は僅少である。遺構は少なく、遺物の大半は包含層と沢の埋土から出土した。

4　検出されたのは沢１条と平安時代の炭窯10基、近世の井戸１基、溝状遺構２群、土壙墓６基などのほか、近世の地形改変跡である。

5　沢は９世紀前葉頃から埋没し始め、11世紀代にはほぼ埋没しきっていたと考えられる。埋土には平安時代の土器片が大量に含まれていた。

6　沢が埋没した段階で、炭窯が築かれ、製鉄に関連すると見られる炉壁などの遺物が増加する。よって、平安時代末頃に製鉄関連の生産活動が行われていた可能性がある。

7　中世の遺物は少ない。14世紀以降を主体として、15～16世紀の青磁・青花も認められる。

8　近世（1630年代～1690年代）には居住域となっていたと推定される。正保の国絵図（1655～58年完成）に描かれた滝寺集落の一角が当遺跡に存在した可能性が高い。出土した17世紀代の陶磁器には肥前系磁器（伊万里）、肥前系陶器（唐津）、越中瀬戸などがあるが、これら初期伊万里は城館跡や寺院などで出土することが多いので、蟹沢遺跡に集落が存在したとすれば一般集落とは考えにくく、有力者の家の可能性がある。

9　近世には集落の廃絶後、地形改変が行われ、４段の段切り地形となった。地形改変後の遺構は検出されていないので、地形改変の目的は不明である。

# 引用・参考文献


家田淳一　2000　「肥前（佐賀県）の製品について 陶器の編年 2．擂鉢・鉢・片口・水差・茶入・土瓶・水注・灯火具」『九州陶磁の編年』 九州近世陶磁学会

伊万里市教育委員会　1989　『伊万里市文化財調査報告書 第27集 瓶屋窯跡・瓶屋遺跡・餅田窯跡』

岩永憲二郎　2000　「肥前（佐賀県）の製品について 磁器の編年 3．香炉・火入・托子」『九州陶磁の編年』 九州近世陶磁学会

上田秀夫　1982　「14～16世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究』No2　日本貿易陶磁研究会

宇野隆夫　1992　「食器計量の意義と方法」『国立歴史民俗博物館研究報告』第40集　国立歴史民俗博物館

大橋康二　2000a　「Ⅰ九州陶磁概論」『九州陶磁の編年』 九州近世陶磁学会

大橋康二　2000b　「肥前（佐賀県）の製品について 磁器の編年 2．鉢・猪口・蓋付鉢・合子・水差・蓋置・薬壷」『九州陶磁の編年』 九州近世陶磁学会

小田由美子　2003　『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第122集 上信越自動車道関係発掘調査報告書Ⅸ 堀向瓦窯跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

小野正敏　1982　「15～16世紀の染付碗、皿の分類と年代」『貿易陶磁研究』No2　日本貿易陶磁研究

春日真実・北野博司・笹沢正史・高橋勉　2003　「第５章古代 第２節 遺跡と遺物」『上越市史資料編２ 考古』 上越市

九州近世陶磁学会　2000　『九州陶磁の編年』 九州近世陶磁学会

金子拓男　1993　「上杉氏による越後府中の経営と居城春日山城跡の成立」『日本考古学協会1993年度新潟大会シンポジウム資料』 日本考古学協会新潟大会実行委員会

亀井　功　1991　「第Ⅰ章　加賀街道の概説」『新潟県歴史の道調査報告書第一集　加賀街道　松本街道』 新潟県教育委員会

川副麻理子　2000　「肥前（佐賀県）の製品について 磁器の編年 4．仏飯具・水滴・人形・灯火具・緒締玉・戸車」『九州陶磁の編年』 九州近世陶磁学会

北村　亮　2001　『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第105集 北陸自動車道 上越市春日・木田地区発掘調査報告書Ⅵ 木田遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

久保田好郎　1991　「第Ⅱ章 第七節 高田城下」『新潟県歴史の道調査報告書第二集 北国街道Ⅰ』 新潟県教育委員会

小島幸雄　1989　『新潟県上越市 四ツ屋遺跡発掘調査報告書』 上越市教育委員会

小島幸雄　1990　『新潟県上越市高田城跡資料調査報告書 発掘調査編』 上越市教育委員会

小島幸雄・渡邊ますみ　2003　「第２章 第２節 ６高田城跡」『上越市史叢書８ 考古－中・近世資料－』 上越市

佐賀県立九州陶磁文化館　1984　『国内出土の肥前陶磁』

笹澤正史　2003a　「第５章古代 第１節時代概説」『上越市史資料編２ 考古』 上越市史編さん委員会

笹澤正史　2003b　「第５章古代 第２節28 縄手遺跡」『上越市史資料編２ 考古』 上越市史編さん委員会

笹澤正史　2003c　「第５章古代 第２節13 子安遺跡」『上越市史資料編２ 考古』 上越市史編さん委員会

笹澤正史　2003d　「第５章古代 第２節26 新田畑遺跡」『上越市史資料編２考古』上越市史編さん委員会

佐藤俊策・齊藤本恭　2001　『相川町埋蔵文化財調査報告書第３ 佐渡金山遺跡（佐渡奉行所跡）』 新潟県佐渡郡相川町教育委員会

坂井秀弥　1984　「今池遺跡群における奈良・平安時代の土器」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第35集　今池・下新町・子安遺跡』 新潟県教育委員会

上越市史編さん委員会　2001　『上越市史 別編３ 寺社資料一』 上越市

上越市史編さん委員会　2003a　「付録　上越市内遺跡所在地図」『上越市史 資料編２ 考古』 上越市

上越市史編さん委員会　2003b　『上越市史 資料編５ 近世二』 上越市

鈴木郁夫　1980　「Ⅰ 地形分類図」『新潟県上越地域土地分類基本調査 高田西部』 新潟県農地部農村総合整備課

鈴木俊成　1994　「第Ⅵ章 まとめ 1．平安時代の土器」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第60集 上越春日・木田地区発掘調査報告書Ⅳ 一之口遺跡東地区』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

鈴木俊成ほか 1998　『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第89集 県営ほ場整備事業（神林村）関連埋蔵文化財調査報告書 天王前・有明的場・石川遺跡』　新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

鈴田由起夫　2000　「肥前（佐賀県）の製品について 磁器の編年 5．瓶・花生・仏花器・油壷・水注」『九州陶磁の編年』 九州近世陶磁学会

高木　裕　1996　「平成８年度発掘調査の速報　蟹沢遺跡」『埋文にいがた　No.16』 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

高木　裕　1997　「蟹沢遺跡」『新潟県埋蔵文化財調査事業団年報　平成８年度』 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

高橋　勉　2003　「第５章古代 第２節８　保坂遺跡」『上越市史資料編２ 考古』 上越市史編さん委員会

田口　勇・穴澤義功　1994　「付録　本研究関係用語解説」『国立歴史民俗博物館研究報告』第59集　国立歴史民俗博物館

津田禾粒・白井健裕・長谷川美行・新川公　1980　「Ⅱ 表層地質図」『新潟県上越地域土地分類基本調査 高田西部』 新潟県農地部農村総合整備課

鶴巻康志　2001　『新発田市埋蔵文化財調査報告 第24 新発田城跡発掘調査報告書Ⅲ（第11・12地点）』 新発田市教育委員会

新潟県教育委員会　1991a　『新潟県歴史の道調査報告書第一集　加賀街道　松本街道』

新潟県教育委員会　1991b　『新潟県歴史の道調査報告書第二集　北国街道Ⅰ』

新潟県農地部農村総合整備課　1980　『新潟県上越地域土地分類基本調査　高田西部』

野上建紀　2000　「肥前（佐賀県）の製品について 磁器の編年 1．碗・小杯・皿・紅皿・紅猪口」『九州陶磁の研究』 九州近世陶磁学会

畑中英二　2003　「近世における緑釉陶器生産の様相」『古代の土器研究会　第７回シンポジウム　古代の土器研究ー平安時代の緑釉陶器・生産地の様相を中心にー』 古代の土器研究会

東中川忠美　2000　「肥前（佐賀県）の製品について 陶器の編年 4．壺・甕」『九州陶磁の編年』 九州近世陶磁学会

船井向洋　2000　「肥前（佐賀県）の製品について 陶器の編年 3．火入・瓶」『九州陶磁の編年』 九州近世陶磁学会

平凡社地方資料センター　1986　『日本歴史地名大系第十五巻 新潟県の地名』 平凡社

宮田進一　1997　「越中瀬戸」・「越中瀬戸の変遷と分布」『中世の北陸』 桂書房

三輪茂雄　1978　『臼』 ものと人間の文化史25　法政大学出版局

盛　峰雄　2000　「肥前（佐賀県）の製品について 陶器の編年 1．碗・皿」『九州陶磁の編年』 九州近世陶磁学会

山本幸俊　1991　「第Ⅰ章 北国街道の概説」『新潟県歴史の道調査報告書第二集 北国街道Ⅰ』 新潟県教育委員会

吉岡康暢　1994　『中世須恵器の研究』 吉川弘文館

渡邊清子　1996　『村上城二ノ丸二之町遺跡』 村上市教育委員会

渡邊朋和・小田由美子・上沼　茂　1997　『金津丘陵製鉄遺跡群発掘調査報告書Ⅱ 居村遺跡Ｅ・Ａ・Ｃ地点、大入遺跡Ａ地点』 新津市教育委員会

## 土器観察表（古代）（1）

| No. | グリッド | 遺構 | 層位 | 種別 | 器種 | 分類 | 底径/口径 | 高さ/口径 | 残存率 | 法量（cm） | | | 調整等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | ／16 | 口径 | 器高 | 底径 | |
| 1 | 7D | SK21 | 4層ベルト | 土師器 | 椀 | Ⅳ | － | － | － | 13.0 | (3.3) | － | 体部に丸み、ヨコナデ |
| 2 | 7D | SK21 | 2層ベルト | 土師器 | 椀 | Ⅲ | － | － | 1 | 14.0 | (3.0) | － | 体部に丸み、ヨコナデ |
| 3 | 7D | SK21 | | 土師器 | 椀 | Ⅰa | － | － | － | 13.0 | (2.1) | － | ヨコナデ |
| 4 | 7D | SK21 | 2層ベルト | 土師器 | 椀 | Ⅰa | － | － | － | － | (2.0) | (5.0) | ヨコナデ、糸切り、摩耗 |
| 5 | 7D | SK21 | 2層ベルト | 土師器 | 椀 | Ⅰa | － | － | － | － | (3.0) | 5.6 | 摩耗、調整不明 |
| 6 | | SK21 | 2層 | 土師器 | 椀 | Ⅰa | － | － | － | － | － | － | 摩耗、調整不明、底部穿孔？ |
| 7 | 7D | SK21 | 2層 | 土師器 | 椀 | Ⅰa | － | － | － | － | － | 5.0 | ヨコナデ、糸切り |
| 8 | 7D | SK21 | 1層 | 土師器 | 椀 | Ⅰa | － | － | － | － | (1.5) | 5.2 | ヨコナデ、糸切り |
| 9 | 7D | SK21 | 2層ベルト | 土師器 | 椀 | Ⅰa | － | 0.27 | － | 11.6 | 3.1 | (5.8) | ヨコナデ、糸切り |
| 10 | 7D | SK21 | 2層 | 土師器 | 椀 | Ⅰa | 0.50 | 0.31 | － | 11.1 | 3.4 | 5.6 | ヨコナデ、糸切り |
| 11 | 7D | SK21 | 1層 | 土師器 | 椀 | Ⅰa | 0.44 | 0.31 | 2 | 10.4 | 3.2 | 4.6 | ヨコナデ、糸切り |
| 12 | 7D | SK21 | 1層 | 土師器 | 椀 | Ⅵ | － | － | － | － | (5.0) | 5.9 | ヨコナデ、糸切り |
| 13 | 7D | SK21 | 2層 | 土師器 | 有台椀 | | － | － | － | － | (2.1) | 6.3 | ヨコナデ |
| 14 | 7D | SK21 | 2層 | 土師器 | 有台椀 | | － | － | － | － | (1.8) | 7.8 | |
| 15 | 7D | SK21 | 2層 | 土師器 | 有台椀 | | － | － | － | － | － | 7.5 | 内黒 |
| 16 | 7D | SK21 | 3層 | 土師器 | 長釜 | | － | － | － | ? | － | － | ヨコナデ |
| 17 | 7D | SK21 | 4層ベルト1 | 土師器 | 小釜 | | 0.65 | － | 2 | 16.2 | － | 10.6 | ヨコナデ、糸切り、被熱板状剥落 |
| 18 | 4E8・9 | | 沢30層 | 須恵器 | 杯 | Ⅱ | 0.57 | 0.26 | － | 12.0 | 3.1 | 6.8 | 底部厚み、切り離し不明。外面自然釉 |
| 19 | 3E21 | | 沢33層 | 須恵器 | 杯 | Ⅰ | 0.53 | 0.33 | 8 | 12.0 | 4.0 | 6.4 | 下部に強いヨコナデ、糸切り、火襷 |
| 20 | 2F9・14・24 | | 沢30・32層 | 須恵器 | 杯 | Ⅰ | 0.51 | 0.29 | － | 12.4 | 3.6 | 6.3 | 下部に強いヨコナデ、糸切り、火襷 |
| 21 | 3E21 | | 沢33層 | 須恵器 | 杯 | Ⅰ | 0.54 | 0.28 | － | 12.6 | 3.5 | 6.8 | 下部に強いヨコナデ、糸切り、火襷 |
| 22 | 2F9・14 | | 沢30・32層 | 須恵器 | 杯 | Ⅰ | － | － | － | － | (2.7) | 6.4 | 下部に強いヨコナデ、糸切り、火襷 |
| 23 | 2F9・14 | | 沢30・32層 | 須恵器 | 杯 | Ⅰ | － | － | － | － | (3.2) | 6.3 | 下部に強いヨコナデ、糸切り、火襷 |
| 24 | 4E8・9 | | 沢30層 | 須恵器 | 杯 | Ⅰ | － | － | － | － | (0.7) | 4.6 | 下部に強いヨコナデ、糸切り |
| 25 | 3E21 | | 沢33層 | 須恵器 | 杯 | Ⅰ | － | － | － | － | (1.0) | 6.0 | 下部に強いヨコナデ、糸切り |
| 26 | 2F9・14・22・23 | | 沢32層 | 須恵器 | 杯 | Ⅰ | － | － | － | － | (1.8) | 6.5 | 下部に強いヨコナデ、糸切り、火襷 |
| 27 | 5E3 | | 沢30層 | 須恵器 | 有台杯 | Ⅰa | 0.63 | 0.31 | 2 | 12.0 | 3.75 | 7.5 | 篦切り |
| 28 | 2F23・24 | | 沢33層 | 須恵器 | 有台杯 | Ⅰb | 0.67 | 0.35 | 4 | 10.4 | 3.6 | 7.0 | 糸切り |
| 29 | 3E14 | | 沢33層 | 須恵器 | 有台杯 | Ⅰb | 0.68 | 0.36 | 8 | 10.8 | 3.9 | 7.3 | 糸切り |
| 30 | 2F9・14 | | 沢32層 | 須恵器 | 有台杯 | Ⅰb | － | － | － | － | (2.7) | 6.4 | 糸切り、酸化炎焼成 |
| 31 | 7E4 | トレンチ | | 須恵器 | 有台杯 | Ⅰb | － | － | － | － | (1.3) | 7.8 | 糸切り |
| 32 | 3E15 | | 沢33層 | 須恵器 | 有台杯 | Ⅱ | 0.68 | 0.44 | 7 | 16.0 | 7.0 | 10.8 | 糸切り |
| 33 | 3E14 | | 沢33層 | 須恵器 | 蓋 | Ⅰ | － | － | 1 | 12.0 | (2.0) | － | ヨコナデ |
| 34 | 6E23・24 | | 沢東2層 | 須恵器 | 蓋 | Ⅰ | － | 0.20 | 1 | 13.7 | 2.8 | － | ヨコナデ、天井ケズリ |
| 35 | 4E12 | | 沢3層 | 須恵器 | 蓋 | Ⅰ | － | － | 4 | 14.0 | (2.0) | － | ヨコナデ |
| 36 | 6D24 | | 沢20層 | 須恵器 | 蓋 | Ⅰ | － | 0.22 | 3 | 14.6 | 3.2 | － | ヨコナデ |
| 37 | 4E11 | | 1層 | 須恵器 | 蓋 | Ⅰ | － | － | － | 13.0 | (2.7) | － | ヨコナデ |
| 38 | 5D17 | | 沢18層 | 須恵器 | 蓋 | Ⅰ | － | － | 2 | 14.0 | － | － | ヨコナデ、天井ケズリ |
| 39 | 6E18 | | 沢12層 | 須恵器 | 蓋 | Ⅰ | － | 0.21 | 2 | 13.6 | 2.8 | － | ヨコナデ、天井ケズリ |
| 40 | 2F23・24 | | 沢33層 | 須恵器 | 蓋 | Ⅰ | － | － | － | － | － | － | ヨコナデ、天井ケズリ |
| 41 | 2F | | 沢33層 | 須恵器 | 蓋 | Ⅰ | － | － | － | － | － | － | 酸化炎焼成 |
| 42 | 2F9・14 | | 沢30層 | 須恵器 | 蓋 | Ⅱ | － | － | － | － | － | － | 円環状つまみ、ヨコナデ、天井ケズリ |
| 43 | 3E14 | | 沢33層 | 須恵器 | 蓋 | Ⅲ | － | － | 1 | 14.5 | － | － | ヨコナデ |
| 44 | 3F17 | | Ⅱ層 | 須恵器 | 脚部 | | － | － | － | － | (8.3) | － | 脚部筒状 |
| 45 | 5E2 | | 沢30層 | 須恵器 | 高杯 | | － | － | － | － | (4.5) | 7.5 | 短脚 |
| 46 | 1E2・5・25 | | 2層 | 須恵器 | 長頸瓶 | Ⅱ | － | － | － | － | (4.8) | － | ヨコナデ、自然釉 |
| 47 | 6C9 | | 沢2層 | 須恵器 | 長頸瓶 | Ⅱ | － | － | － | － | (7.7) | － | ヨコナデ、(体部最大径13.1㎝) |
| 48 | 3E17・18 | | 沢33層 | 須恵器 | 長頸瓶 | Ⅰ | － | － | － | － | (12.5) | － | 器壁薄い、ヨコナデ 小泊産 |
| 49 | 7C24 | サブトレ | | 須恵器 | 長頸瓶 | Ⅰ | － | － | － | － | (1.2) | 9.6 | |
| 50 | 5E24 | | 沢5層 | 須恵器 | 長頸瓶 | Ⅰ | － | － | － | － | 2.0 | 10.6 | 底部叩き痕 |
| 51 | 6E14・19 | | 沢2層他 | 須恵器 | 広口瓶 | | － | － | － | － | (32.7) | 18.7 | ヨコナデ、(体部最大径27.7㎝) 小泊産 |
| 52 | 2F23・24 | | 沢33層 | 須恵器 | 横瓶 | | － | － | － | － | － | － | 自然釉、内外面格子叩き |
| 53 | 8B24 | | 2層 | 須恵器 | 横瓶 | | － | － | － | － | － | － | 内外面格子叩き |
| 54 | 6E23・24 | | 沢東2層 | 須恵器 | 甕 | | － | － | 1 | 32.0 | (6.8) | － | 口縁部ヨコナデ |
| 55 | 6B8 | | 沢2層 | 須恵器 | 甕 | | － | － | － | － | － | － | 口縁部波状櫛描 |
| 56 | 3E17・18 | | 沢33層 | 須恵器 | 甕 | | － | － | － | － | － | － | 底部、内外面格子叩き |
| 57 | 7E7 | トレンチ | 沢21層 | 須恵器 | 甕 | | － | － | － | － | － | － | 底部、内面同心円叩き |
| 58 | 7B6 | | 2層 | 須恵器 | 甕 | | － | － | － | － | － | － | 自然釉、内面同心円叩き |
| 59 | 8C24 | | 2層 | 須恵器 | 甕 | | － | － | － | － | | | 内面同心円叩き |
| 60 | 6E3 | | Eベルト東3層 | 土師器 | 椀 | Ⅰa | 0.52 | 0.30 | 1 | 9.7 | 2.9 | 5.0 | ヨコナデ、糸切り |
| 61 | 6D15 | | 沢7層 | 土師器 | 椀 | Ⅰa | － | － | 4 | 10.4 | (2.6) | － | ヨコナデ |
| 62 | 2F23・24 | | 沢33層 | 土師器 | 椀 | Ⅰa | 0.40 | 0.29 | 6 | 10.1 | 2.9 | 4.0 | ヨコナデ、糸切り |
| 63 | 2F22・23 | | 沢33層 | 土師器 | 椀 | Ⅰa | 0.54 | 0.23 | － | 11.2 | 2.6 | 6.0 | 摩耗 |
| 64 | 8D7 | | 沢21層 | 土師器 | 椀 | Ⅰa | 0.46 | 0.29 | 1 | 10.8 | 3.1 | 5.0 | ヨコナデ、糸切り |

## 土器観察表（古代）(2)

| No. | グリッド | 遺構 | 層位 | 種別 | 器種 | 分類 | 底径/口径 | 高さ/口径 | 残存率 | 法量（cm） | | | 調整等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | ／16 | 口径 | 器高 | 底径 | |
| 65 | 2F9・14 | | 沢32層 | 土師器 | 椀 | Ⅰa | 0.48 | 0.27 | 3 | 12.2 | 3.3 | 5.9 | ヨコナデ、糸切り |
| 66 | 7D23 | | 沢20層 | 土師器 | 椀 | Ⅰa | 0.37 | 0.26 | 3 | 12.3 | 3.2 | 4.5 | ヨコナデ、糸切り |
| 67 | 2F23 | | 沢30層 | 土師器 | 椀 | Ⅰa | － | － | 4 | 13.0 | (2.8) | － | ヨコナデ |
| 68 | 6E3 | | Eベルト東3層 | 土師器 | 椀 | Ⅰa | 0.50 | 0.29 | 15 | 13.0 | 3.8 | 6.5 | ヨコナデ、糸切り |
| 69 | 7D8 | | 沢7層 | 土師器 | 椀 | Ⅰa | 0.49 | 0.28 | 1 | 13.0 | 3.7 | 6.4 | ヨコナデ、糸切り |
| 70 | 6D15 | | 沢21層 | 土師器 | 椀 | Ⅰb | 0.60 | 0.27 | 1 | 11.0 | 3.0 | 6.6 | ヨコナデ、糸切り |
| 71 | 6D15 | | 沢21層 | 土師器 | 椀 | Ⅰb | 0.59 | 0.26 | 1 | 10.8 | 2.8 | 6.4 | ヨコナデ、糸切り |
| 72 | 8D1 | | 沢21層 | 土師器 | 椀 | Ⅰb | 0.45 | 0.27 | 3 | 11.0 | 3.0 | 5.0 | ヨコナデ、糸切り |
| 73 | 7E6 | | 沢21層 | 土師器 | 椀 | Ⅱ | 0.44 | 0.24 | 1 | 15.6 | 3.7 | 6.8 | ヨコナデ、糸切り、内黒 |
| 74 | 2F22・23 | | 沢33層 | 土師器 | 椀 | Ⅱ | － | － | － | － | (2.0) | 6.4 | 下半部・底部ケズリ |
| 75 | | 排土 | | 土師器 | 椀 | Ⅲ | 0.44 | 0.30 | － | 16.0 | 4.8 | 7.0 | ヨコナデ、糸切り |
| 76 | 6E14・19 | | 沢東2層 | 土師器 | 椀 | Ⅲ | 0.38 | 0.32 | 4 | 16.2 | 5.2 | 6.2 | ヨコナデ、糸切り |
| 77 | 7D8 | | 沢20層 | 土師器 | 椀 | Ⅲ | 0.50 | 0.30 | 3 | 14.1 | 4.3 | 7.0 | 強いヨコナデ、糸切り |
| 78 | 6E3 | | Eベルト東3層 | 土師器 | 椀 | Ⅲ | － | － | － | － | 2.0 | 6.0 | 摩耗 |
| 79 | 2F2 | | ベルト東3層 | 土師器 | 椀 | Ⅲ | － | － | － | － | (2.0) | 7.0 | 摩耗 |
| 80 | 7A18 | | 西側斜面Ⅱ層 | 土師器 | 椀 | Ⅲ | － | － | － | － | (3.3) | 6.6 | 糸切り、摩耗 |
| 81 | 8B24 | | Ⅱ層 | 土師器 | 椀 | Ⅲ | － | － | － | － | (2.2) | 6.8 | ヨコナデ、糸切り |
| 82 | 2F22・23 | | 沢33層 | 土師器 | 椀 | Ⅳ | 0.36 | 0.32 | 4 | 11.6 | 3.7 | 4.2 | ヨコナデ、糸切り |
| 83 | 3E17・18 | | 沢33層 | 土師器 | 椀 | Ⅳ | 0.42 | 0.36 | 4 | 10.4 | 3.7 | 4.4 | ヨコナデ、糸切り |
| 84 | 2F22・23 | | 沢33層 | 土師器 | 椀 | Ⅳ | － | － | － | － | (3.2) | 4.2 | ヨコナデ、糸切り |
| 85 | 2F9・14 | | 沢30・32層 | 土師器 | 椀 | Ⅳ | 0.44 | 0.37 | 2 | 11.5 | 4.3 | 5.1 | ヨコナデ、糸切り |
| 86 | 7E7 | | 沢21層 | 土師器 | 椀 | Ⅳ | 0.40 | 0.35 | 4 | 12.4 | 4.4 | 5.0 | ヨコナデ |
| 87 | 2F18・19 | | 沢32層 | 土師器 | 椀 | Ⅳ | 0.43 | 0.34 | － | 11.6 | 3.9 | 5.0 | ヨコナデ、糸切り |
| 88 | 8D1 | | 沢21層 | 土師器 | 椀 | Ⅳ | 0.51 | 0.37 | 1 | 12.1 | 4.5 | 6.2 | ヨコナデ、糸切り、内黒 |
| 89 | 2F2 | | Eベルト東3層 | 土師器 | 椀 | Ⅳ | － | － | － | － | (1.2) | (5.8) | 摩耗 |
| 90 | 2F2 | | ベルト東3層 | 土師器 | 椀 | Ⅳ | － | － | － | － | (1.5) | 6.0 | 糸切り、摩耗 |
| 91 | 2F2 | | Eベルト東3層 | 土師器 | 椀 | Ⅳ | － | － | － | － | (1.6) | (6.2) | ヨコナデ、糸切り |
| 92 | 8D8 | | 沢6層 | 土師器 | 椀 | Ⅴ | 0.53 | 0.40 | 4 | 13.1 | 5.3 | 7.0 | ヨコナデ、糸切り |
| 93 | 6E4 | | 沢16層Hベルト | 土師器 | 椀 | Ⅴ | 0.50 | 0.44 | 5 | 12.0 | 5.3 | 6.0 | ヨコナデ、糸切り、摩耗 |
| 94 | 6E5 | | 沢20層 | 土師器 | 椀 | Ⅴ | 0.47 | 0.43 | 4 | 11.6 | 5.0 | 5.4 | ヨコナデ、摩耗、内黒 |
| 95 | 7D8 | | 沢7層 | 土師器 | 椀 | Ⅴ | － | － | － | － | (4.0) | 5.0 | ヨコナデ、糸切り |
| 96 | | SK24他 | | 土師器 | 椀 | Ⅴ | － | － | － | － | (2.7) | 6.0 | ヨコナデ、糸切り |
| 97 | 3E21 | | 沢33層 | 土師器 | 椀 | Ⅵ | 0.45 | 0.56 | － | 18.6 | 10.4 | 8.3 | ヨコナデ、糸切り、内外面スス、炭化物 |
| 98 | 2F18・F19 | | 沢33層 | 土師器 | 椀 | Ⅵ | 0.43 | 0.45 | 8 | 19.4 | 8.8 | 8.3 | ヨコナデ、糸切り |
| 99 | 2F23・24 | | 沢33層 | 土師器 | 椀 | Ⅵ | 0.44 | 0.47 | 1 | 18.0 | 8.4 | 8.0 | ヨコナデ、糸切り、内外面スス、炭化物 |
| 100 | 2F22・23 | | 沢33層 | 土師器 | 椀 | Ⅵ | － | － | 3 | 18.2 | (7.0) | － | ヨコナデ、外面スス |
| 101 | 2F23・24 | | 沢33層 | 土師器 | 椀 | Ⅵ | 0.42 | 0.38 | 4 | 17.5 | 6.7 | 7.4 | ヨコナデ、糸切り、内外面スス、炭化物 |
| 102 | 2F23・24 | | 沢33層 | 土師器 | 椀 | Ⅵ | － | － | － | － | (5.0) | 8.5 | ヨコナデ、糸切り |
| 103 | 8B24　8C13 | | Ⅱ層 | 土師器 | 椀 | Ⅵ | － | － | － | － | (4.3) | 9.6 | 摩耗、内面炭化物 |
| 104 | 2F9・14 | | 沢32層 | 土師器 | 椀 | Ⅵ | － | － | － | － | (3.0) | 9.0 | ヨコナデ、糸切り |
| 105 | 6D15 | | 沢21層 | 土師器 | 有台椀 | | 0.47 | 0.47 | 5 | 15.0 | 7.0 | 7.0 | ヨコナデ、内黒 |
| 106 | 7D | | 沢20層 | 土師器 | 有台椀 | | － | － | 2 | 15.8 | (4.2) | － | ヨコナデ、内黒 |
| 107 | 6E9 | | 沢20層 | 土師器 | 有台椀 | | － | － | － | － | － | 6.0 | 摩耗、内黒 |
| 108 | 5E3 | | 沢30層 | 土師器 | 有台椀 | | － | － | － | － | － | 8.0 | 黒色土器 |
| 109 | 2F22・23 | | 沢33層 | 土師器 | 有台椀 | | － | － | － | － | (2.7) | 6.6 | 内黒、暗灰色、内面十字暗文 |
| 110 | 7E3・8 | | ベルト東3層 | 土師器 | 有台椀 | | － | － | － | － | (2.3) | 6.4 | 摩耗、内黒 |
| 111 | 2F2 | | Eベルト東3層 | 土師器 | 有台椀 | | － | － | － | － | (1.6) | 7.2 | 内黒 |
| 112 | 7E6 | | 沢20層 | 土師器 | 有台椀 | | － | － | － | － | － | ? | 摩耗、内黒 |
| 113 | 6D25 | | 沢5層 | 土師器 | 有台椀 | | － | － | － | － | － | － | 摩耗、内黒 |
| 114 | 5E3 | | 沢30層 | 土師器 | 有台椀 | | － | － | － | － | (1.5) | 7.2 | 摩耗、内黒 |
| 115 | 7D7 | | 沢7層 | 土師器 | 有台椀 | | － | 0.44 | － | 12.0 | 5.3 | (7.5) | 摩耗 |
| 116 | 5E3 | | 沢30層 | 土師器 | 有台椀 | | － | － | － | － | (2.8) | 7.7 | 摩耗 |
| 117 | 6D15 | | 沢21層 | 土師器 | 有台椀 | | － | － | － | － | (2.5) | 7.2 | 摩耗 |
| 118 | 5E3 | | 沢30層 | 土師器 | 有台椀 | | － | － | － | － | (2.7) | 8.6 | 摩耗 |
| 119 | 5E3 | サブトレ | Ⅵ層 | 土師器 | 有台椀 | | － | － | － | － | (2.8) | 10.6 | 摩耗、ヨコナデ |
| 120 | 7D20 | | 沢7層 | 土師器 | 鉢 | | － | － | 1 | 31.0 | (7.0) | － | 摩耗、ヨコナデ |
| 121 | 3E17・18 | | 沢33層 | 土師器 | 鉢 | | － | － | － | － | (4.0) | 10.5 | 外面ケズリ？、内面炭化物 |
| 122 | | SK24 | 1層 | 土師器 | 有台鉢 | | － | － | 4 | 31.6 | (8.7) | (16.5) | 摩耗、ヨコナデ |
| 123 | 5D17 | | 沢18層 | 土師器 | 有台鉢 | | － | － | 1 | 28.2 | (10.0) | － | ヨコナデ |
| 124 | 8D | トレンチ | | 土師器 | 有台鉢 | | － | － | － | － | (4.3) | 7.0 | 外面ケズリ？ |
| 125 | 2F23・24 | | 沢33層 | 土師器 | 鍋 | Ⅰ | － | － | 1 | 18.4 | (4.5) | － | ヨコナデ、内面炭化物 |
| 126 | 2F22・23 | | 沢33層 | 土師器 | 鍋 | Ⅰ | － | － | 2 | 22.0 | (5.0) | － | 摩耗、ヨコナデ |
| 127 | 2F23・24 | | 沢33層 | 土師器 | 鍋 | Ⅰ | － | － | 8 | 20.0 | (6.0) | － | ヨコナデ |
| 128 | 3E17・18 | | 沢33層 | 土師器 | 鍋 | Ⅰ | － | － | － | 18.0 | (5.4) | － | ヨコナデ、外面スス |

## 土器観察表（古代）(3)

| No. | グリッド | 遺構 | 層位 | 種別 | 器種 | 分類 | 底径/口径 | 高さ/口径 | 残存率 ／16 | 法量（cm） 口径 | 器高 | 底径 | 調整等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 129 | 3E21 | | 沢33層 | 土師器 | 鍋 | Ⅰ | － | － | － | 16.2 | (6.4) | － | ヨコナデ |
| 130 | 2F22・23 | | 沢33層 | 土師器 | 鍋 | Ⅰ | － | － | － | 17.0 | (6.2) | － | ヨコナデ |
| 131 | 2F9・143E21 | | 沢32層<br>沢33層 | 土師器 | 鍋 | Ⅰ | － | － | 3 | 22.0 | (6.0) | － | ヨコナデ、外面スス |
| 132 | 3E17・18 | | 沢33層 | 土師器 | 鍋 | Ⅰ | － | － | － | 17.2 | (5.5) | － | ヨコナデ、外面スス |
| 133 | 6D10 | | 沢21層 | 土師器 | 鍋 | Ⅱ | － | 0.47 | 4 | 29.0 | 13.6 | － | 摩耗、ヨコナデ |
| 134 | 3E21 | | 沢33層 | 土師器 | 鍋 | Ⅲ | － | － | 1.5 | 33.2 | (4.7) | － | 摩耗、ヨコナデ、内面炭化物 |
| 135 | 2F18・19 | | 沢32層 | 土師器 | 鍋 | Ⅲ | － | － | － | 32.5 | (6.8) | － | カキメ、ヨコナデ、外面スス |
| 136 | 3E15 | | 沢33層 | 土師器 | 鍋 | Ⅲ | － | － | 4 | 32.0 | (5.6) | － | カキメ、ヨコナデ、摩耗 |
| 137 | 3E17・18 | | 沢33層 | 土師器 | 鍋 | Ⅲ | － | － | － | 26.5 | (6.4) | － | カキメ、ヨコナデ、内面炭化物 |
| 138 | 7D | | 沢21層 | 土師器 | 長釜 | | － | － | － | 26.0 | (8.6) | － | 厚手 |
| 139 | 2F23・24 | | 沢33層 | 土師器 | 長釜 | | － | － | － | 22.0 | (4.0) | － | ヨコナデ、外面スス |
| 140 | 2F22・23 | | 沢33層 | 土師器 | 長釜 | | － | － | 2 | 22.0 | (6.3) | － | ヨコナデ |
| 141 | 8B24 | | Ⅱ層 | 土師器 | 長釜 | | － | － | 2 | 18.0 | (2.9) | － | ヨコナデ |
| 142 | 8B24 | | Ⅱ層 | 土師器 | 長釜 | | － | － | 1 | 19.6 | (2.4) | － | ヨコナデ |
| 143 | 2F23・24 | | 沢33層 | 土師器 | 長釜 | | － | － | 1 | 20.0 | (4.4) | － | ヨコナデ |
| 144 | 5D23 | | 沢17層 | 土師器 | 長釜 | | － | 0.22 | － | 23.0 | 5.0 | － | ヨコナデ |
| 145 | 2F9・14 | | 沢30層 | 土師器 | 長釜 | | － | － | 1 | 21.4 | (7.6) | － | カキメ、ヨコナデ、内面炭化物 |
| 146 | 2F23・24 | | 沢33層 | 土師器 | 長釜 | | － | － | 2 | 21.0 | (8.8) | － | ヨコナデ、内面炭化物 |
| 147 | 2F22・23 | | 沢33層 | 土師器 | 長釜 | | － | － | － | － | (15.0) | － | 外面叩き、スス |
| 148 | 2F22・23 | | 沢33層 | 土師器 | 長釜 | | － | － | － | － | － | － | 外面叩き、スス |
| 149 | | SK29 | | 土師器 | 小釜 | | － | － | 6 | 12.0 | (6.0) | － | ヨコナデ、摩耗 |
| 150 | 2F22・23 | | 沢33層 | 土師器 | 小釜 | | － | － | 1 | 12.0 | (4.2) | － | ヨコナデ、外面スス |
| 151 | 2F5 | | 沢30層 | 土師器 | 小釜 | | － | － | － | － | (2.8) | 7.1 | ヨコナデ、糸切り |
| 152 | 7E2<br>6E7・13・14 | 2トレンチ | 沢3層<br>沢10層 | 緑釉 | 皿 | | － | － | 2 | 15.0 | － | － | 露胎なく全面釉、濃緑色<br>底部薄く高台内側に有段 |
| 153 | 6D24 | | 沢18層 | 灰釉 | 皿？ | | － | － | － | － | 0.9 | 6.8 | |
| 154 | 7D2 | | 2層 | 灰釉 | 皿 | | － | － | － | － | － | － | |
| 155 | 5D24 | | 沢5層 | 灰釉 | 壺 | | － | － | － | － | (4.5) | － | |
| 156 | 6E21 | | 沢2層 | 灰釉 | 壺 | | － | － | － | － | － | － | |
| 157 | 7E5 | トレンチ | 沢5層 | 灰釉 | 壺 | | － | － | － | － | (12.1) | － | (体部最大径16.2㎝) |
| 158 | 6E22 | | 沢11層 | 灰釉 | 壺 | | － | － | － | － | － | － | |
| 159 | 7E1 | | 沢5層 | 灰釉 | 壺 | | － | － | － | － | (1.7) | 10.0 | |
| 160 | 4E8 | | 4層 | 灰釉 | 壺？ | | － | － | － | － | (1.4) | 9.0 | |

## 土器観察表（中世）

| No. | グリッド | 遺構 | 層位 | 種別 | 器種 | 分類 | 残存率 ／16 | 法量（cm） 口径 | 器高 | 底径 | 調整等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 161 | 4E19 | | 沢東斜面1層 | 珠洲 | 壺 | R種 | － | － | － | － | 肩部大きな櫛波状文（頸部径8.4㎝） |
| 162 | 9D4 | | 沢2層 | 珠洲 | 壺 | K種？ | 3 | 18.0 | (4.8) | － | ヨコナデ |
| 163 | 2F9・14 | SD2 | | 珠洲 | 甕 | | － | － | － | － | 外面叩き |
| 164 | 6D25 | | 沢5層 | 珠洲 | 甕 | | － | － | － | － | 外面叩き、内面剥落 |
| 165 | 10B7 | | Ⅱ層 | 珠洲 | 甕 | | － | － | － | － | 外面叩き |
| 166 | 8B24 | | Ⅱ層 | 珠洲 | 甕 | | － | － | － | － | 外面叩き |
| 167 | 5B8 | | Ⅱ層 | 珠洲 | 甕 | | － | － | － | － | 外面叩き |
| 168 | 7B9 | | Ⅱ層 | 珠洲 | 甕 | | － | － | － | － | 外面叩き |
| 169 | 2F | | | 珠洲 | 甕 | | － | － | － | － | 外面叩き |
| 170 | 5E24 | | 沢11層 | 珠洲 | 甕 | | － | － | － | － | 外面叩き |
| 171 | 4B9 | | Ⅲ層 | 珠洲 | 甕 | | － | － | － | － | 外面叩き |
| 172 | 5E24 | | 沢11層 | 珠洲 | 甕 | | － | － | － | － | 外面叩き |
| 173 | 7E21 | | 木撹乱 | 珠洲 | 甕 | | － | － | － | － | 外面叩き |
| 174 | 6E21 | | 沢11層 | 珠洲 | 擂鉢 | | 1 | 19.7 | (5.0) | － | |
| 175 | 6B8 | | Ⅱ層 | 珠洲 | 擂鉢 | | － | － | － | － | 片口 |
| 176 | 4D17 | | Ⅱ層 | 珠洲 | 擂鉢 | | 1 | 37.2 | (8.3) | － | 片口 |
| 177 | 1D15 | | Ⅱ層 | 珠洲 | 擂鉢 | | － | 32.0 | (7.0) | － | 片口、口縁部内面櫛描波状文、櫛目密 |
| 178 | 7E6 | | 沢5層 | 珠洲 | 擂鉢 | | － | 28.1 | (3.7) | － | 口縁部内面櫛波状文 |
| 179 | 3C21 | | 沢2層 | 珠洲 | 擂鉢 | | 2 | 26.0 | (4.5) | － | 櫛目 |
| 180 | 3F17 | | Ⅱ層 | 珠洲 | 擂鉢 | | － | 31.5 | (5.3) | － | 櫛目 |
| 181 | 5E11 | | 沢5層 | 珠洲 | 擂鉢 | | － | － | (1.5) | 11.0 | 底部 |
| 182 | | 表採 | | 珠洲 | 擂鉢 | | － | － | － | － | 櫛目に間隔 |
| 183 | 1C24 | | Ⅱ層 | 珠洲 | 擂鉢 | | － | － | － | － | 底部 |
| 184 | 6E12 | | 沢18層 | 珠洲 | 擂鉢 | | － | － | － | － | 櫛目に間隔、灰白色 |
| 185 | 6F4 | | 沢2層・東2層 | 珠洲 | 擂鉢？ | | － | － | － | 10.0 | 底部回転糸切り |
| 186 | 5E17 | | 沢5層 | 越前 | 甕 | | － | 30.0 | (4.0) | － | 口縁部 |
| 187 | 6E7 | | 沢5層 | 青磁 | 碗 | | － | 15.6 | (4.6) | － | 口縁外反、無文、被熱 |
| 188 | 2F18、7B4<br>2F17<br>7D5 | | (東) Ⅱ層<br>(西) Ⅱ層<br>沢5層 | 青磁 | 碗 | | － | － | (4.5) | 6.0 | 口縁雷文帯、見込み凡字「カーン」月輪 |
| 189 | 6D21 | | 沢5層 | 青磁 | 皿 | | － | 12.0 | (1.7) | － | 黄灰色 |
| 190 | 3F12 | | Ⅱ層 | 白磁 | 皿 | | － | － | (1.3) | 3.8 | |
| 191 | 2F20 | | Ⅱ層 | 青花 | 碗 | | | | | | 見込み如意雲、高台内「萬福攸同」 |

## 土器観察表（近世）

| No. | グリッド | 遺構 | 層位 | 種別 | 器種 | 時期（西暦） | 残存率 | 法量（cm） | | | 器形、文様、釉薬、胎土等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | ／16 | 口径 | 器高 | 底径 | |
| 192 | 2F15、3F11・12 | | Ⅱ層 | 肥前系磁器 | 皿 | Ⅱ－2（1630～40） | － | 8.5 | 1.9 | 3.4 | 山水文 |
| 193 | 3F6 | | Ⅱ層 | 肥前系磁器 | 皿 | Ⅱ－2（1630～40） | 5 | 13.6 | 3.1 | 6.8 | 内面体部海老文 |
| 194 | 3F17 | | 2層 | 肥前系磁器 | 皿 | Ⅱ－2（1630～40） | － | － | 2.8 | 6.4 | 内面体部菊花文、見込み寿字文、蛇の目高台 |
| 195 | 5E18 | | 沢5層 | 肥前系磁器 | 皿 | Ⅱ－2（1640） | 16 | 14.2 | 4.0 | 6.2 | 内面体部区画文に菊花文、見込み寿字文、蛇の目高台 |
| 196 | 3F | | Ⅱ層 | 肥前系磁器 | 皿 | Ⅱ－2 | 1 | 12.0 | 2.4 | 4.5 | 文様不明 |
| 197 | 3F12 | | Ⅱ層 | 肥前系磁器 | 皿 | Ⅱ－2 | － | － | (1.0) | 5.0 | 見込み唐草文 |
| 198 | 3F6 | | Ⅲ層 | 肥前系磁器 | 皿 | Ⅱ－2（1630～40） | 8 | 11.9 | 3.4 | 4.4 | 草花文 |
| 199 | 2F8 | | Ⅱ層 | 肥前系磁器 | 皿 | Ⅲ | 2 | 14.0 | 3.5 | 5.0 | 青磁、見込み蛇の目釉剥ぎ |
| 200 | 3F17 | | Ⅱ層 | 肥前系磁器 | 皿 | Ⅲ | 1 | 13.1 | 3.5 | 5.5 | 青磁、見込み蛇の目釉剥ぎ |
| 201 | 2F8 | | Ⅱ層 | 肥前系磁器 | 皿 | Ⅲ（1650～70） | － | 14.5 | 3.0 | 8.0 | 内面山水文？、外面折松葉文 |
| 202 | 2F25 | | Ⅱ層 | 肥前系磁器 | 皿 | Ⅲ | － | － | 3.8 | 12.0 | 見込み二重圏線・草花文、外－（梅花）唐草文 |
| 203 | 2F13 | SD2 | | 肥前系磁器 | 碗 | Ⅱ－2 | － | － | (5.0) | 4.0 | 笹文、高台無釉 |
| 204 | 3F17 | | Ⅱ層 | 肥前系磁器 | 碗 | Ⅱ－2 | － | － | (3.9) | 4.0 | 笹文、高台無釉 |
| 205 | 2F8 | | Ⅱ層 | 肥前系磁器 | 碗 | Ⅲ（1670～90） | 2 | 12.4 | (5.0) | － | 二重圏線、花文（型紙摺） |
| 206 | 2F13・14 | SD2井戸一括 | | 肥前系磁器 | 碗 | Ⅲ（1650～60） | 4 | 10.5 | 7.6 | 4.3 | 網目文 |
| 207 | 2D11 | | Ⅱ層 | 肥前系磁器 | 碗 | Ⅲ | 2 | 10.7 | 7.5 | 6.0 | 外鉄釉、内透明釉 |
| 208 | － | | | 肥前系磁器 | 鉢 | Ⅱ－2（1630～40） | － | － | (7.0) | 7.6 | 菊唐草文 |
| 209 | 3F11 | | Ⅱ層 | 肥前系磁器 | 仏飯器 | Ⅱ－2（1630～40） | － | － | (5.4) | 4.3 | 文様不明、脚部下無釉 |
| 210 | 2F9 | SD2 | | 肥前系磁器 | 瓶 | Ⅱ－2（1630～40） | － | － | (8.0) | 4.8 | 草文、碁笥底 |
| 211 | 3F6 | | 2層 | 肥前系磁器 | 小杯 | Ⅱ？ | 4 | 6.8 | 4.1 | 2.4 | 高台無釉、透明釉 白磁、内面痂入 |
| 212 | 2F10・3F12・18 | | | 肥前系磁器 | 壺 | Ⅲ？ | － | － | － | 8.0 | 白磁 |
| 213 | 2F8・10・17、3F | | | 肥前系磁器 | 皿 | Ⅱ－2（1630～40） | | 27.2 | (7.2) | 8.8 | 全面透明釉、口錆、口縁内面文様 |
| 214 | 3F18 | | Ⅱ層 | 肥前系磁器 | 瓶 | Ⅲ（1650～1660） | － | － | － | － | 肩部色絵 |
| 215 | 3F18 | | Ⅱ層 | 肥前系磁器 | 瓶 | Ⅲ（1650～1660） | － | － | － | － | 体部色絵 |
| 216 | 2D3 | | Ⅱ層 | 肥前系磁器 | 瓶 | Ⅲ（1650～1660） | － | － | (1.8) | 4.8 | 色絵 |
| 217 | 3F18 | | Ⅱ層 | 肥前系磁器 | 瓶 | Ⅲ（1650～1660） | － | 12.0 | (2) | － | 色絵、七宝 |
| 218 | 4C21 | | 沢2層 | 肥前系陶器 | 皿 | Ⅱ | － | － | － | － | 鉄釉、絵唐津 |
| 219 | 6E4 | | 沢5層 | 肥前系陶器 | 皿 | Ⅱ | － | － | － | 4.8 | 灰釉 絵唐津 |
| 220 | 2F17、3F18 | | Ⅱ層 | 肥前系陶器 | 皿 | Ⅱ | 3 | 12.0 | 3.1 | 3.8 | 波皿、灰釉 |
| 221 | 2F | SD2 | | 肥前系陶器 | 皿 | Ⅱ | 3 | 13.0 | 3.0 | 4.4 | 溝縁皿、透明釉、砂目 |
| 222 | 2F17 | | Ⅱ層 | 肥前系陶器 | 皿 | Ⅱ | － | 12.0 | 2.7 | 5.7 | 溝縁皿、透明釉、砂目 |
| 223 | 1E | SD1 | Ⅱ層 | 肥前系陶器 | 皿 | Ⅱ | 4 | 12.0 | 3.0 | 5.6 | 溝縁皿、透明釉、砂目 |
| 224 | 2F17 | | Ⅱ層 | 肥前系陶器 | 皿 | Ⅱ | 8 | 12.8 | 2.8 | 3.8 | 溝縁皿、透明釉、砂目 |
| 225 | 3F17 | | Ⅱ層 | 肥前系陶器 | 皿 | Ⅱ | － | 12.6 | 2.6 | 4.5 | 溝縁皿、透明釉、砂目 |
| 226 | 2D3 | | Ⅱ層 | 肥前系陶器 | 皿 | Ⅱ | 6 | 13.4 | (3.0) | － | 溝縁皿、灰釉、砂目 |
| 227 | 3F17 | | Ⅱ層 | 肥前系陶器 | 皿 | Ⅲ | 2 | 13.0 | 3.6 | 4.8 | 銅緑釉、見込み蛇の目釉剥ぎ |
| 228 | 2F14 | SD2 | | 肥前系陶器 | 皿 | Ⅲ | 4 | 13.3 | 4.9 | 3.9 | 銅緑釉、見込み蛇の目釉剥ぎ |
| 229 | 2F25 | | Ⅱ層 | 肥前系陶器 | 皿 | Ⅲ | 2 | 13.0 | 3.7 | 4.6 | 銅緑釉、見込み蛇の目釉剥ぎ |
| 230 | 3F17 | | Ⅱ層 | 肥前系陶器 | 皿 | Ⅲ | 10 | 13.0 | 3.2 | 4.5 | 銅緑釉、見込み蛇の目釉剥ぎ |
| 231 | 2F14 | SD2 | | 肥前系陶器 | 皿 | Ⅲ | － | 12.5 | 4.0 | 4.4 | 透明釉、見込み蛇の目釉剥ぎ |
| 232 | 2F | SD2 | | 肥前系陶器 | 皿 | Ⅲ | 15 | 13.0 | 4.4 | 4.0 | 透明釉、見込み蛇の目釉剥ぎ |
| 233 | 3F17 | | Ⅱ層 | 肥前系陶器 | 皿 | Ⅲ | 3 | 14.2 | 4.6 | 4.3 | 透明釉、見込み蛇の目釉剥ぎ |
| 234 | 2F14・19・24 | SD2 | | 肥前系陶器 | 皿 | Ⅲ | 4 | 14.8 | 4.7 | 5.0 | 透明釉、見込み蛇の目釉剥ぎ |
| 235 | 3F16 | | Ⅱ層 | 肥前系陶器 | 皿 | Ⅲ | － | － | (3.0) | 4.7 | 透明釉、見込み蛇の目釉剥ぎ |
| 236 | 2F3・14 | SD2 | Ⅱ・Ⅲ層 | 肥前系陶器 | 皿 | Ⅲ | 3 | 14.3 | 6.0 | 5.4 | 透明釉、見込み蛇の目釉剥ぎ |
| 237 | 2F14・15・20 | SD2 | | 肥前系陶器 | 皿 | Ⅲ | 10 | 14.5 | 4.7 | 4.5 | 透明釉、見込み蛇の目釉剥ぎ |
| 238 | 3F10 | | Ⅱ層 | 肥前系陶器 | 皿 | Ⅲ？ | 7 | 11.3 | 2.7 | 4.3 | 無釉（口縁自然釉）、灯明皿 |
| 239 | 2D7 | | Ⅱ層 | 肥前系陶器 | 皿 | ？ | 4 | 11.4 | (1.9) | － | 薄い、耳付き |
| 240 | 2F | SD2 | | 肥前系陶器 | 碗 | Ⅲ（1660～80） | － | － | (3.5) | 4.6 | 高台無釉、高台内兜巾、藁灰釉（伊万里市餅田窯） |
| 241 | 1D22・2F | SD2 | Ⅱ層 | 肥前系陶器 | 碗 | Ⅲ | － | － | (4.1) | 4.2 | 鉄釉 |
| 242 | 1E | SD1 | 2層 | 肥前系陶器 | 碗 | Ⅲ | 4 | 10.2 | 6.5 | 4.7 | 京焼風？、灰釉 |
| 243 | 2F14 | SD2 | | 肥前系陶器 | 碗 | Ⅲ | 1 | 11.5 | 7.2 | 5.3 | 京焼風？、灰釉 |
| 244 | 2D7 | | 2層 | 肥前系陶器 | 碗 | Ⅲ | 2 | 11.7 | 7.1 | 5.2 | 京焼風？、鉄釉 |
| 245 | 2F25 | | Ⅱ層 | 肥前系陶器 | 碗 | Ⅲ？ | 2 | 11.0 | 7.8 | 4.9 | 灰釉、呉器手？ |
| 246 | 2F20 | | Ⅲ層 | 肥前系陶器 | 碗 | Ⅲ？ | 3 | 11.0 | 7.5 | 4.6 | 灰釉、呉器手？ |
| 247 | 3F6・11 | | Ⅱ層 | 肥前系陶器 | 碗 | Ⅲ | 8 | 10.0 | 5.6 | 5.6 | 京焼風、透明釉、楼閣山水文（対面にあり、1面色絵）「清水」刻印 |
| 248 | 2F20 | | Ⅱ層 | 肥前系陶器 | 碗 | Ⅲ？ | 8 | 11.0 | 5.0 | 6.7 | 京焼風、鉄釉、口錆、楼閣山水文、高台内および周辺鉄泥 |
| 249 | 3F12 | | Ⅱ層 | 肥前系陶器 | 碗 | Ⅲ？ | 6 | 11.0 | (5.5) | － | 京焼風、緑釉による文様 |
| 250 | E1 | SD1 | | 肥前系陶器 | 碗 | Ⅲ？ | 2 | 11.0 | (5.3) | － | 京焼風、緑釉による文様 |
| 251 | 2F14、3F17、5D2 | | Ⅱ層 | 肥前系陶器 | 火入 | Ⅲ | 2 | 26.6 | 9.5 | 11.6 | 銅緑釉、刷毛波状文、内外面鉄泥 |
| 252 | 2F15 | | Ⅱ層 | 肥前系陶器 | 火入 | Ⅲ | 2 | 9.8 | 7.3 | 5.2 | 灰釉 |
| 253 | 3F6 | | 2層 | 肥前系陶器 | 灯火具 | Ⅲ | － | (8.2) | (4.9) | 6.7 | 受け皿、糸切り |

## 土器観察表（近世）（2）

| No. | グリッド | 遺構 | 層位 | 種別 | 器種 | 時期（西暦） | 残存率 | 法量（cm） | | | 器形、文様、釉薬、胎土等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | ／16 | 口径 | 器高 | 底径 | |
| 255 | 2D3 | | Ⅲ層 | 肥前系陶器 | 瓶？ | ？ | － | － | (2.1) | 6.6 | 面取り、糸切り |
| 256 | 2F9・14 | SD2 | | 肥前系陶器 | 擂鉢 | Ⅱ | 4 | 29.0 | (7.2) | － | 口縁内面鍔、口縁のみ鉄釉 |
| 257 | 2F15 | | Ⅱ層 | 肥前系陶器 | 擂鉢 | Ⅱ | 2 | 30.0 | (7.0) | － | 口縁内面鍔、鉄釉 |
| 258 | 3F6 | | 2層 | 肥前系陶器 | 擂鉢 | Ⅲ | 5 | 30.6 | (8.0) | － | 口縁内面凸帯、鉄釉 |
| 259 | 2F14 | SD2 | | 肥前系陶器 | 擂鉢 | Ⅲ | 4 | 33.2 | (7.0) | － | 玉縁、鉄釉 |
| 260 | 2D7 | | 2層 | 肥前系陶器 | 擂鉢 | Ⅲ | － | 31.4 | (5.5) | － | 玉縁、鉄釉 |
| 261 | 2F9・14 | SD2 | | 肥前系陶器 | 擂鉢 | Ⅱ～Ⅲ | － | － | (6.2) | 11.0 | 鉄釉、糸切り底 |
| 262 | 2F4・25 | SD2 | | 肥前系陶器 | 擂鉢 | Ⅱ～Ⅲ | － | － | (5.6) | 10.6 | 鉄釉、糸切り底 |
| 263 | 2F13 | | 2層 | 肥前系陶器 | 擂鉢 | Ⅱ～Ⅲ | － | － | (4.4) | 10.2 | 鉄釉、糸切り底 |
| 264 | | SD2他 | | 肥前系陶器 | 鉢 | Ⅲ？ | － | 34.4 | (8.5) | － | 三島、透明釉、鉄泥 |
| 265 | 2F17 | | Ⅱ層 | 肥前系陶器 | 瓶 | ？ | － | － | (7.8) | 9.0 | 糸切り |
| 266 | 2F8・14 | SD2 | Ⅱ層 | 肥前系陶器 | 甕 | Ⅲ | 6 | 20.5 | (29.0) | (12.5) | 格子叩き |
| 267 | 1E、2F20 | SD1 | Ⅱ層 | 肥前系陶器 | 甕 | Ⅲ | － | (22.0) | (14.2) | － | 沈線 格子叩き、鉄釉 |
| 268 | 2D | SK5 | Ⅰ層 | 越中瀬戸 | 皿 | 17C後～18C前 | 4 | 14.3 | 4.1 | 5.2 | 鉄釉付け掛け 削り出し高台 |
| 269 | 2F19 | SD2 | | 越中瀬戸 | 皿 | 17C後～18C前 | 6 | 14.3 | 3.4 | 5.5 | 鉄釉付け掛け 削り出し高台 |
| 270 | 3F16 | 撹乱 | Ⅱ層 | 越中瀬戸 | 皿 | 17C後～18C前 | 3 | 13.9 | 3.5 | 5.7 | 鉄釉付け掛け 削り出し高台 |
| 271 | 2F19 | SD2 | | 越中瀬戸 | 皿 | 17C後～18C前 | 7 | － | 3.1 | 6.2 | 鉄釉付け掛け 削り出し高台 |
| 272 | 2F17 | | Ⅱ層 | 越中瀬戸 | 皿 | 17C中？ | 1 | 10.4 | 2.5 | 4.2 | 灰釉 削り出し高台 |
| 273 | 2F13 | SD2 | | 越中瀬戸 | 皿 | 17C中？ | 7 | 11.0 | 2.5 | 5.0 | 釉 削り出し高台 |
| 274 | 3F6・16 | | 2層 | 越中瀬戸 | 壺 | 17C後～18C前？ | － | 9.5 | (9.0) | － | 鉄釉（体部最大径12.6㎝） |
| 275 | 3F16・18 | | 2層 | 越中瀬戸 | 壺 | 17C後～18C前？ | 2 | 9.0 | (10.3) | － | 鉄釉（体部最大径12.6㎝） |
| 276 | 2F9・14・20、3F16 | SD2 | 2層 | 越中瀬戸 | 壺 | 17C後～18C前？ | 9 | 10.4 | (8.5) | － | 鉄釉（体部最大径13.9㎝） |
| 277 | 3F16 | | 2層 | 越中瀬戸 | 壺 | 17C後～18C前？ | 10 | 10.4 | (10.3) | － | 鉄釉（体部最大径14.0㎝） |
| 278 | 2F20、3F16 | | Ⅱ層 | 越中瀬戸 | 壺 | 17C後～18C前？ | 4 | 12.5 | 12.3 | 11.0 | 鉄釉、糸切り |
| 279 | 1D24、2F10 | | 2層 | 越中瀬戸 | 壺 | 17C後～18C前？ | 6 | 12.3 | (5.7) | － | 鉄釉 |
| 280 | 3F16 | | 2層 | 越中瀬戸 | 壺 | 17C後～18C前？ | － | － | (4.1) | 10.8 | 鉄釉、糸切り |
| 281 | 3F17 | | Ⅱ層 | 越中瀬戸 | 天目 | 17C後～18C前？ | 4 | 11.0 | (6.4) | － | 鉄釉 |
| 282 | 2F | SD2 | | 丸瓦 | － | 18C後半？ | | | | | 幅16.5㎝、長さ（23.5㎝）、厚さ7.0㎝、玉縁長4.8㎝、玉縁端幅9.8㎝、凹面板状側面タタキ |
| 283 | 2F9 | SD2 | | 軒丸瓦 | － | 18C後半？ | 10 | 15.4 | － | － | 連珠三巴文 |

## 石器観察表

| 報告No. | グリッド | 遺構名 | 層位 | 分類 | 最大長（mm） | 幅（mm） | 厚さ（mm） | 重量（g） | 石材 | 被熱 | 破損 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 284 | 3D19 | | 5 | 石鏃 | 37.45 | 27.45 | 8.50 | 7.14 | 珪質頁岩 | × | ガジリ | |
| 285 | 3E21 | | 33 | 磨製石斧 | 86.90 | 51.25 | 23.85 | 172.98 | 蛇紋岩 | × | 下半分欠損 | |
| 286 | 7D7 | | 5 | 磨製石斧 | 72.20 | 17.45 | 17.45 | 64.86 | 流紋岩 | × | × | |
| 287 | 7E6・11 | | 沢東3層 | 磨石 | 91.95 | 72.55 | 39.70 | 362.07 | 安山岩 | × | 下端欠損 | |
| 289 | 1D24 | | Ⅱ | 砥石 | 100.30 | 38.50 | 33.75 | 123.68 | 珪質凝灰岩 | × | 上下端欠損 | 2面に櫛歯状擦跡（7本/7mm） |
| 290 | 3F17 | | Ⅱ | 砥石 | 84.70 | 42.50 | 39.80 | 105.95 | 砂岩 | × | ガジリ | |
| 291 | 2F13 | | 沢2層 | 砥石 | 73.00 | 33.30 | 24.95 | 100.00 | 珪質凝灰岩 | × | 上半欠・ガジリ | |
| 294 | 2D | SK4 | － | 転用砥石 | 124.00 | 59.25 | 13.45 | 85.26 | 粘板岩 | × | ガジリ | 硯を転用 |
| 295 | 2F5 | SD2 | － | 石鉢 | 182.00 | 188.00 | 110.00 | 3370.00 | 安山岩 | × | 上縁 | |
| 296 | 2F4 | SD2 | － | 石鉢 | 241.00 | 227.00 | 137.00 | 4840.00 | 安山岩 | × | 1/5 | |
| 297 | 2F14 | SD2 | － | 石鉢 | 121.00 | 122.00 | 68.00 | 730.00 | 安山岩 | ○ | 1/2 | 外面に煤付着 |
| 298 | 2F13 | SD2 | － | 粉挽臼 | 290.00 | － | 88.00 | 4830.00 | キ石ヒン岩 | × | 1/2 | |
| 299 | 1D22 | SD2 | － | 粉挽臼 | (315) | － | 95.00 | 2350.00 | キ石ヒン岩 | × | 3/4 | |
| 300 | 1D18 | SD2 | 1 | 火輪 | 170.00 | 178.00 | 137.00 | 2890.00 | 安山岩 | × | ○ | 軒口～軒反りの一角が残存 |

## 石造物・土製品観察表

| 報告No. | グリッド | 遺構名 | 層位 | 分類 | 最大長（mm） | 幅（mm） | 厚さ（mm） | 重量（g） | 被熱 | 破損 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 301 | 7D24 | | 沢東② | 炉壁 | (324) | － | 110.00 | 375.00 | ○ | ○ | |
| 302 | 7D | SK21 | 2 | 炉壁 | 86.00 | 99.00 | 25.00 | 131.00 | ○ | ○ | |
| 293 | 5D24 | | 20 | 土錘 | 69.40 | 29.00 | 33.45 | 49.47 | × | 1/3 | |
| 288 | 7D21 | | 20 | 土製耳飾 | 14.75 | － | 15.40 | 2.76 | × | × | |
| 292 | 3F | | Ⅱ | 転用砥石 | 81.00 | 67.00 | 12.00 | 84.55 | × | × | 須恵器甕体部片を転用 |
| 303 | 6E18 | | 20 | 刀子 | 290.00 | 25.00 | 6.00 | － | × | 両端 | |

## 炭窯観察表

| 遺構№ | グリッド | 長径（cm） | 短径（cm） | 深さ（cm） | 平面形 | 断面形 | 焼け面 | | 炭化物 | 焼土 | 検出面 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 底面 | 壁面 | | | | |
| SK30 | 10C11・16 | 176 | 72 | 28 | Ⅱ | b | ○ | ○ | ○ | ◎ | 地山 | 1層　自然堆積<br>2層　被覆土<br>3層　炭屑の残存 |
| SK31 | 10C14 | 128 | 60 | 8 | 不整形 | b | × | × | △ | △ | 地山 | 1・3層　自然堆積<br>2層　窯壁の一部 |
| SK33 | 10C22 | 108 | 80 | 24 | Ⅰ | b | ○ | × | ◎ | ○ | 地山上面 | 1層　自然堆積<br>2層　炭屑<br>3層　窯壁の一部 |
| SK20 | 7C6・11<br>6C10・15 | 88 | 80 | 20 | Ⅰ | b | × | × | ◎ | × | 地山 | 1層　炭屑の残存 |
| SK13 | 5D8・13 | 104 | 88 | 16 | Ⅲ | a | ◎ | × | ◎ | ◎ | 地山 | 1層　自然堆積<br>2層　炭化物層<br>3層　被覆土<br>4層　焼成時の炭屑<br>5層　窯壁 |
| SK14 | 5D14 | 104 | － | 36 | Ⅰ | b | ○ | ○ | ◎ | ◎ | 地山 | 1・2層　自然堆積<br>3層　炭屑<br>4層　窯壁 |
| SK19 | 6E19 | 112 | － | 16 | Ⅰ | a | × | × | ○ | ○ | 沢14層 | 1層　2回目の窯底<br>2層　1回目の窯底 |
| SK28 | 8D22・23 | 112 | 104 | 12 | Ⅰ | a | × | × | ◎ | ○ | 沢21層 | 1層　炭屑<br>2層　窯底？ |
| SK29 | 8D10・15 | 124 | － | 20 | Ⅰ？ | b | × | × | ◎ | × | 沢21層 | 1層　自然堆積<br>2層　炭屑 |
| SK22 | 7D17 | 120 | 112 | 20 | Ⅰ | a | × | ◎ | ◎ | ◎ | 沢20層 | 1層　炭化物・土器多い<br>3層　炭層 |

凡例
焼　面　○：あり、×：なし
炭化物　◎：多、○：中、△：少
焼　土　◎：多、○：中、△：少

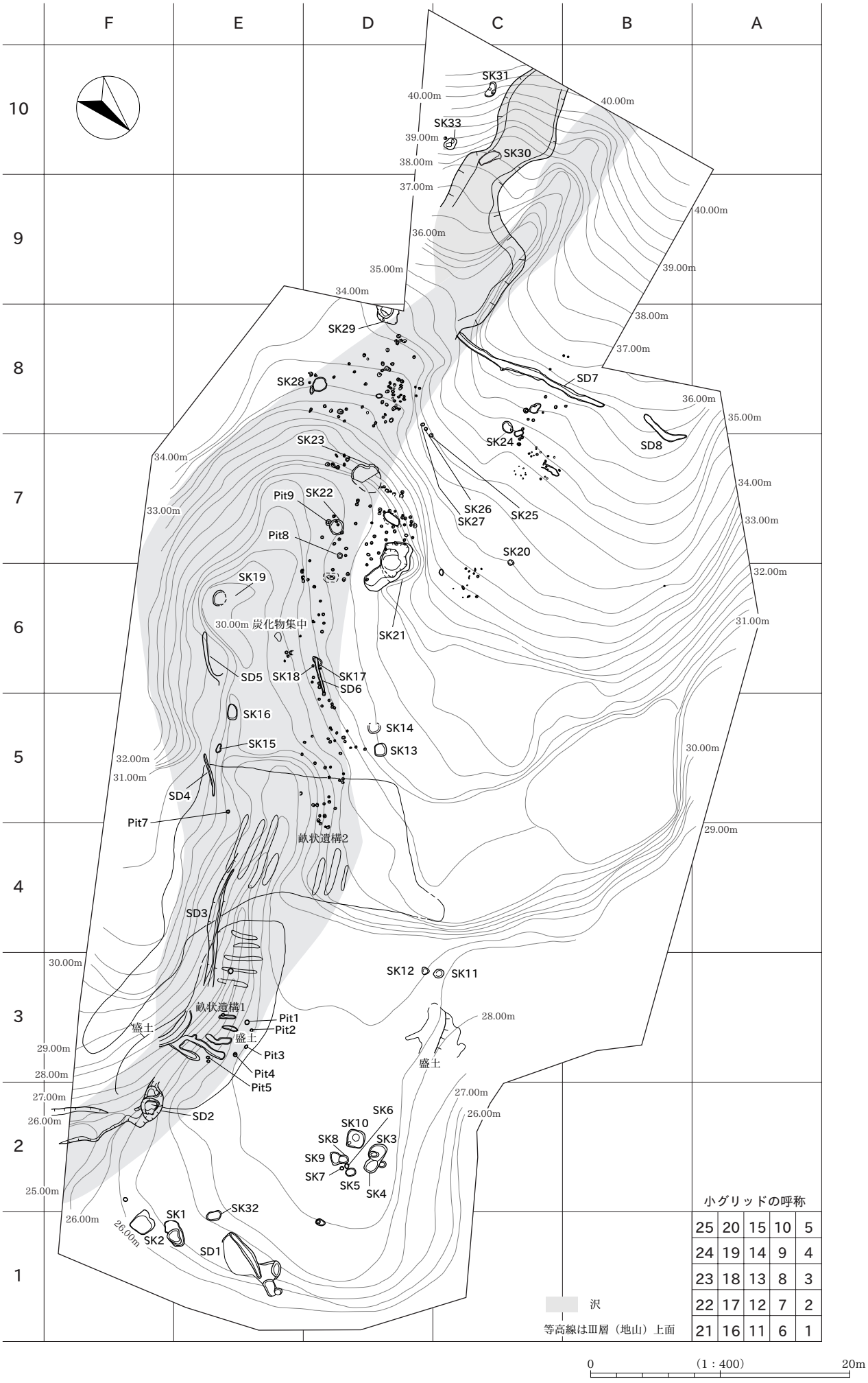
## 土坑観察表

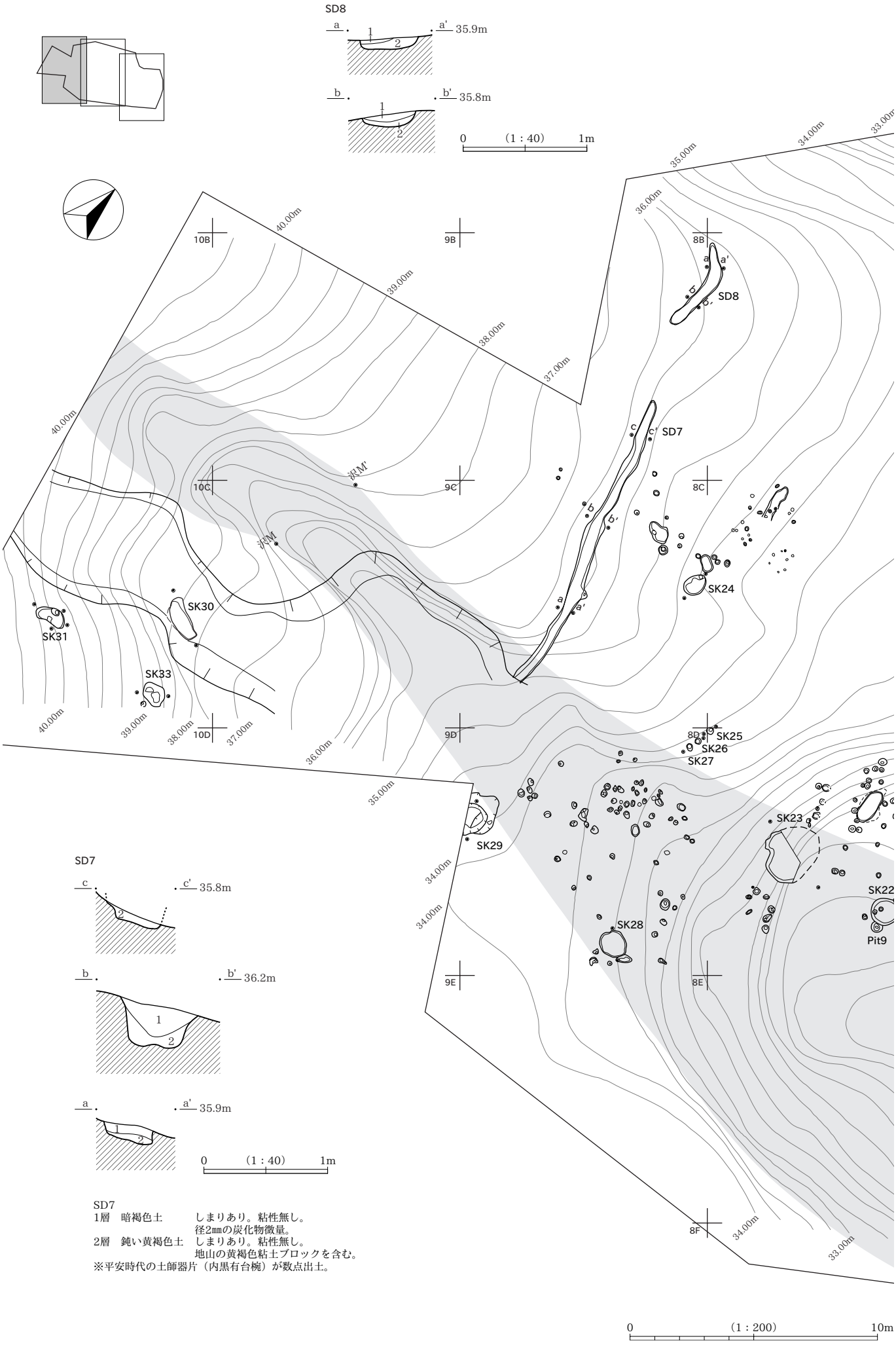
| 遺構№ | グリッド | 長径（cm） | 短径（cm） | 深さ（cm） | 炭化物 | 焼土 | 検出面 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SK24 | 8C11 | 100 | 74 | 4～6 | ◎ | ○ | 地山 | 土師器 | |
| SK23 | 7D14・19 | (190) | － | 8～18 | △ | × | 沢7層 | 土師器 | 一部撹乱 |
| SK21 | 6D10・15、7D6 | 460 | 264 | 40 | ◎ | × | 沢20層 | 土師器 | |
| SK25 | 7D5 | 28 | 28 | 12 | × | × | 地山 | 骨片 | 土壙墓 |
| SK26 | 8D1 | 26 | 24 | 10 | × | × | 地山 | 骨片 | 土壙墓 |
| SK27 | 8D1 | 28 | 24 | 14 | × | × | 地山 | 骨片 | 土壙墓 |
| SK12 | 3D5 | 60 | 50 | 18 | ◎ | × | 地山 | 骨片 | 土壙墓 |
| SK16 | 5E15 | 122 | 76 | 8 | ◎ | ◎ | 沢5層 | 骨片 | 土壙墓 |
| SK15 | 5E18 | 74 | 36 | 23 | △ | × | 沢5層 | | |
| SK11 | 3C25 | 75 | 65 | 20 | ◎ | × | 地山 | | 土壙墓 |
| pit8 | 7D16 | 48 | 38 | 14 | × | × | 沢20層 | 土師器 | |
| 炭化物集中 | 6E8 | 66 | 50 | 8 | ◎ | × | 沢18層 | | |
| SK3 | 2D8・13 | 140 | 120 | 25 | △ | × | 地山 | 近世 | SK4に切られる |
| SK4 | 2D12 | 110 | 100 | 10 | △ | × | 地山 | 近世 | SK3を切る |
| SK10 | 2D13・14・18・19 | 140 | 140 | 25 | △ | ◎ | 地山 | 近世 | 底面が焼けている |
| SK5 | 2D17 | 80 | 60 | 12 | × | × | 地山 | 近世 | |
| SK8 | 2D17・18 | 76 | 64 | 12 | ◎ | × | 地山 | 近世 | SK9を切る |
| SK9 | 2D17・18 | 104 | 60 | 8 | × | × | 地山 | 近世 | SK8に切られる |
| SK32 | 1E20 | 112 | 68 | 8 | × | × | 地山 | | |
| SK1 | 1F4・5、1E24・25 | 224 | 108 | 24 | × | × | 地山 | | |
| SK2 | 1F5・10 | 198 | 152 | 16 | × | × | 地山 | 近世 | |

# 図　　版

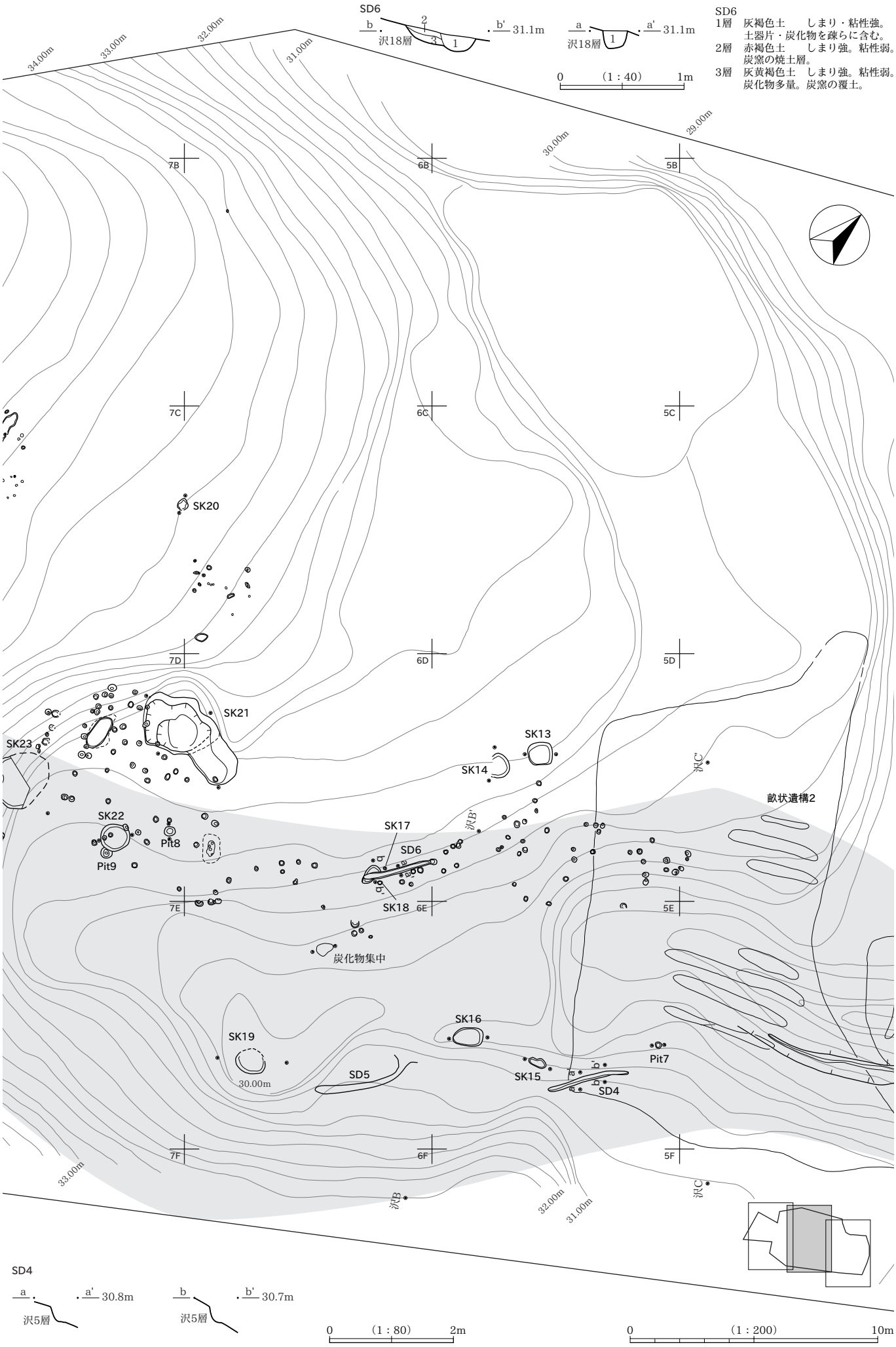
土器凡例（遺物No.）

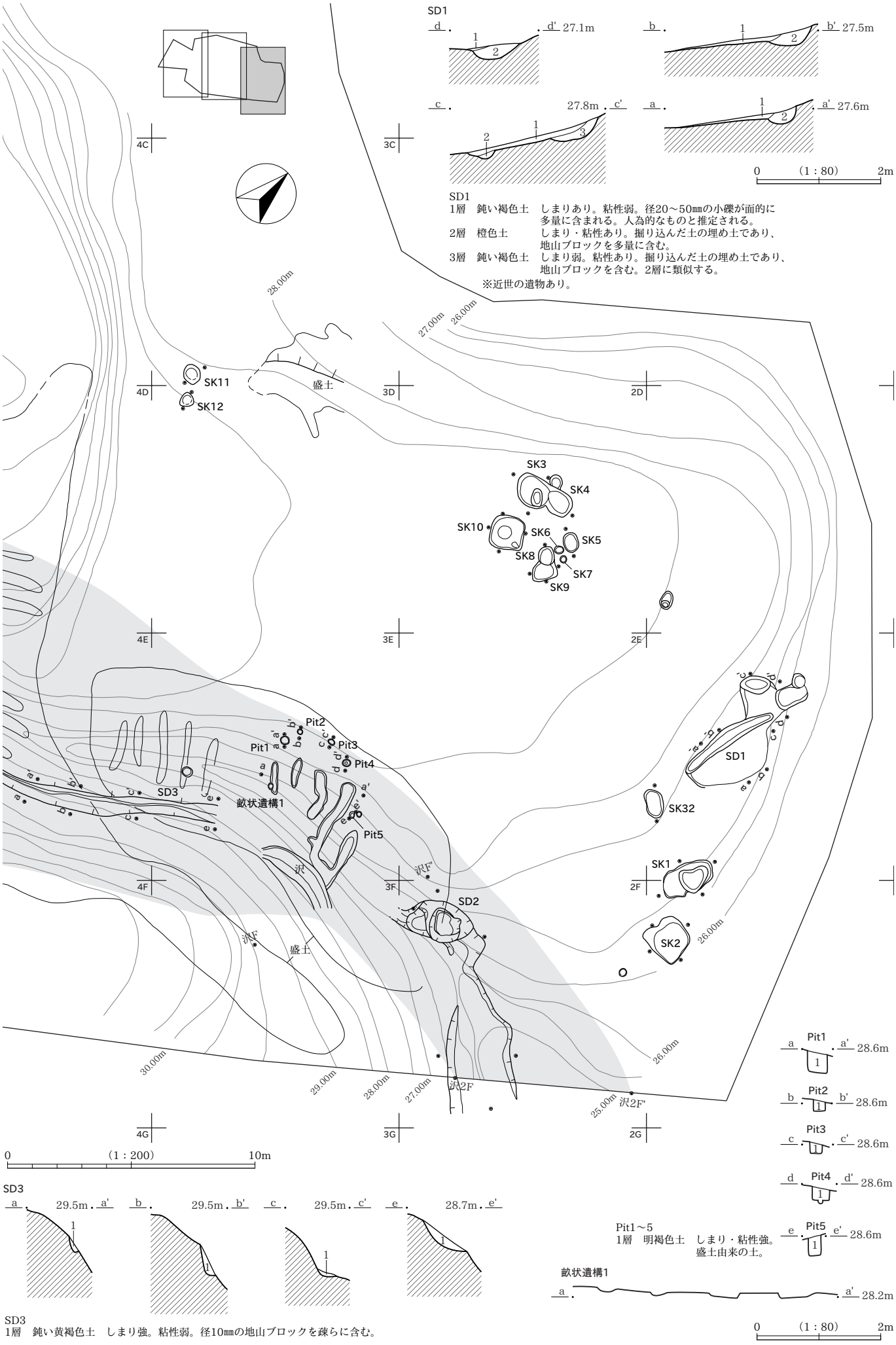
黒色処理（73他）
緑釉（152）
鉄釉（256～260）
炭化物（283）
灰釉（153～160）


F
E
D
C
B
A
10
9
8
7
6
5
4
3
2
1
SK31
SK33
SK30
SK29
SK28
SK23
SK22
Pit9
Pit8
SK19
炭化物集中
SK18
SK17
SD6
SD5
SK16
SK15
SD4
Pit7
畝状遺構2
SD3
SK14
SK13
SK21
SK26
SK27
SK25
SK24
SD7
SD8
SK20
SK12
SK11
畝状遺構1
Pit1
Pit2
Pit3
Pit4
Pit5
盛土
SD2
SK6
SK10
SK8
SK3
SK9
SK7
SK5
SK4
SK32
SK1
SK2
SD1
40.00m
39.00m
38.00m
37.00m
36.00m
35.00m
34.00m
33.00m
32.00m
31.00m
30.00m
29.00m
28.00m
27.00m
26.00m
25.00m
沢
等高線は Ⅲ層（地山）上面
小グリッドの呼称
25 20 15 10 5
24 19 14 9 4
23 18 13 8 3
22 17 12 7 2
21 16 11 6 1
0
（1：400）
20m




SD7
1層　暗褐色土　　しまりあり。粘性無し。
　　径2mmの炭化物微量。
2層　鈍い黄褐色土　しまりあり。粘性無し。
　　地山の黄褐色粘土ブロックを含む。
※平安時代の土師器片（内黒有台椀）が数点出土。

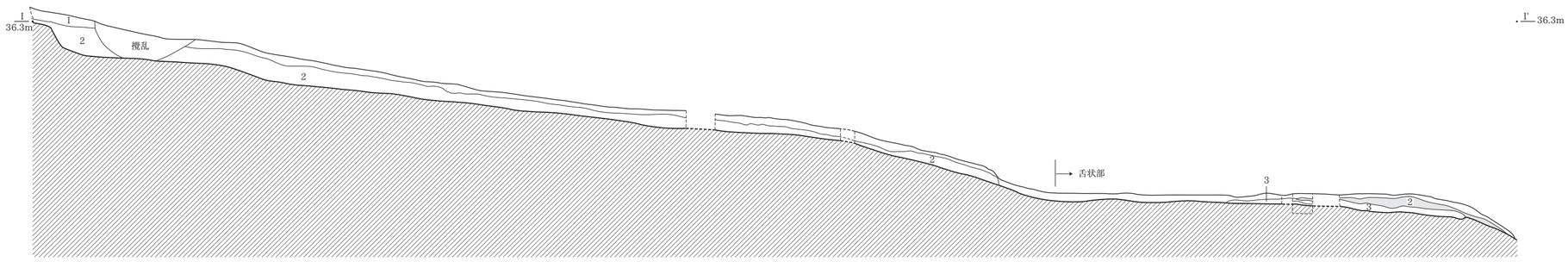

SD6
b
b'
31.1m
沢18層
a
a'
31.1m
沢18層
0　（1：40）　1m
SD6
1層　灰褐色土　しまり・粘性強。土器片・炭化物を疎らに含む。
2層　赤褐色土　しまり強。粘性弱。炭窯の焼土層。
3層　灰黄褐色土　しまり強。粘性弱。炭化物多量。炭窯の覆土。
34.00m
33.00m
32.00m
31.00m
30.00m
29.00m
7B
6B
5B
7C
6C
5C
7D
6D
5D
7E
6E
5E
7F
6F
5F
SK20
SK21
SK23
SK22
Pit8
Pit9
SK13
SK14
SK17
SD6
SK18
炭化物集中
SK19
30.00m
SD5
SK16
SK15
SD4
Pit7
沢B'
沢C'
沢B
沢C
畝状遺構2
33.00m
32.00m
31.00m
SD4
a
a'
30.8m
沢5層
b
b'
30.7m
沢5層
0　（1：80）　2m
0　（1：200）　10m


SD1
d
d'
27.1m
b
b'
27.5m
c
c'
27.8m
a
a'
27.6m
0
(1：80)
2m
SD1
1層　鈍い褐色土　しまりあり。粘性弱。径20～50㎜の小礫が面的に多量に含まれる。人為的なものと推定される。
2層　橙色土　しまり・粘性あり。掘り込んだ土の埋め土であり、地山ブロックを多量に含む。
3層　鈍い褐色土　しまり弱。粘性あり。掘り込んだ土の埋め土であり、地山ブロックを含む。2層に類似する。
※近世の遺物あり。
28.00m
27.00m
26.00m
SK11
SK12
盛土
SK3
SK4
SK10
SK6
SK5
SK8
SK7
SK9
Pit1
Pit2
Pit3
Pit4
Pit5
SD3
畝状遺構1
沢
沢F
SD2
SD1
SK32
SK1
SK2
30.00m
29.00m
28.00m
27.00m
沢2F
25.00m
26.00m
4C
3C
4D
3D
2D
4E
3E
2E
4F
3F
2F
4G
3G
2G
0
(1：200)
10m
Pit1
28.6m
Pit2
28.6m
Pit3
28.6m
Pit4
28.6m
Pit5
28.6m
Pit1～5
1層　明褐色土　しまり・粘性強。盛土由来の土。
畝状遺構1
28.2m
0
(1：80)
2m
SD3
29.5m
29.5m
29.5m
28.7m
SD3
1層　鈍い黄褐色土　しまり強。粘性弱。径10㎜の地山ブロックを疎らに含む。

メインセクション図（1）



I-I'

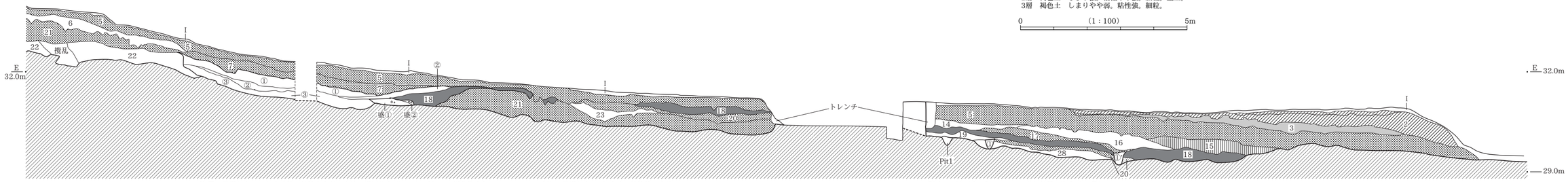



2層　舌状部3層に対応する

I-I'（舌状部）
2層　褐色土　しまり強。粘性やや強。細粒。盛土。
3層　褐色土　しまりやや弱。粘性強。細粒。

0　（1：100）　5m

E-E' ①

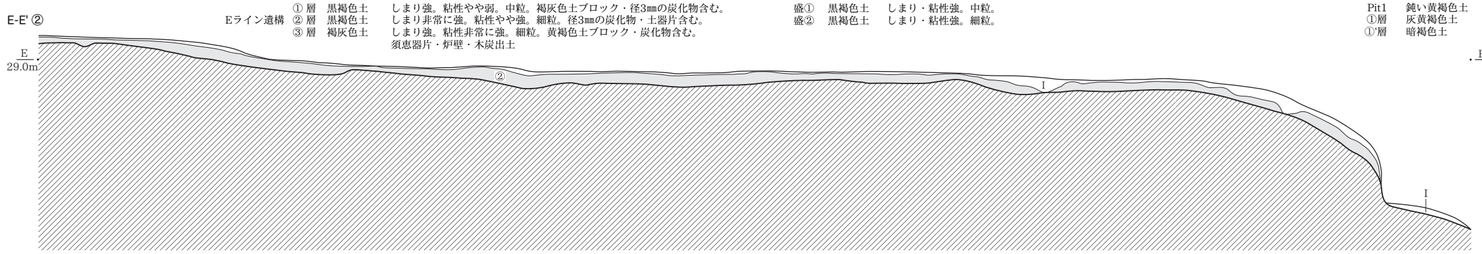



0　（1：100）　5m

E-E' ①

| | | |
|---|---|---|
| 2層 | 明黄褐色土 | しまり・粘性弱。細砂。地山ブロックを基調とする盛土層。 |
| 3層 | 黄灰色土 | しまり・粘性弱。径2～10mmの炭化物を疎らに含む。耕作土層で上面が畝状を呈する。C列3－1層に対応。 |
| 5層 | 暗褐色土 | しまり強。粘性弱。粒子やや粗。径3～10mmの炭化物含む。土器多数。A列5層に対応。 |
| 6層 | 褐色土 | しまりやや弱。粘性弱。細粒。炭化物微量。 |
| 7層 | 暗褐色土 | しまり強。粘性中。粒子中。径1～3mmの炭化物多。土器含む。A列7層に対応。 |
| 14層 | 灰黄褐色土 | しまり非常に弱い。粘性強。細粒。褐灰色土・黄褐色土が混入。耕作土に似る。 |
| 15層 | 鈍い黄褐色土 | しまり弱。粘性強。上層との境に部分的に2層由来の明黄褐色土を含む。径5mmの炭化物をまばらに含む。C・D・F列15層に対応。 |
| 16層 | 褐色土 | しまりやや弱。粘性弱。細粒。東斜面土。A列16層に対応。 |
| 17層 | 暗褐色土 | しまり強。粘性やや弱。やや粗粒。炭化物・土器片含む。 |
| 18層 | 灰黄褐色土 | しまり弱。粘性強。水がついた結果と思われる赤化が進行している。C・D・F列18層に対応。 |
| 19層 | にぶい黄褐色土 | しまり強。粘性ややあり。中粒。炭化物含む。 |
| 20層 | 暗褐色土 | しまりやや弱。粘性弱。やや粗粒。少量の炭化物細粒と多数の土器を含む。 |
| 21層 | 褐色土 | しまりやや弱。粘性やや強。やや細粒。黄褐色土ブロックが多数混入。炭化物含む。土器片含む。 |
| 22層 | 褐色土 | しまり中。粘性強。細粒。 |
| 23層 | 鈍い黄褐色土 | しまり強。粘性中。やや粗粒。褐色土ブロック・炭化物を含む。 |
| 28層 | 鈍い黄褐色土 | しまり・粘性強。細粒。褐色の錆のような筋が入る。 |

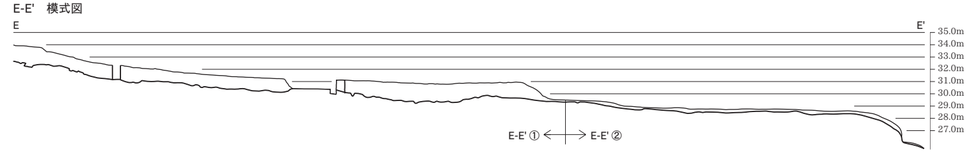
E-E' ②




| | | |
|---|---|---|
| Eライン遺構 | ① 層　黒褐色土 | しまり強。粘性やや弱。中粒。褐灰色土ブロック・径3mmの炭化物含む。 |
| | ② 層　黒褐色土 | しまり非常に強。粘性やや強。細粒。径3mmの炭化物・土器片含む。 |
| | ③ 層　褐灰色土 | しまり強。粘性非常に強。細粒。黄褐色土ブロック・炭化物含む。須恵器片・炉壁・木炭出土 |
| 盛① | 黒褐色土 | しまり・粘性強。中粒。 |
| 盛② | 黒褐色土 | しまり・粘性強。細粒。 |
| Pit1 | 鈍い黄褐色土 | しまりやや弱。粘性強。細粒。 |
| ①層 | 灰黄褐色土 | しまり・粘性強。やや細粒。鈍い黄褐色土が底に入る。炭化物含む。 |
| ①'層 | 暗褐色土 | しまり・粘性強。細粒・褐色土ブロック少量混入。中央に多量の炭化物含む。 |

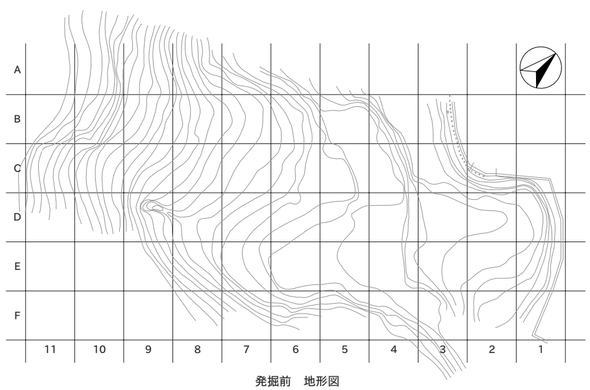
0　（1：100）　5m

E-E'　模式図

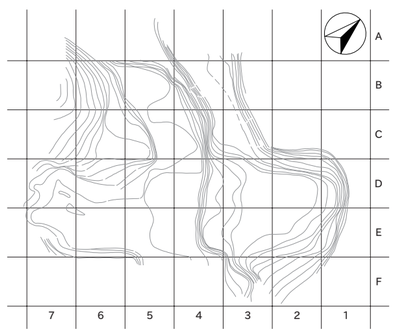



E-E' ②

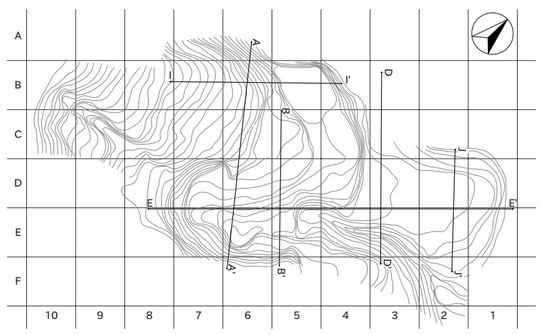
| | |
|---|---|
| ②層　鈍い黄橙色土 | しまり中。粘性弱。径1mm以下の白色粒子を疎らに含む。舌状部全体にみられる近世の包含層。 |




発掘前　地形図




近世の地形改変部　地形図



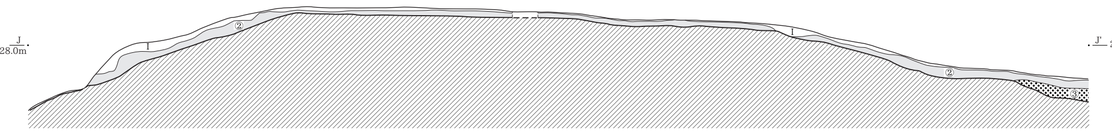

Ⅲ層（地山）上面　地形図

0　（1：1,000）　50m

- 舌状部の盛土（近世の遺物包含層）
- 地山土を基調とする盛土
- 盛土から沢埋土への斜移層
- 東斜面旧表土
- 耕作土（近世）
- 東斜面堆積
- 自然流路の痕跡
- 斜面からの崩落土（地山土を基調とする）
- 30層（包含層）
- 15層
- 18層
- 包含層（30層以外）
- 遺構断面

# メインセクション図（2）

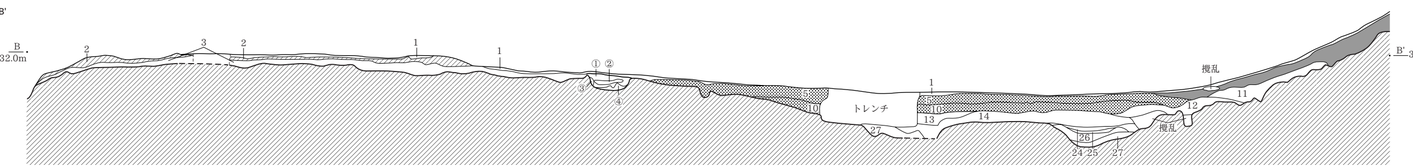
J-J'




J-J'
1層　鈍い黄褐色土　現表土。
②層　鈍い黄橙色土　近世の遺物を包含する。E-E'②の②層に対応。
③層　鈍い黄橙色土　じまり強。粘性ややあり。径5～10mmの地山ブロックを主体とする。崩落土と推定される。

B-B'
1層　鈍い黄褐色土　しまり・粘性強。
2層　褐色土　しまり強。粘性やや強。細粒で褐灰色ブロックが少量混入。盛土層。
3層　褐色土　しまりやや弱。粘性強。細粒。
5層　暗褐色土　しまり強。粘性弱。やや粗粒で径5～10mmの炭化物と土器片を多量に含む。
10層　鈍い黄褐色土　しまり非常に強。粘性弱。やや粗粒で径5～10mmの炭化物と土器片を多量に含む。
11層　褐色土　しまり・粘性強。細粒。径1～2mmの炭化物を微量含む。
12層　暗褐色土　しまり・粘性やや弱。やや粗粒。地山との境に明褐色土ブロックを含む。径2～4mmの炭化物混入。
13層　鈍い黄褐色土　しまり強。粘性やや弱。やや細粒。褐灰色ブロックを含む。
14層　灰黄褐色土　しまり非常に強。粘性強。褐灰色・黄褐色土が混入。耕作土に似る。
24層　褐灰色土　しまり中。粘性非常に強。極細粒。
25層　灰黄褐色土　しまりやや強。粘性強。細粒。耕作土に類似。
26層　鈍い黄褐色土　しまりやや弱。粘性中。中粒。黄褐色土ブロックを含む。
27層　黒褐色土　しまり中。粘性やや強。やや細粒。

B-B'

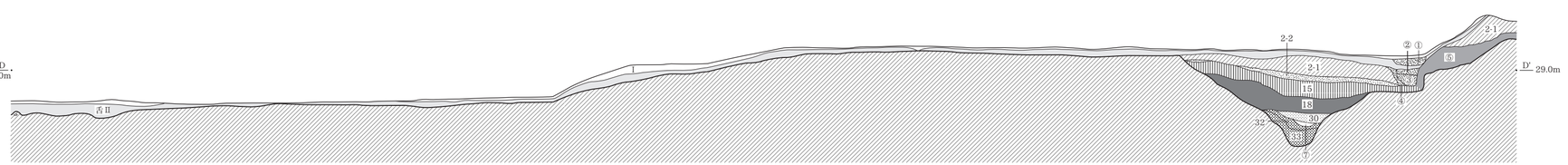



①層鈍い黄褐色土　しまり強。粘性やや弱。炭窯埋土。
②層褐色土　しまりやや弱。粘性中。炭化物を含む。炭窯埋土。
③層褐色土　焼土。
④層褐色土　炭。

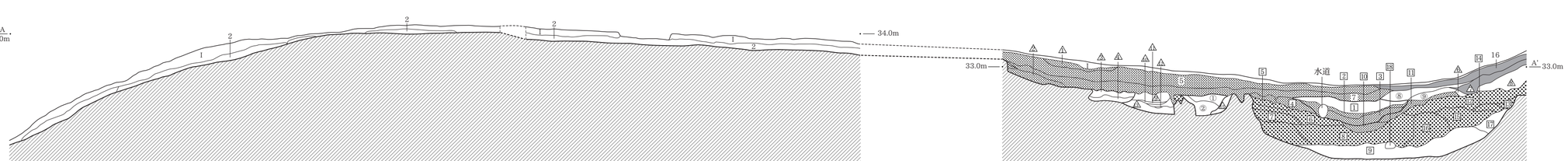
D-D'
舌Ⅱ層　鈍い黄褐色土　しまり・粘性やややあり。E-E'②の②'層に対応。
2-1層　明黄褐色土　しまり・粘性弱。地山のブロックを基調とする盛土層粒子は細かい。沢C・沢E列2層に対応。
2-2層　明黄褐色土　しまり・粘性強。2-1層と沢埋土との漸移層。
15層　鈍い黄褐色土　しまり弱。粘性強。上層との境に部分的に2層由来の沢C・E・沢列15層に対応。
18層　灰黄褐色土　しまり弱。粘性強。水がついた結果と思われる赤化が進行している。沢C・E・沢F・沢2F列18層に対応。
30層　灰褐色土　しまり・粘性非常に強。地山と谷の土が2：5の割合で含まれる。遺物を多量に含む。C・F・2F列30層に対応。
32層　灰色土　しまり強。粘性非常に強。植物遺体を多量に含む。シルト質層。
33層　褐灰色砂層　しまり・粘性弱。細粒砂を基調として礫を疎らに含む。
①層　明黄褐色土　しまり弱。粘性強。
②層　鈍い黄橙色土　しまり・粘性強。
③層　鈍い黄橙色土　しまり・粘性弱。痕跡。
④層　鈍い黄橙色土　しまり弱。粘性強。
⑤層　鈍い黄褐色土　径1～3mmの炭化物を疎らに含む東斜面旧表土。
⑦層　黄橙色土　しまり弱。粘性強。径2～5mmの砂を基調とする。
①～④層は径5mmの小石・地山ブロックを基調とする自然流路の痕跡。

A-A'
2層　褐色土　しまり強。粘性やや強。細粒。
5層　暗褐色土　しまり強。粘性弱。粒子やや粗。径3～10mmの炭化物含む。土器多数。E列5層に対応。
7層　暗褐色土　しまり強。粘性中。粒子中。径1～3mmの炭化物多。土器含む。E列7層に対応。
16層　褐色土　しまりやや弱。粘性弱。細粒。東斜面土。E列16層に対応。
△層　褐色土　しまり強。粘性弱。やや細粒。褐灰色土含む。
△層　鈍い黄褐色土　しまり中。粘性強。やや細粒。径3mmの炭化物を含む。土器含む。
△層　褐灰色土　しまり非常に強。粘性強。細粒。
△層　灰黄褐色土　しまり・粘性やや弱。東斜面土。
△層　褐色土　しまり・粘性弱。やや粗粒。
△層　黄褐色土　しまり強・粘性弱。中粒。褐灰色ブロック・径約10mmの炭化物を含む。
△層　褐色土　しまり強。粘性弱。砂質土を含む。褐色土が層状に入る。
△層　黄褐色土　しまり強。粘性やや強。中粒。褐灰色土・褐色土ブロックを含む。
△層　褐灰色土　しまり・粘性強。細粒。炭化物を多く含む。
△層　鈍い黄褐色土　しまり中・粘性強。地山の土に褐色土が細かく混じる。
1層　灰黄褐色土　しまり強。粘性弱。径5mmの炭化物・地山ブロックを疎らに含む。
2層　黄灰色土　しまり強。粘性弱。径5mmの炭化物を多量に含む。
3層　灰色土　しまり・粘性強。しまり強。粘性弱。径5mmの炭化物や土器片を多量に含む。
4層　明黄褐色土　しまり・粘性強。径20～50mmの地山ブロックを基調とする。土器片含む。
5層　鈍い黄色土　しまり強。粘性非常に強。径20mmの地山ブロックを疎らに含む。
6層　明黄褐色土　しまり非常に強。粘性強。地山を基調として炭化物を疎らに含む。
7層　黄橙色土　しまり弱。粘性非常に強。6層に類似するが、ブロックの粒子がより細かい。
8層　灰白色　しまり弱。粘性強。砂質で土器片を多量に含む。
9層　灰色土　しまり弱。粘性非常に強。植物遺体を多量に含み、所々に10層が噛入する。
10層　灰色土　しまり弱。粘性強。径5mmの炭化物を疎らに含む。土器含む。
11層　灰白色土　しまり・粘性強。径2mmの炭化物をごく少量含む。
12層　灰白色土　しまり・粘性強。径10mmの小礫をごく少量ふくみ、11層より赤化が顕著。
13層　浅黄色土　しまり強。粘性弱。地山ブロックを主体とする崩落土。
14層　鈍い赤褐色土　しまり・粘性非常に強。13層と同一と考えられるが、水道の近くで赤化が顕著。
15層　灰白色土　粘性弱。しまり非常に強。径10mmの炭化物を疎らに含み、部分的に赤化している。
16層　黄橙色土　しまり・粘性非常に強。混入物が極めて少ないが、径1mm以下の石英を含む。
17層　橙色土　しまりなし。粘性非常に強。部分的に径1mm以下の砂がブロック状に陥入する。
18層　褐灰色土　しまり強。粘性非常に強。植物遺体を多量に含む。

D-D'



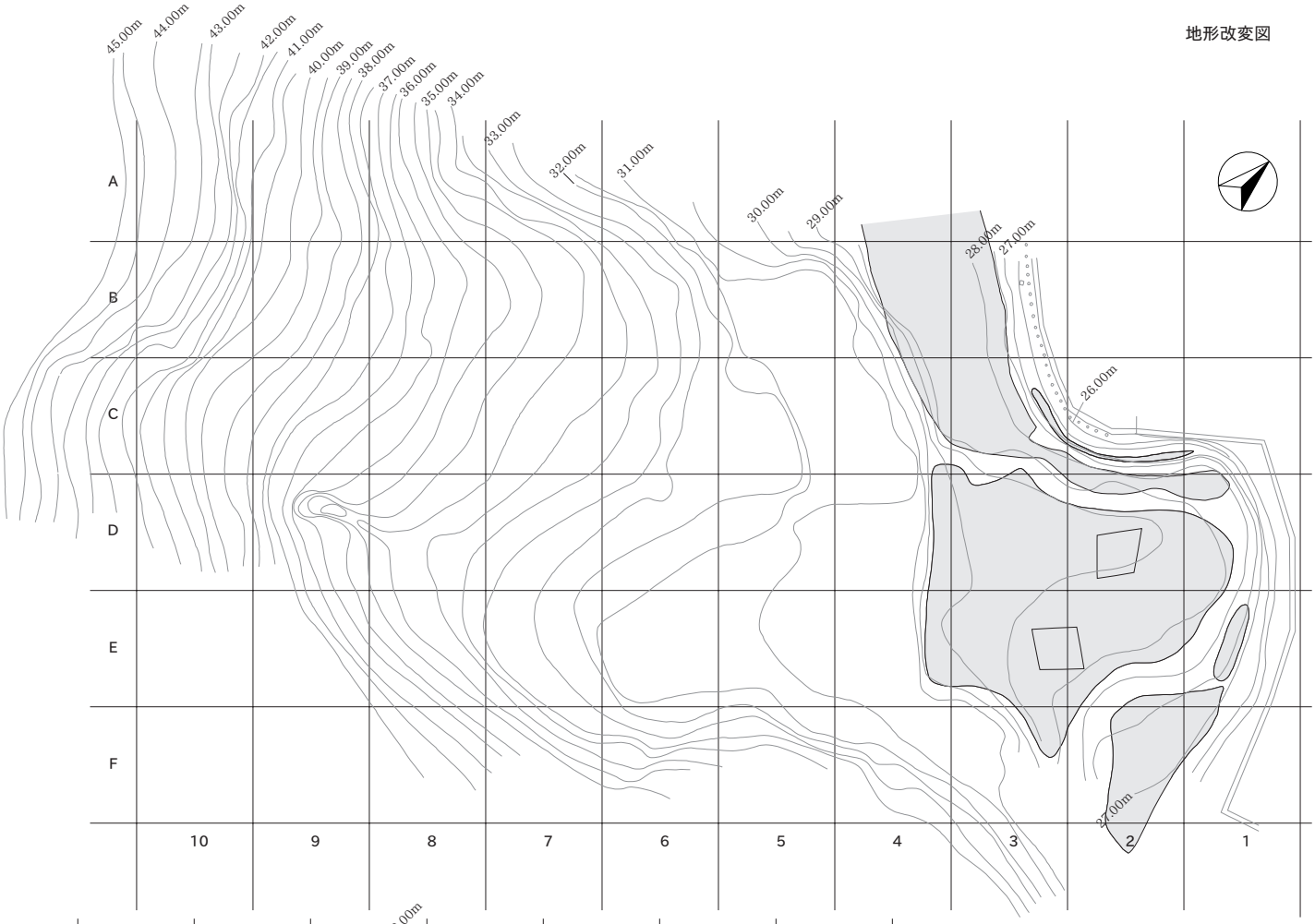

A-A'



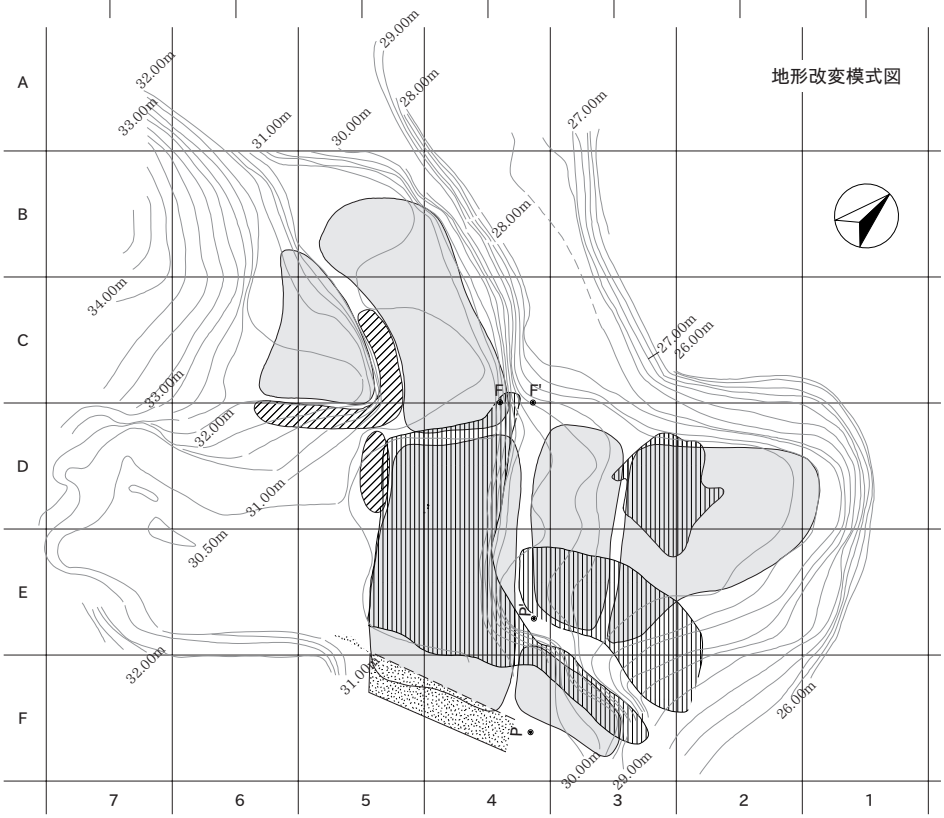

△層　褐色土　しまり・粘性強。やや細粒。地山土類似の褐色土ブロックを含む。
△層　鈍い黄褐色土　しまり中。粘性強。やや細粒。径5mmの炭化物含む。
①層　褐色土　しまりやや弱。粘性強。細粒。
②層　灰黄褐色土　しまり強。粘性強。細粒。径5～10mmの炭化物含む。

0　(1：100)　5m

舌状部の盛土（近世の遺物包含層）
地山土を基調とする盛土
盛土から沢埋土への漸移層
東斜面旧表土
耕作土（近世）
東斜面堆積
自然流路の痕跡
斜面からの崩落土（地山土を基調とする）
30層（包含層）
15層
18層
包含層（30層以外）
遺構断面



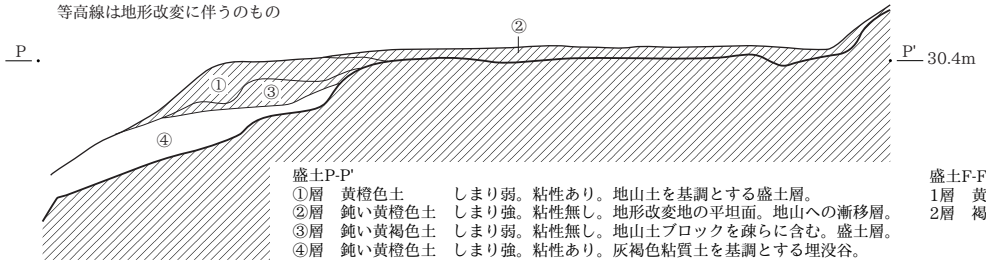

等高線は発掘前のもの

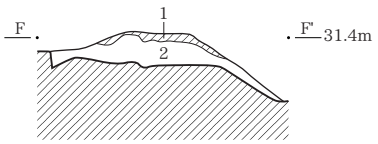



土壁
盛土
平坦面
切り崩し

0　(1：600)　20m

等高線は地形改変に伴うのもの



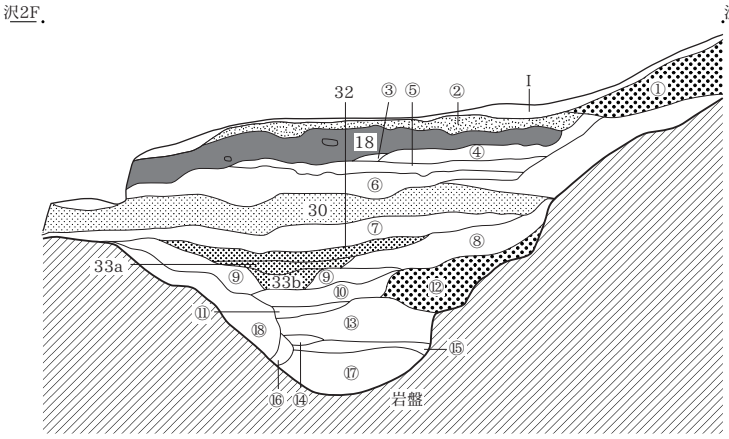




盛土P-P'
①層　黄橙色土　しまり弱。粘性あり。地山土を基調とする盛土層。
②層　鈍い黄橙色土　しまり強。粘性無し。地形改変地の平坦面。地山への漸移層。
③層　鈍い黄褐色土　しまり弱。粘性無し。地山土ブロックを疎らに含む。盛土層。
④層　鈍い黄橙色土　しまり強。粘性あり。灰褐色粘質土を基調とする埋没谷。

盛土F-F'
1層　黄褐色土　しまり強。粘性中。やや細粒。盛土。
2層　褐色土　しまりやや弱。粘性強。細粒で炭化物含む。

0　(1：80)　3m

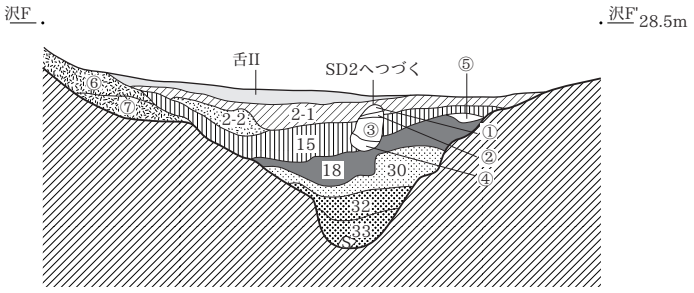
沢　2F-2F'




沢　2F-2F'

| | | |
|---|---|---|
| ① 層 | 黄橙色土 | しまり・粘性弱。地山の白色粘土ブロックを疎らに含む。斜面の崩落土。 |
| ② 層 | 鈍い黄色土 | しまり・粘性弱。地山ブロックを多量に含み、盛土に類似。盛土より粘性が弱く砂質。 |
| ③ 層 | 灰オリーブ色砂層 | しまり弱。粘性無し。細粒砂によるレンズ状堆積。 |
| ④ 層 | 黄灰色土 | しまり弱。粘性非常に強。径5㎜の小石・炭化物を疎らに含む。 |
| ⑤ 層 | 灰色土 | しまり弱。粘性強。径2㎜の炭化物を疎らに含む。SD2a-a'⑨層に対応。 |
| ⑥ 層 | 灰白色土 | しまり弱。粘性非常に強。径2㎜の炭化物を含む。径2～3㎜の砂粒を 多量に含む。 |
| ⑦ 層 | 黄灰色土層 | しまり・粘性強。径2㎜の炭化物を疎らに含む。 |
| ⑧ 層 | 褐灰色土 | しまり弱。粘性非常に強。径10㎜の地山ブロックを多量に含む。 |
| ⑨ 層 | 明褐色土 | しまり弱。粘性非常に強。炭化物・地山ブロックを疎らに含む。 |
| ⑩ 層 | 鈍い黄橙色土 | しまり・粘性弱。砂粒・地山ブロックを基調とする。土砂崩れか早い沢の流れにより形成されたと推定される。 |
| ⑪ 層 | 褐灰色土 | しまり弱。粘性強。径5㎜の炭化物を疎らに含む。 |
| ⑫ 層 | 灰黄色土 | しまり弱。粘性非常に強。小石・地山ブロックを多量に含む。崩落土。 |
| ⑬ 層 | 黄灰色土 | しまり弱。粘性非常に強。小石・地山ブロック・植物遺体を疎らに含む。 |
| ⑭ 層 | 灰黄色土 | しまり弱。粘性非常に強。 |
| ⑮ 層 | 褐灰色土 | しまり・粘性弱。砂を基調として植物遺体を多量に含む。 |
| ⑯ 層 | 明黄褐色土 | しまり無し。粘性弱。 |
| ⑰ 層 | 暗灰色土 | しまり強。粘性無し。植物遺体を主体とする砂層。トチの実を多量に含む。 |
| ⑱ 層 | 灰白色土 | しまり弱。粘性非常に強。炭化物を疎らに含む。 |
| 18層 | 灰黄褐色土 | しまり弱。粘性強。水がついた結果と思われる赤化が進行している。沢C・D・E・沢F列18層に対応。 |
| 30層 | 灰褐色土 | しまり・粘性非常に強。地山と谷の土が2：5の割合で含まれる。遺物を多量に含む。沢C・D・沢F列30層に対応。 |
| 32層 | 灰色土 | しまり強。粘性非常に強。植物遺体を多量に含むシルト質層。沢C・沢F列の32層に対応。 |
| 33ａ層 | 褐灰色土 | しまり強。粘性無し。炭化物・土器片を多量に含む砂質層。 |
| 33ｂ層 | 灰黄色土 | しまり強。粘性無し。炭化物・地山ブロックを多量に含む砂質層。土器片を疎らに含む。 |

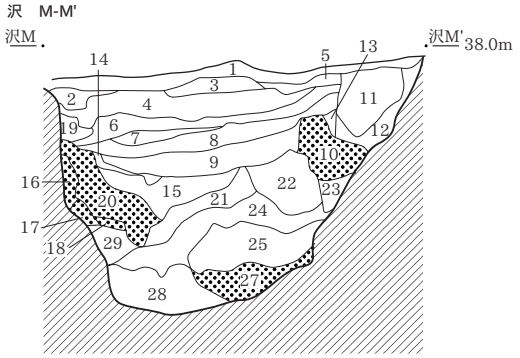
沢　F-F'




沢　F-F'

| | | |
|---|---|---|
| 舌II層 | 鈍い黄褐色土 | しまり・粘性ややあり。 |
| 2-1層 | 明黄褐色土 | しまり・粘性弱。地山のブロックを基調とする盛土層。粒子は細かい。沢C・D列2層に対応。 |
| 2-2層 | 明黄褐色土 | しまり・粘性強。2-1層と沢埋土との漸移層。沢C・D列2層に対応。 |
| 15層 | 鈍い黄褐色土層 | しまり弱。粘性強。上層との境に部分的に2層由来の明黄褐色土を含む。径5㎜の炭化物を疎らに含む。C・D・E列15層に対応。 |
| 18層 | 灰黄褐色土 | しまり弱。粘性強。水がついた結果と思われる赤化が進行している。C・D・E列18層に対応。 |
| 30層 | 灰褐色土 | しまり・粘性非常に強。地山と谷の土が2：5の割合で含まれる。遺物を多量に含む。C・D列30層に対応。 |
| 32層 | 灰色土 | しまり強。粘性非常に強。植物遺体を多量に含むシルト質層。C列・2F区の32層に対応。 |
| 33層 | 褐灰色砂層 | しまり・粘性弱。細粒砂を基調として礫を疎らに含む。 |
| ① 層 | 暗灰黄色土 | しまり・粘性弱。径2～3㎜の砂を多く含む。 |
| ② 層 | 明黄褐色土 | しまり・粘性弱。径2～3㎜の砂を多く含む。 |
| ③ 層 | 暗灰黄色土 | しまり・粘性弱。径5㎜以上の地山ブロックを疎らに含む。 |
| ④ 層 | 鈍い黄色砂層 | しまり弱。粘性無し。径5㎜以上の地山ブロックを疎らに含む。 |
| ⑤ 層 | 明黄褐色土層 | しまり・粘性強。地山ブロックを含み、盛土層に似る。 |
| ⑥ 層 | 鈍い黄褐色土 | しまり強。粘性弱。炭化物・地山ブロック・径30㎜以上の小石を疎らに含む。東斜面旧表土。 |
| ⑦ 層 | 黄褐色土 | しまり強。粘性弱。径2㎜の炭化物を疎らに含む。東斜面旧表土。①～④層は水道の痕跡でSD2につながる。 |

沢　M-M'



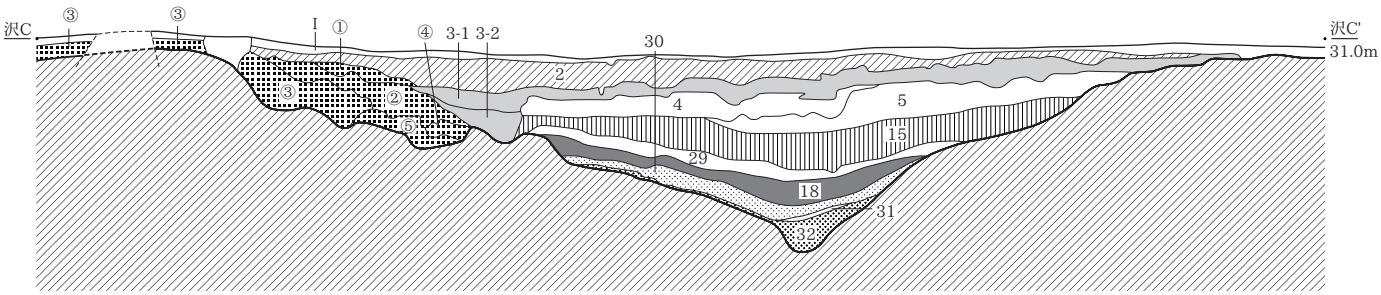

沢　M-M'

| | | |
|---|---|---|
| 1層 | 鈍い黄褐色土 | しまり強。粘性やや弱。やや粗粒。 |
| 2層 | 鈍い黄褐色土 | しまり強。粘性やや弱。中粒で黄褐色土混入。炭化物を多く含む。 |
| 3層 | 褐色土 | しまり中。粘性強。細粒で褐灰色土の小ブロックを含む。 |
| 4層 | 鈍い黄褐色土 | しまり・粘性強。細粒で明褐色土ブロック・炭化物小片を含む。 |
| 5層 | 褐色土 | しまり強・粘性やや弱。中粒で3層よりやや暗い褐色土ブロックを少量含む。炭化物を含む。 |
| 6層 | 褐色土 | しまり弱。粘性強。細粒で多量の褐色土ブロックを含む。 |
| 7層 | にぶい黄褐色土 | しまりやや弱。粘性弱。細粒で褐灰色砂質土ブロックを含む。炭化物含む。 |
| 8層 | 鈍い黄褐色土 | しまり・粘性弱。やや粗粒で鈍い黄褐色シルト質土ブロックを多量に 含む。炭化物を含む。 |
| 9層 | 黄橙色土 | しまり弱。粘性やや強いが土質の違いによりポロポロと玉状になる。細粒 で灰白色ブロックを含む。明褐色土が筋状に数多く挟在する。 |
| 10層 | 黄褐色砂質土 | しまりやや強。粘性やや弱。灰白色土・明褐灰色土が霜降り状に混じる。右斜面からの崩落土。 |
| 11層 | 黄褐色土 | しまりやや強。粘性弱。やや粗粒。褐灰色土がV字状に挟在し、黄褐色土を含む。 |
| 12層 | 黄褐色砂質土 | しまり強。粘性弱。灰白色土を含む。 |
| 13層 | 黄褐色土 | しまりやや弱。粘性強。細粒。 |
| 14層 | 鈍い黄褐色土 | しまり弱。粘性強。細粒。木による撹乱を受けている。 |
| 15層 | 黄褐色土 | しまり弱。粘性強。極細粒。灰白色土ブロック・明褐色土小ブロックを含む。ポロポロしない土である。 |
| 16層 | 灰白色土 | しまり・粘性強。細粒で明褐色土ブロックを含む。東斜面からの崩落土。 |
| 17層 | にぶい黄褐色土 | しまりやや弱。粘性強。細粒。明褐色土ブロックを含む。東斜面からの崩落土。 |
| 18層 | 16層と同じ。 | |
| 19層 | 褐色土 | しまりやや強。粘性やや弱。やや粗粒。6層ブロック・炭化物を少量含む。 |
| 20層 | 黄褐色土 | しまり非常に弱。粘性強。細粒。9層に似るがポロポロしない。15層よ りもしまり弱くポロポロしない。東斜面からの崩落土。 |
| 21層 | にぶい黄褐色土 | しまり弱。粘性強。細粒。炭化物を含む。 |
| 22層 | にぶい黄褐色土 | しまり弱。粘性強。細粒。10層に似ているが完全に粘質土。 |
| 23層 | 明褐色土 | しまりやや弱。粘性弱。細粒。灰白色が霜降り状に挟在する。 |
| 24層 | 褐色土 | しまり弱。粘性あり。細粒。15層の土が粉砕して入っている。ポロポロする土。 |
| 25層 | 褐色土 | しまり弱。粘性あり。細粒。粘土質で表面がすべすべしている。 |
| 27層 | 黄褐色土 | しまり・粘性強。細粒。褐灰色土ブロックが多量に混入。明褐色土ブロックを含む。西斜面の崩落土。 |
| 28層 | 鈍い黄褐色土 | しまりやや弱。粘性強。細粒。褐灰色土・明褐色土などが霜降り状に混ざり合い、ひとつの色になってみえる。 |
| 29層 | 黄褐色土 | しまりやや強。粘性強。細粒。20層に似ているがしまりがある。 |

※セクションポイント平面位置は図版2・4に表示

0　（1：80）　3m

沢　C-C'



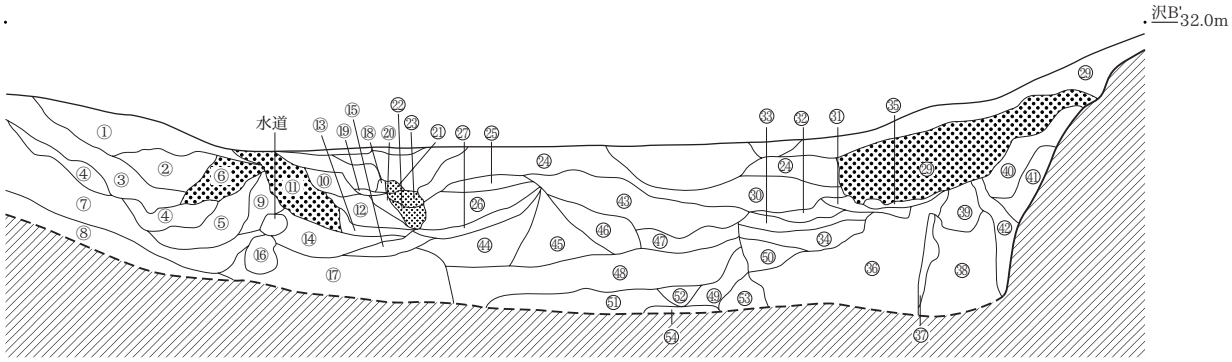

沢　C-C'

| | | |
|---|---|---|
| 2層 | 明黄褐色土 | しまり・粘性弱。地山のブロックを基調とする盛土層。粒子は細かい。D・F列2層に対応。 |
| 3-1層 | 黄灰色土 | しまり・粘性弱。径2～10㎜の炭化物を疎らに含む。耕作土層で上面が畝状を呈する。 |
| 3-2層 | 灰黄褐色土 | しまり・粘性強。径5㎜の炭化物を疎らに含む。耕作土層。 |
| 4層 | 灰褐色土 | しまり非常に強。粘性弱。径5㎜の炭化物を多量に、径5～10㎜の地山ブロックを少量含む。 |
| 5層 | 鈍い褐色土 | しまり非常に強。粘性弱。径10㎜の炭化物を疎らに含む。 |
| 15層 | 鈍い黄褐色土層 | しまり弱。粘性強。上層との境に部分的に2層由来の明黄褐色土を含む。径5㎜の炭化物を疎らに含む。D・E・沢F列15層に対応。 |
| 18層 | 灰黄褐色土 | しまり弱。粘性強。水がついた結果と思われる赤化が進行している。D・E・沢F列18層に対応。 |
| 29層 | 鈍い黄橙色土 | しまり強。粘性非常に強。地山と谷の土が5：3ほどの割合で含まれる。土砂崩れ等で一度に堆積した可能性がある。 |
| 30層 | 灰褐色土 | しまり・粘性非常に強。地山と谷の土が2：5の割合で含まれる。遺物を多量に含む。D・沢F列30層に対応。 |
| 31層 | 灰オリーブ色砂 | しまり弱。粘性無し。砂を基調とする。 |
| 32層 | 灰色土 | しまり強。粘性非常に強。植物遺体を多量に含むシルト質層。D・沢F列の32層に対応。 |

東斜面堆積

| | | |
|---|---|---|
| ①層 | 灰黄褐色土 | しまり弱。粘性無し。地山ブロック・径10㎜の小石を含む。 |
| ②層 | 灰黄褐色土 | しまり・粘性弱。①層より暗い色調で、径5～10㎜の炭化物を疎らに含む。木の根により大きく撹乱を受けている。 |
| ③層 | 鈍い黄橙色砂質土 | しまり弱。粘性無し。部分的に地山ブロックを含む。 |
| ④層 | 鈍い黄橙色土 | しまり・粘性弱。木の根の撹乱により②層の土を部分的に含む。 |
| ⑤層 | 鈍い黄橙色土 | しまり・粘性弱。地山と②・③層との漸移層。 |

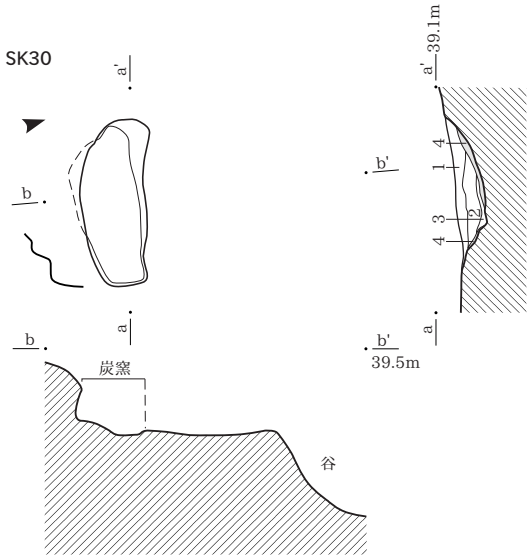
沢　B-B'

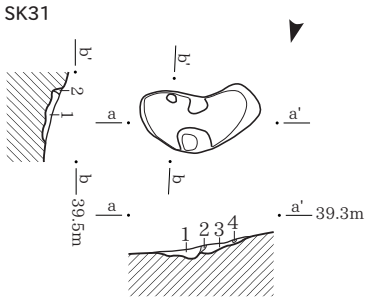


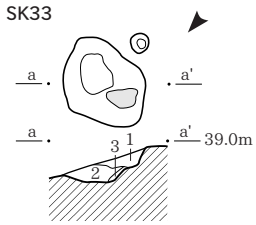

沢B-B'

| | | |
|---|---|---|
| ①層 | 明黄褐色砂質土 | しまり・粘性弱。 |
| ②層 | 灰白色砂質土 | しまり・粘性弱。 |
| ③層 | 灰黄色土 | しまり・粘性非常に強。径1㎜以下の白色粒子を疎らに含むが、混入物が極めて少ない。 |
| ④層 | 鈍い黄橙色土 | しまり・粘性非常に強。径1㎜以下の白色粒子を疎らに含むが、混入物が極めて少ない。 |
| ⑤層 | 灰白色土 | しまり・粘性非常に強。径1㎜以下の白色粒子を疎らに含むが、混入物が極めて少ない。 |
| ⑥層 | 浅黄色砂質土 | しまり・粘性弱。パサパサの地山崩落土。 |
| ⑦層 | 灰白色土 | しまり・粘性強。細粒砂を多量に含む。 |
| ⑧層 | 灰色土 | しまり・粘性弱。細粒砂を基調とする。 |
| ⑨層 | 黄褐色砂 | しまり・粘性無し。細粒砂。 |
| ⑩層 | 鈍い黄色土 | しまり非常に強。粘性弱。砂粒を多く含む。 |
| ⑪層 | 浅黄色土 | しまり非常に強。粘性強。地山ブロックを主体とする崩落土。 |
| ⑫層 | 灰黄色土 | しまり・粘性非常に強。径1㎜の炭化物を疎らに含む。 |
| ⑬層 | 鈍い黄色土 | しまり強。粘性非常に強。径1㎜以下の石英粒子を疎らに含む。 |
| ⑭層 | 黄橙色土 | しまり強。粘性非常に強。径1㎜の白色粒子を疎らに含む。 |
| ⑮層 | 灰黄色土 | しまり・粘性非常に強。径5㎜以下の炭化物を疎らに含む。 |
| ⑯層 | 黒褐色土 | しまり強。粘性非常に強。⑰層に部分的に陥入する暗みがかった部分。白色粒子を疎らに含む。 |
| ⑰層 | 暗灰黄色粘土 | しまり強。粘性非常に強。部分的に⑯層が陥入しているが、基本的には混入物が少ない。 |
| ⑱層 | 黄灰色土 | しまり・粘性弱。径2㎜の炭化物を多量に含む。 |
| ⑲層 | 灰色土 | しまり・粘性弱。炭化物・白色粒子を多量に含む。 |
| ⑳層 | 灰黄色土 | しまり非常に強。粘性強。細粒砂を含む。 |
| ㉑層 | 浅黄色土 | しまり強。粘性非常に強。砂粒・土器片を疎らに含む。 |
| ㉒層 | オリーブ褐色土 | しまり・粘性弱。径5～10㎜の小石を多量に含む。 |
| ㉓層 | 灰色土 | しまり・粘性強。径5～10㎜の小石を疎らに含む。土器片を含む。 |
| ㉔層 | 明黄褐色土 | しまり強。粘性弱。細粒砂を疎らに含む。 |
| ㉕層 | 灰黄色土 | しまり・粘性非常に強。細粒砂を疎らに含む。 |
| ㉖層 | 灰白色土 | しまり・粘性非常に強。径1㎜以下の白色粒子と石英を疎らに含む。 |
| ㉗層 | 灰色土 | しまり・粘性非常に強。径1㎜以下の白色粒子を疎らに含むが、混入物が少ない。 |
| ㉘層 | 浅黄色土 | しまり弱。粘性強。地山ブロックにより構成される崩落土。 |
| ㉙層 | にぶい黄色土 | しまり強。粘性弱。径1㎜以下の白色粒子と石英を多量に含む。 |
| ㉚層 | 灰白色土 | しまり強。粘性非常に強。砂粒を疎らに含む。 |
| ㉛層 | 灰白色土 | しまり・粘性強。33層と酷似するが、粗い。 |
| ㉜層 | 灰白色土 | しまり・粘性非常に強。径1㎜の白色粒子を疎らに含む。 |
| ㉝層 | 浅黄色土 | しまり弱。粘性非常に強。径1㎜以下の白色粒子を疎らに含む。 |
| ㉞層 | 灰白色土 | しまり非常に強。粘性強。細粒砂を多量に含む。 |
| ㉟層 | 灰色土 | しまり・粘性非常に強。径1㎜の白色粒子を多量に含む。 |
| ㊱層 | オリーブ黒色土 | しまり弱。粘性非常に強。径1㎜の白色粒子を疎らに含む。 |
| ㊲層 | 灰色土 | しまり弱。粘性非常に強。径2㎜の炭化物を疎らに含む。 |
| ㊳層 | 灰白色土 | しまり・粘性強。径2㎜の炭化物を疎らに含む。 |
| ㊴層 | 浅黄色土 | しまり・粘性弱。削るとボロボロするような径5㎜の粗い粒子によって構成される。 |
| ㊵層 | 灰白色土 | しまり・粘性強。ところどころ赤化が進んでいるが混入物はほとんどなし。 |
| ㊶層 | 明褐色土 | しまり弱。粘性強。径1㎜以下の白色粒子を疎らに含む。 |
| ㊷層 | 灰白色土 | しまり・粘性非常に強。砂粒を多量に含む。径2～3㎜の炭化物を疎らに含む。 |
| ㊸層 | 灰色土 | しまり・粘性非常に強。植物遺体が部分的に陥入する。 |
| ㊹層 | 灰白色土 | しまり・粘性非常に強。径2㎜の白色粒子を疎らに含む。 |
| ㊺層 | 灰白色土 | しまり・粘性強。45層と同質であるが、崩落したのかしまりが若干弱い。 |
| ㊻層 | オリーブ灰色土 | しまり強。粘性非常に強。部分的に赤化が進行している。 |
| ㊼層 | 明オリーブ灰色土 | しまり強。粘性非常に強。炭化した植物遺体を疎らに含む。 |
| ㊽層 | 灰色土 | しまり・粘性強。炭化した植物遺体を疎らに含む。 |
| ㊾層 | 灰色土 | しまり・粘性強。34層と36層の漸移層。 |
| ㊿層 | オリーブ黒色土 | しまり強。粘性非常に強。植物遺体を多量に含む。部分的に54層が陥入する。 |
| 51層 | オリーブ灰色土 | しまり・粘性強。径2～3㎜の砂粒を疎らに含む。 |
| 52層 | 灰色土 | しまり・粘性非常に強。部分的に植物遺体が陥入する。 |
| 53層 | 青黒色土 | しまり・粘性非常に強。植物遺体を主体とする。51層に類似。 |

※セクションポイント平面位置は図版3に表示　　0　（1：100）　3m



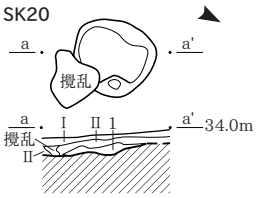



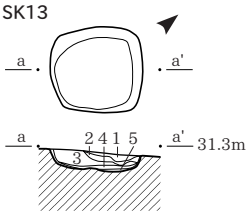



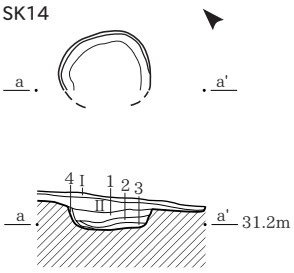

SK30
1層　褐色土　しまり・粘性弱。径5㎜以下の炭化物少量。
2層　黒褐色土　しまりややあり。粘性あり。径10㎜の炭化物・焼土片を含む。
3層　黒色土　しまり弱。粘性あり。径3㎜の炭化物多量。
4層　鈍い赤褐色土　しまり・粘性あり。焼土層。
地山　黄褐色土　しまり・粘性あり。地滑り層。

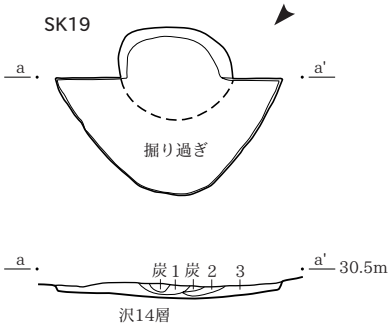
SK31
1層　オリーブ褐色土　しまりあり。粘性ややあり。炭化物・焼土粒少量。
2層　にぶい赤褐色土　しまりあり。粘性無し。内側橙色で外側へ行くほど赤味が増す。焼土層。
3層　黄褐色土　しまり・粘性あり。
地山　黄褐色土　しまり・粘性あり。土砂崩れ層。

SK33
1層　鈍い黄褐色土　しまりやや弱。粘性ややあり。炭化物少量。
2層　暗褐色土　しまりあり。粘性ややあり。炭化物多量。
3層　鈍い赤褐色土　しまりあり。粘性無し。窯壁と考えられる。
地山　黄褐色土　しまり・粘性あり。土砂崩れ層。




SK20
1層　にぶい黄褐色土　しまりあり。粘性ややあり。径10㎜程度の炭化物多量。

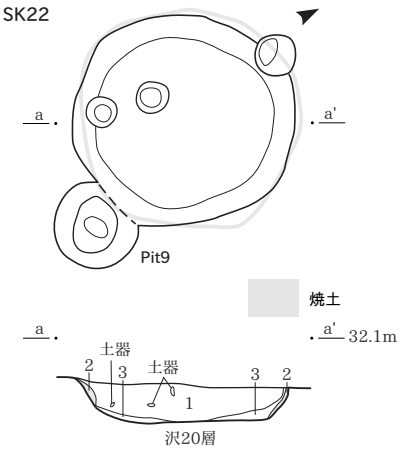
SK13
1層　黄褐色土　しまり・粘性あり。径10㎜の炭化物少量。
2層　鈍い黄褐色土　しまり・粘性あり。径30㎜以下の炭化物多量。炭化物層。
3層　黄褐色土　しまり・粘性あり。径10㎜の炭化物少量。
4層　鈍い黄褐色土　しまり・粘性あり。径30㎜以下の炭化物多量。炭化物層。
5層　鈍い赤褐色土　しまり強。粘性無し。焼土層。

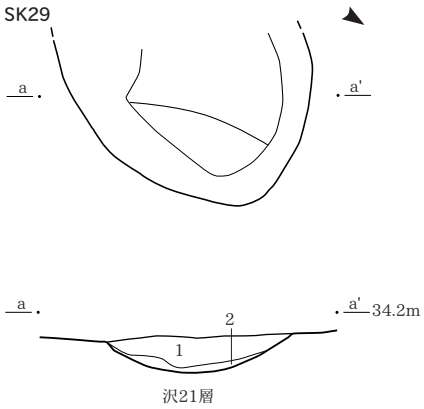
SK14
1層　褐色土　しまりあり。粘性弱。径10㎜の黄色土・白色土ブロックを含む。
2層　鈍い黄褐色土　しまりあり。粘性ややあり。径10㎜の黄色土・白色土ブロックを含む。
3層　褐色土　しまりやや弱。粘性ややあり。径10㎜の炭化物多量。炭層。
4層　赤褐色土　しまり・粘性あり。窯壁。

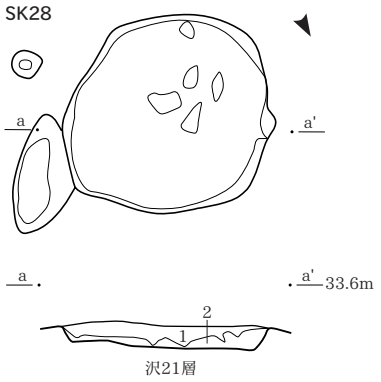
SK19
1層　暗褐色土　しまり弱。粘性ややあり。やや細粒。
2層　鈍い黄褐色土　しまりやや弱。粘性ややあり。やや細粒。
3層　暗褐色土　しまりややあり。粘性やや弱。中粒。沢14層。

焼土

（SK13・14・19・20・30・31・33）　0　（1：80）　3m



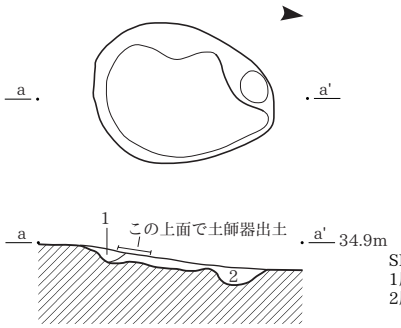

SK22
1層　暗褐色土　しまり強。粘性弱。細粒で黄褐色土ブロックを含む。炭化物・土器片多量。
2層　にぶい赤褐色土　しまり強。粘性弱。粗粒。焼土層。
3層　炭層

SK29
1層　灰黄褐色土　しまりやや弱。粘性あり。細粒。黄褐色土ブロック・径3～5㎜の炭化 物を含む。
2層　鈍い黄褐色土　しまりやや弱。粘性あり。細粒。炭化物多量。
※　土師器片あり。

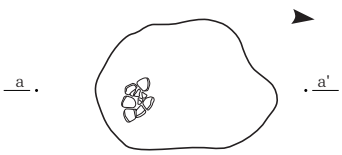
SK28
1層　暗褐色土　しまり強。粘性やや弱。やや細粒。炭化物細粒多量。
2層　鈍い黄褐色土　しまりやや弱。粘性やや強。細粒。

（SK22・28・29）　0　（1：40）　1m

## SK24

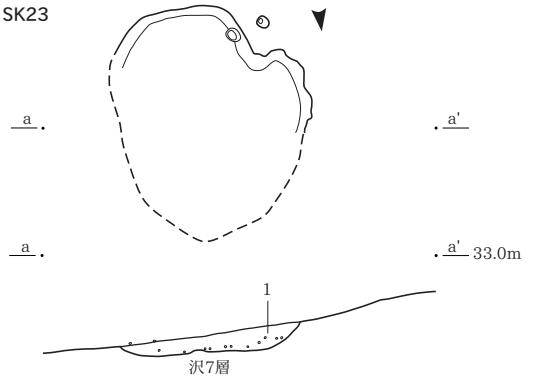



SK24　土器出土状況




SK24
1層　鈍い黄褐色土　しまり・粘性弱。炭化物多量。
2層　褐色土　しまりあり。粘性弱。
炭化物粒・焼土粒含む。

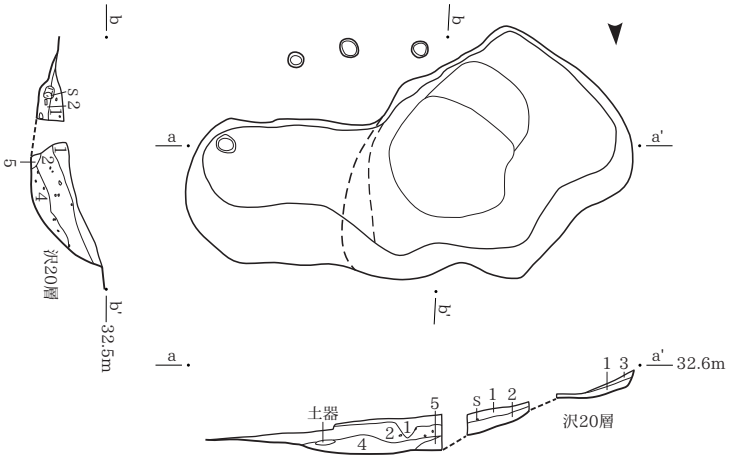
## SK23




SK23
1層　鈍い黄褐色土　しまり・粘性弱。やや粗粒。炭化物・土器片多量。
○　遺物

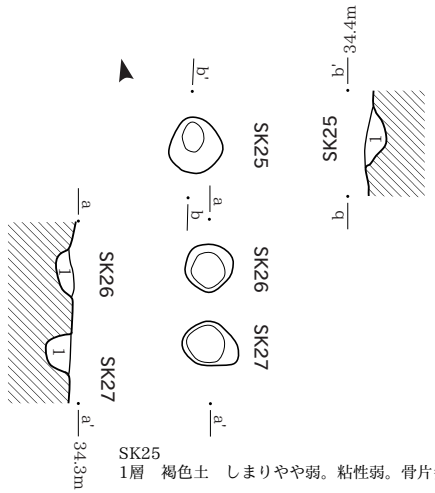
(SK23) 0 (1：80) 3m

## SK21




SK21
1層　暗褐色土　しまり強。粘性やや弱。やや粗粒。炭化物・土器片多量。
2層　褐色土　しまり強。粘性ややあり。やや細粒。黄褐色土ブロックを含む。
炭化物・土器片多量。
3層　黄褐色土　しまり強。粘性やや弱。やや粗粒。西斜面からの崩落土。
4層　暗褐色土　しまり強。粘性ややあり。やや細粒。炭化物・土器片・石器を含む。
5層　黄褐色土　しまり強。粘性やや弱。やや粗粒。
○　遺物

(SK21) 0 (1：80) 3m

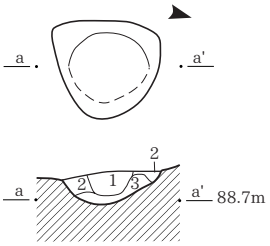



SK25
1層　褐色土　しまりやや弱。粘性弱。骨片多量。

SK26
1層　灰黄褐色土　しまりやや弱。粘性無し。骨片多量。

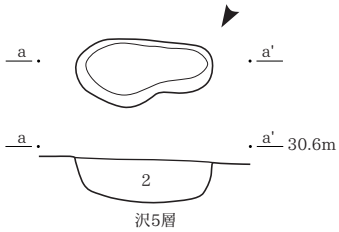
SK27
1層　褐色土　しまりやや弱。粘性弱。骨片多量。

## SK12



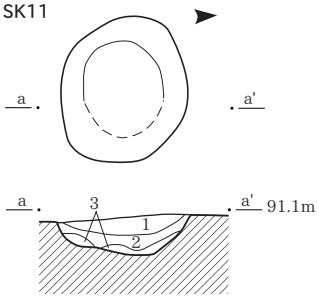

SK12
1層　褐灰色土　しまり弱。粘性無し。炭化物・骨片多量。
2層　黒色土　しまり弱。粘性無し。黄褐色土ブロック・骨片を疎らに、炭化物を多量に含 む。
3層　明黄褐色土　しまりややあり。粘性あり。地山の土を基調として炭化物を疎らに含む。

## SK15



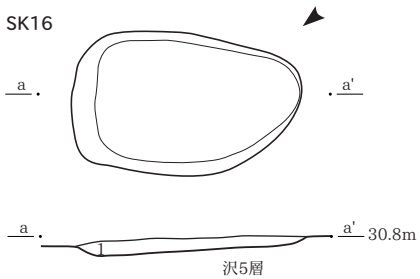

SK15
2層　黒褐色土　しまり・粘性弱。
径5㎜の炭化物を疎らに含む。

## SK11



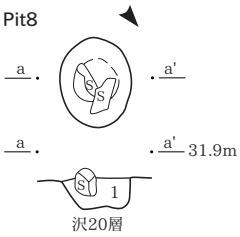

SK11
1層　鈍い黄褐色土　しまり弱。粘性無し。地山の土を基調として径2～10㎜の黄褐色土ブロックを多量に含む。炭化物少量。
2層　黒色土　しまり弱。粘性無し。板状の木炭を含む炭化物層。
3層　明褐色土　しまりやや弱。粘性あり。地山の土を基調とする。炭化物を部分的に含む。

## SK16



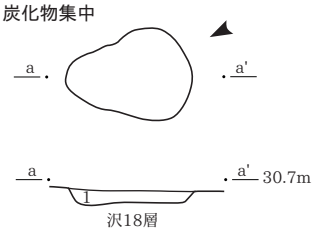

SK16
1層　鈍い黄褐色土　しまり強。粘性弱。炭化物・骨片を多量に含む。焼土も疎らに含む。

## Pit8



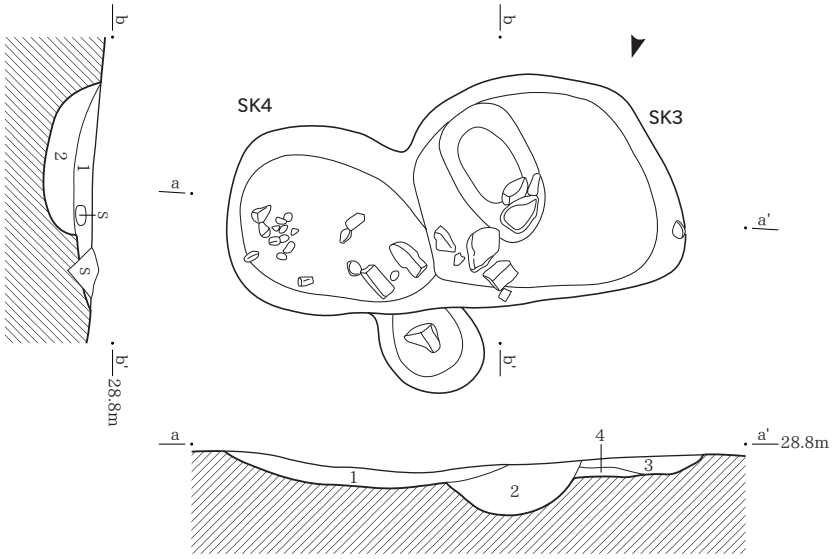

Pit8
1層　暗褐色土　しまり強。粘性ややあり。細粒。
土器を含む。

## 炭化物集中

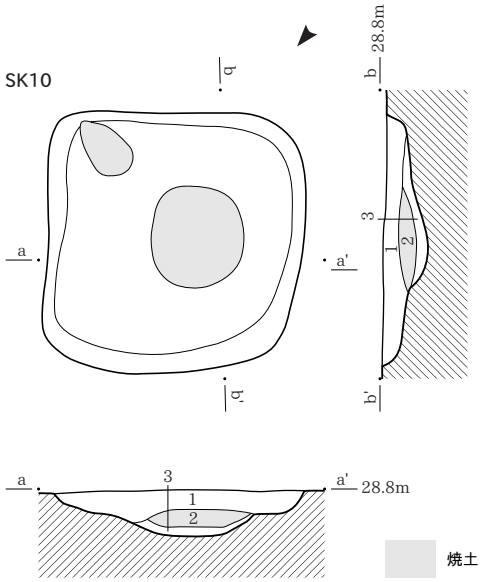



炭化物集中
1層　黒褐色土　しまり・粘性弱。径5㎜以上の炭化物多量。

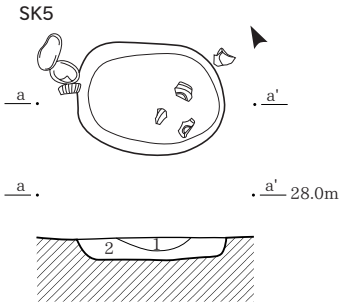
(SK21・23以外) 0 (1：40) 1m



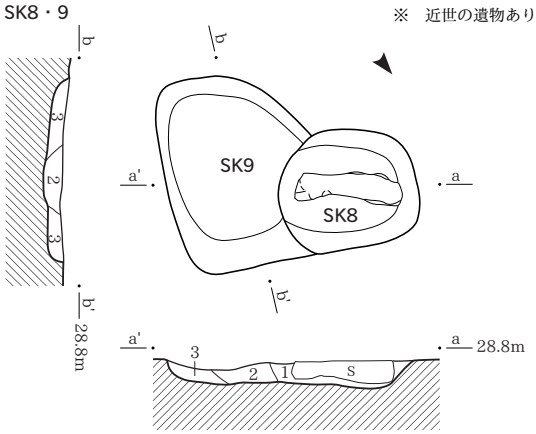

SK3・4
1層　鈍い黄橙色土　しまり弱。粘性なし。径1㎜の炭化物を疎らに含む。
2層　明褐灰色土　しまり・粘性あり。径2㎜の炭化物を疎らに含む。
3層　鈍い褐色土　しまり弱。粘性無し。地山ブロックを疎らに含む。
4層　灰褐色土　しまり弱。粘性あり。
※　近世の遺物あり。



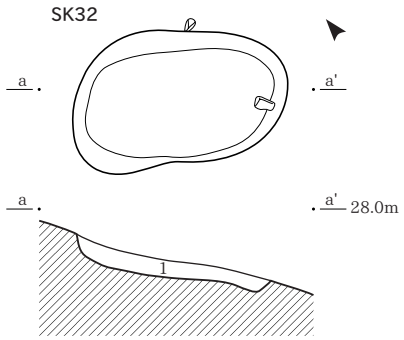

SK10
1層　にぶい褐色土　しまりあり。粘性弱。径1～10㎜の炭化物を疎らに含む。
2層　赤色焼土　しまりあり。粘性なし。径10㎜の炭化物を疎らに含む。焼けが激しく、鮮やかな赤色を呈する。
3層　赤色焼土　しまり・粘性あり。地の白色粘土が焼けたものであり、掘りすぎの可能性がある。
※　近世の遺物あり。



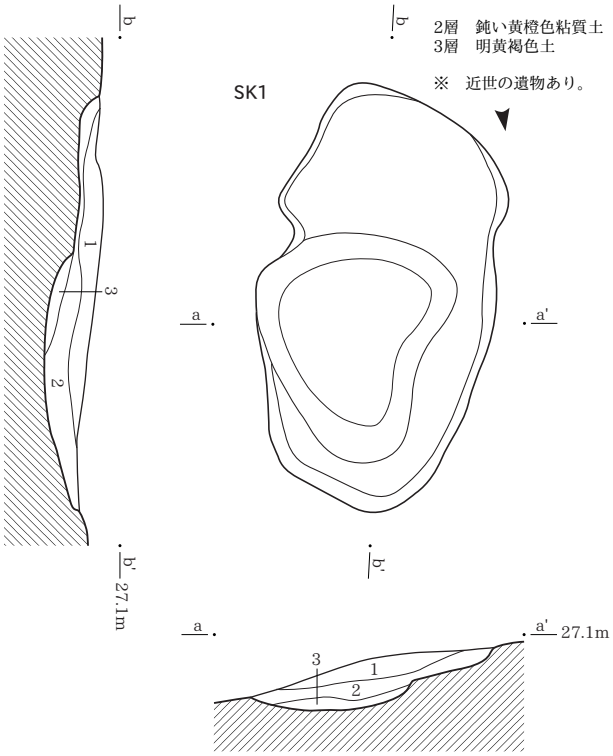

SK5
1層　灰褐色土　しまり・粘性ややあり。
2層　にぶい褐色土　しまり・粘性あり。地山ブロックを若干含む。
※　近世の遺物あり。



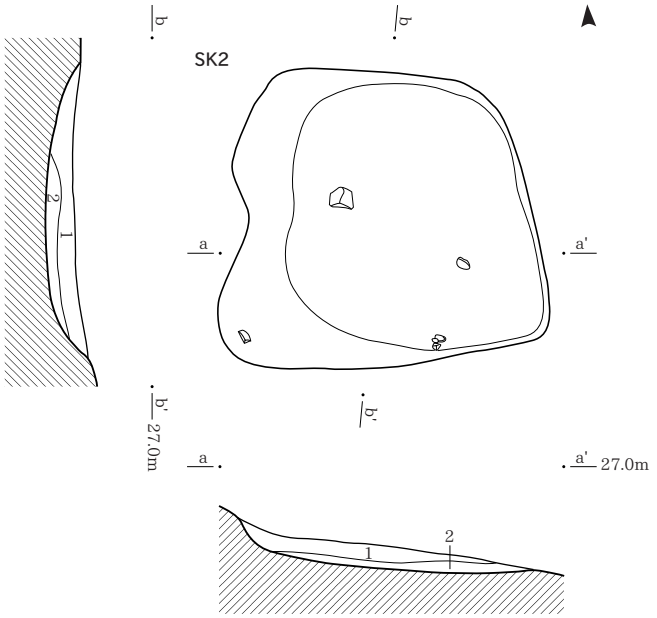

SK8・9
1層　鈍い黄褐色土　しまりあり。粘性無し。径2～5㎜の炭化物多量。SK8覆土。
2層　鈍い黄橙色粘質土　しまり・粘性強。SK9覆土。
3層　明黄褐色土　しまり・粘性あり。地山の黄褐色土を基調とする。SK9覆土。
※　近世の遺物あり。




SK32
1層　鈍い褐色土　しまりあり。粘性弱。径5～10㎜の小礫を若干含む。



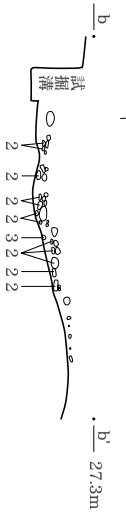

SK1
1層　灰褐色土　しまりあり。粘性弱。径30㎜の小礫を疎らに含むが、大部分は掘りすぎている可能性がある。
2層　明褐灰色土　しまり・粘性あり。シルト質で部分的に黄褐色を帯びる。
3層　鈍い橙色土　しまり弱。粘性あり。部分的に地山ブロックが含まれる。



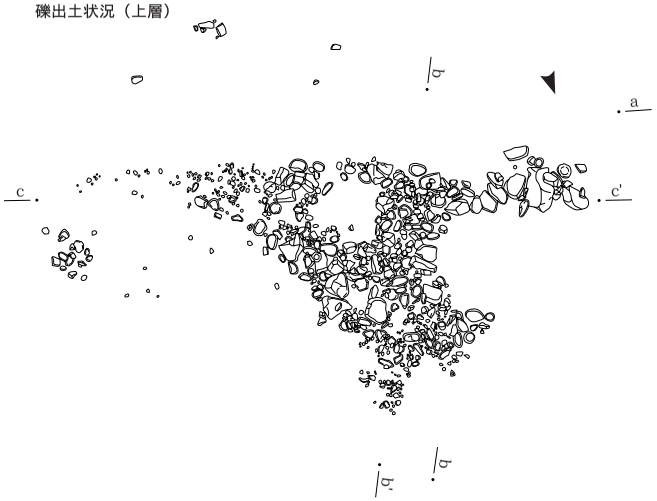

SK2
1層　鈍い黄橙色土　しまり・粘性あり。シルト質で全体的に黄褐色を帯びる（酸化の影響？）
2層　褐灰色土　しまり・粘性あり。シルト質で酸化した箇所が見られない。
※　近世の遺物2点あり。

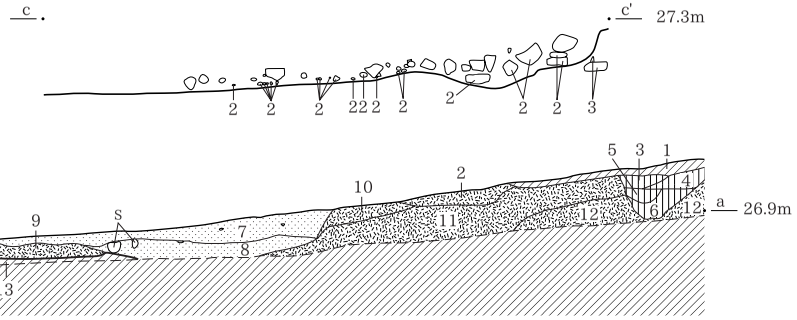
0　（1：40）　1m

SD2




礫出土状況（上層）

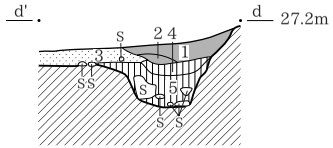


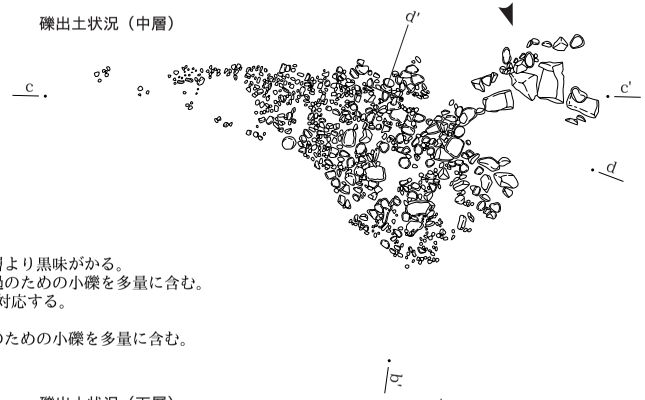

SD2　セクションa-a'

| | | |
|---|---|---|
| 1層 | 浅黄色土 | しまり強。粘性弱。盛土層。 |
| 2層 | 灰白色土 | しまり強。粘性弱。径5㎜の炭化物を疎らに含む。赤化の度合いは弱い。 |
| 3層 | 明黄褐色砂質土 | しまり強。粘性なし。径2㎜の炭化物を疎らに含む。 |
| 4層 | 黄灰色砂質土 | しまり強。粘性弱。径2㎜の炭化物を疎らに含む。 |
| 5層 | 灰黄褐色土 | しまり・粘性強。径2㎜の炭化物を疎らに含む。 |
| 6層 | 鈍い黄褐色土 | しまり・粘性強。径5㎜の炭化物を疎らに、径10㎜の小礫を多量に含む。小礫は湧水地点において地下から湧き出てくるものと同質であり、人為的に搬入されたものではない。 |
| 7層 | 灰褐色土 | しまり弱。粘性強。径30㎜の小礫を少量含む。井戸の濾過用と考えられる。 |
| 8層 | 鈍い黄橙色砂 | しまり弱。粘性無し。砂を基調として径30㎜以上の小礫を多量に含む。 |
| 9層 | 灰色土 | しまり弱。粘性強。径2㎜の炭化物をまばらに含む。 |
| 10層 | 灰黄色土 | しまり強。粘性弱。赤化の進行が著しい。 |
| 11層 | 沢18層に対応。 | |
| 12層 | 沢30層に対応。 | |
| 13層 | 沢⑥層に対応。 | |

※　中・近世の遺物あり。



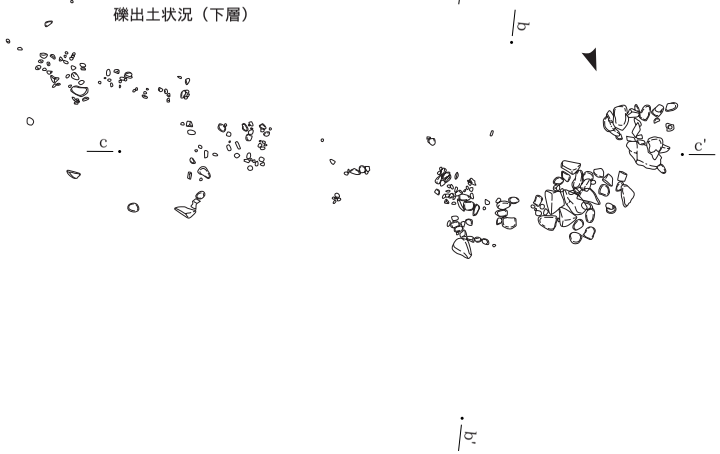

礫出土状況（中層）

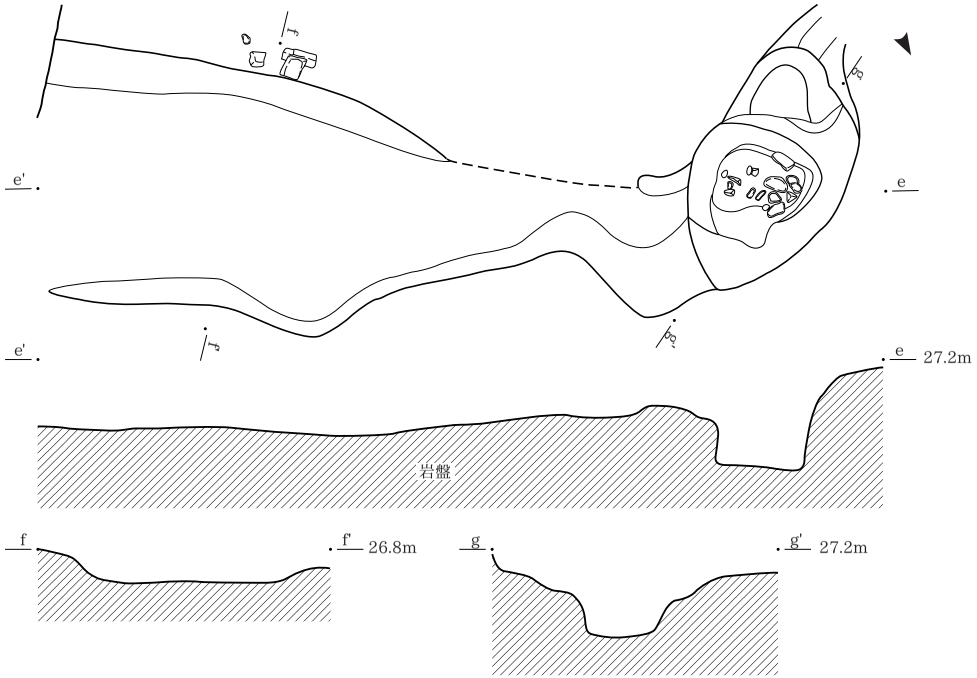



SD2　セクションd-d'

| | | |
|---|---|---|
| 1層 | 灰黄褐色砂質土 | しまり弱。粘性あり。 |
| 2層 | 褐灰色土 | しまり弱。粘性あり。上層より黒味がかる。 |
| 3層 | 灰黄褐色土 | しまり弱。粘性あり。濾過のための小礫を多量に含む。SD2セクションAの8層に対応する。 |
| 4層 | にぶい黄橙色砂 | しまり弱。粘性無し。 |
| 5層 | 褐灰色土 | しまり弱。粘性強。濾過のための小礫を多量に含む。 |

礫出土状況（下層）




盛土

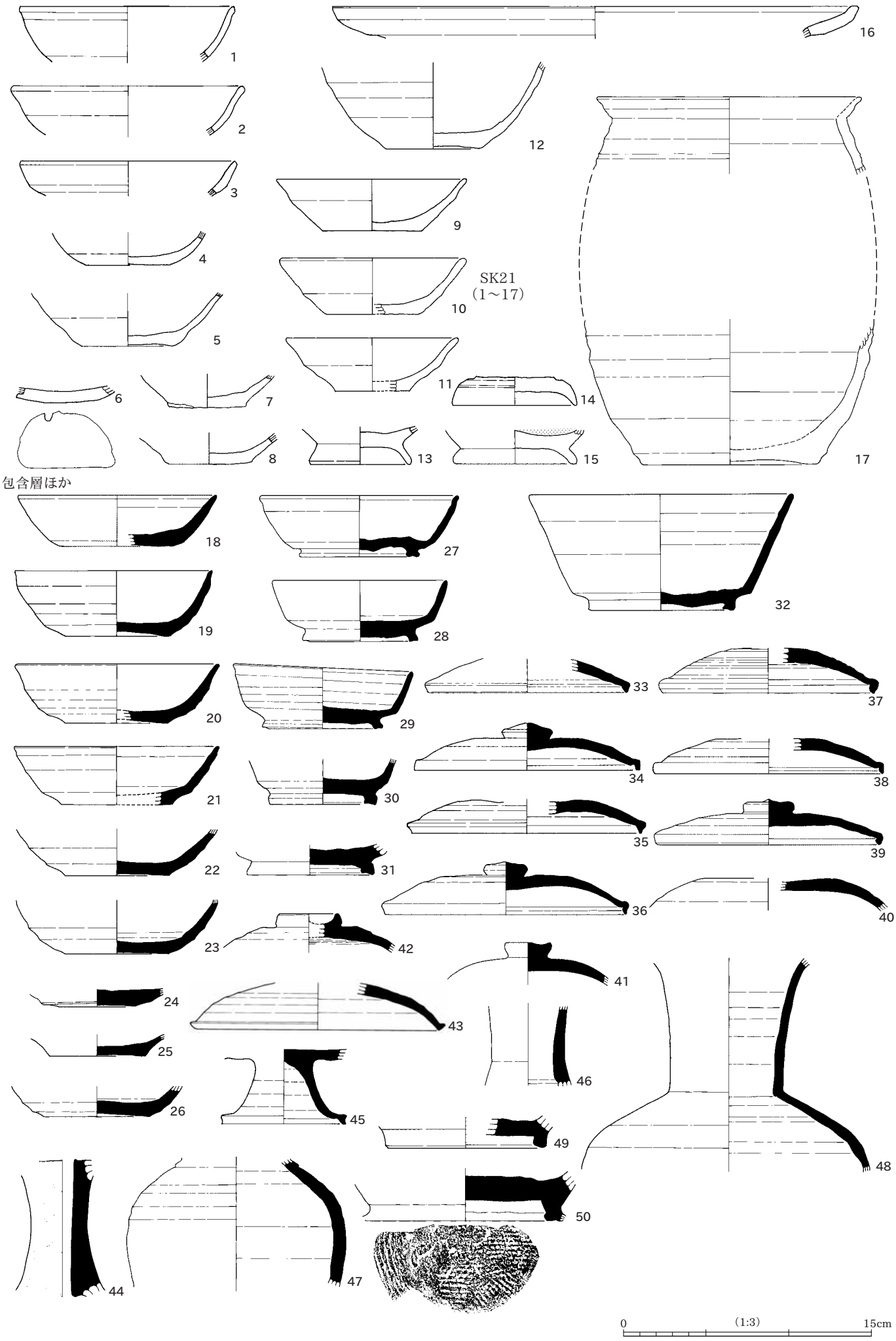
水場

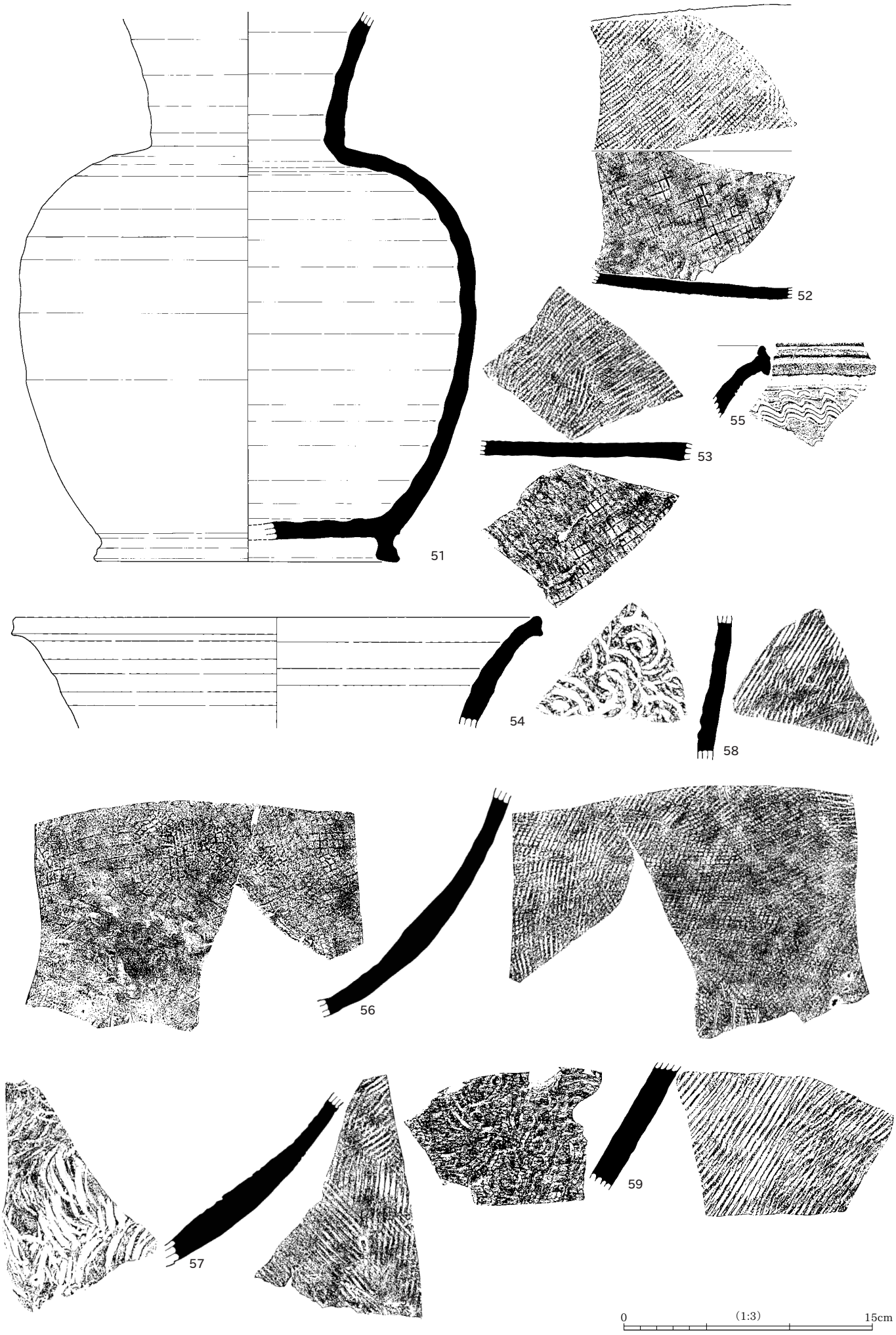
水すまし場

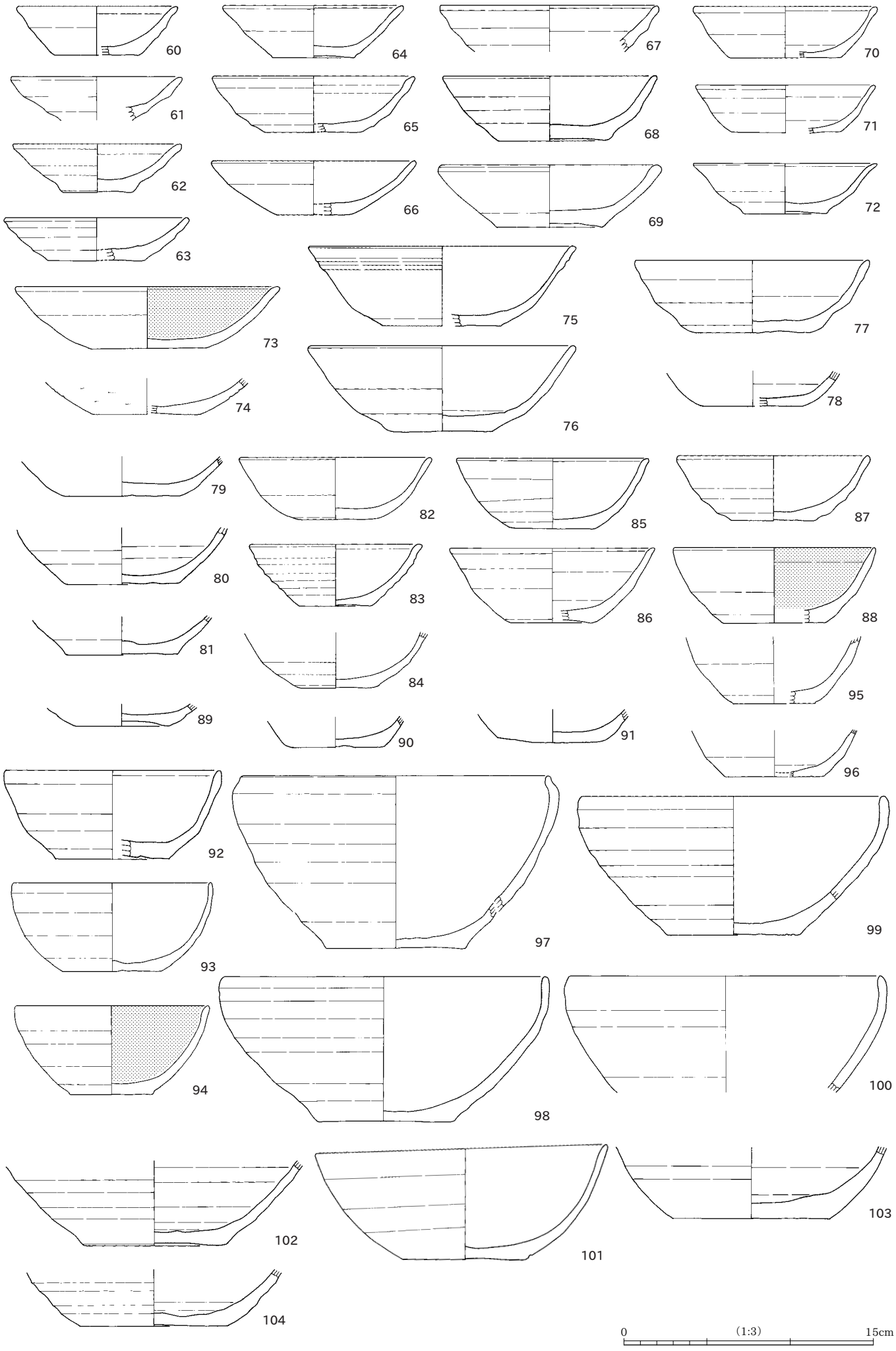
埋没谷

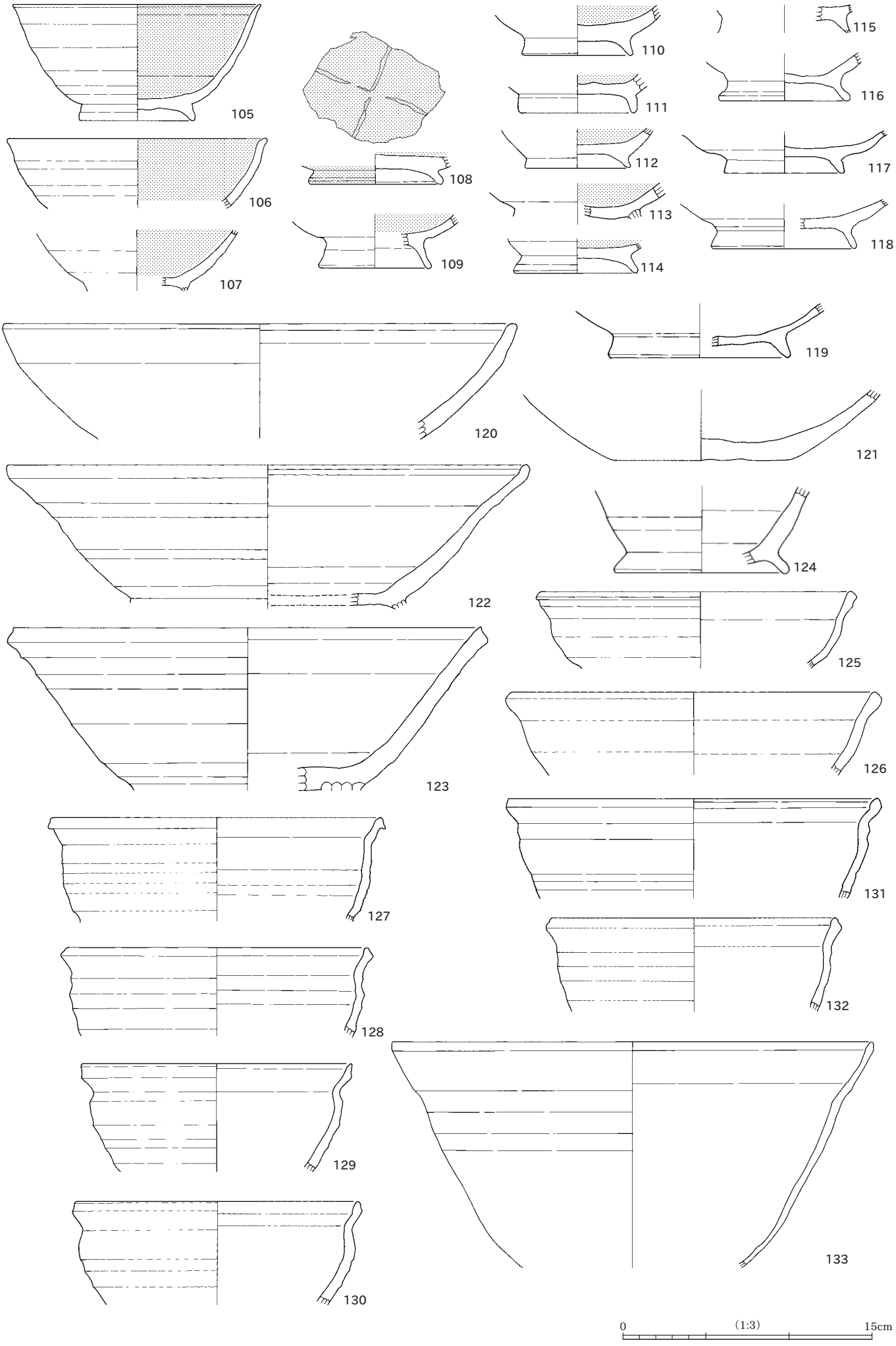
井戸埋没後の堆積

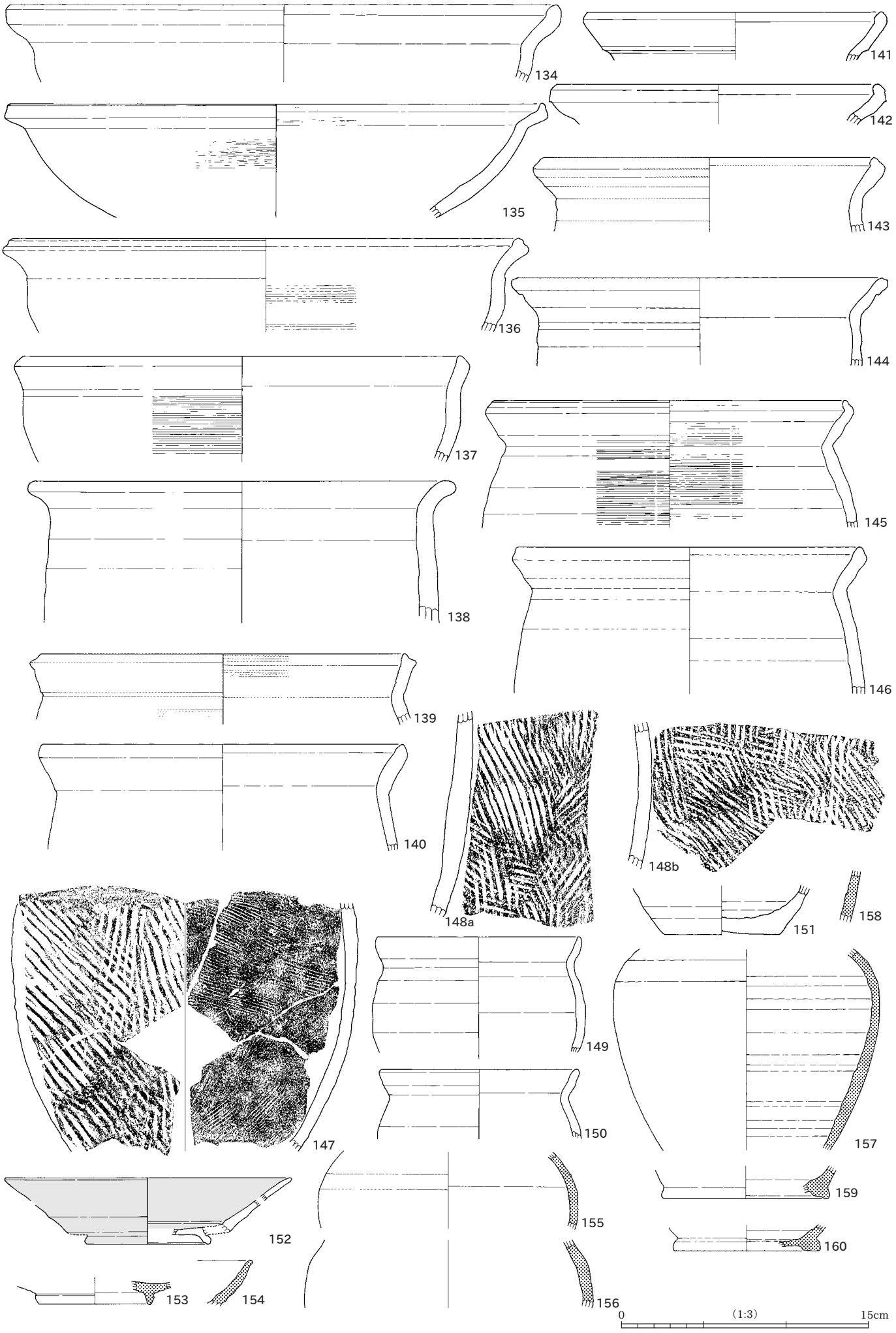
0　(1：80)　3m

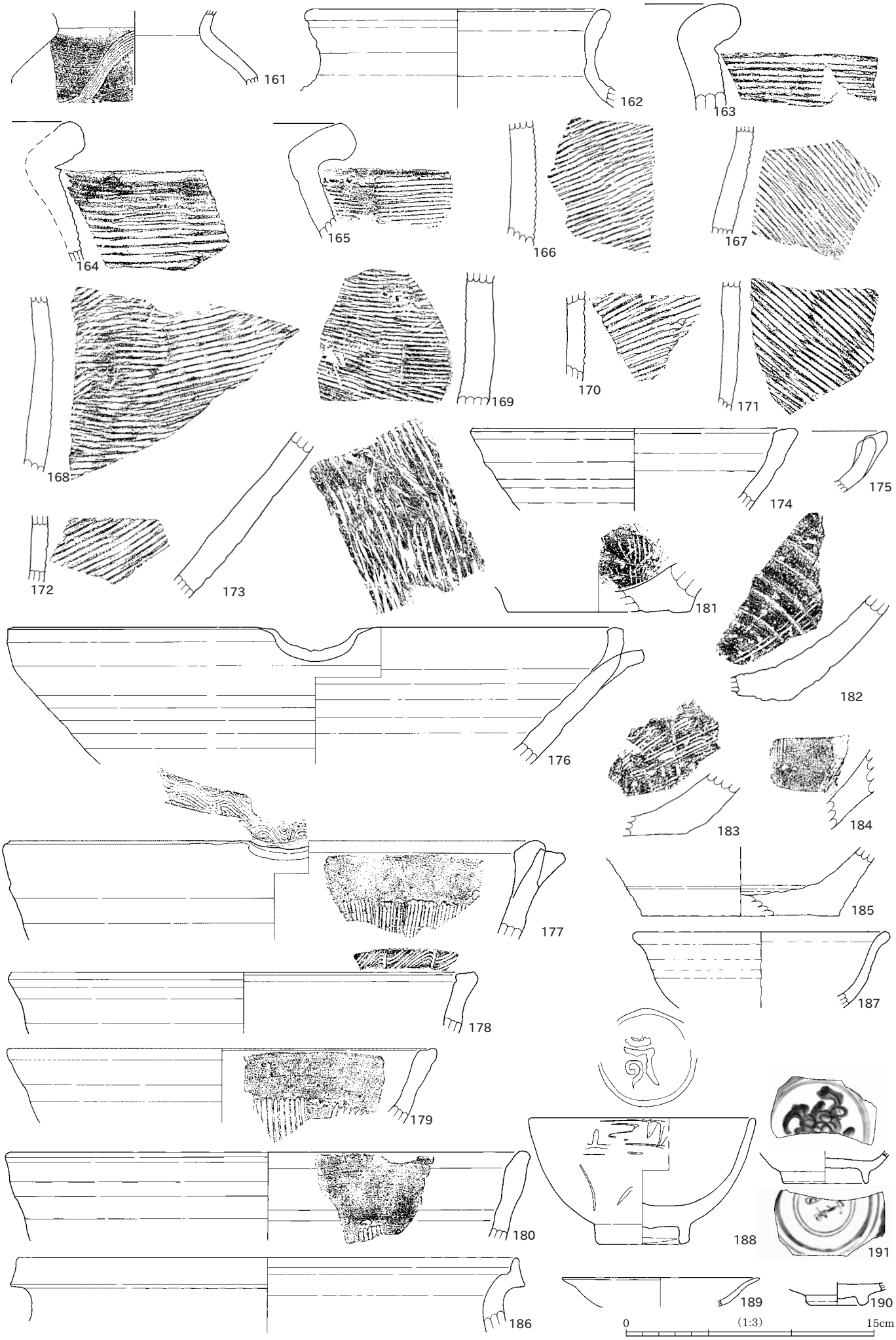

SK21
（1～17）
包含層ほか
0
（1:3）
15cm

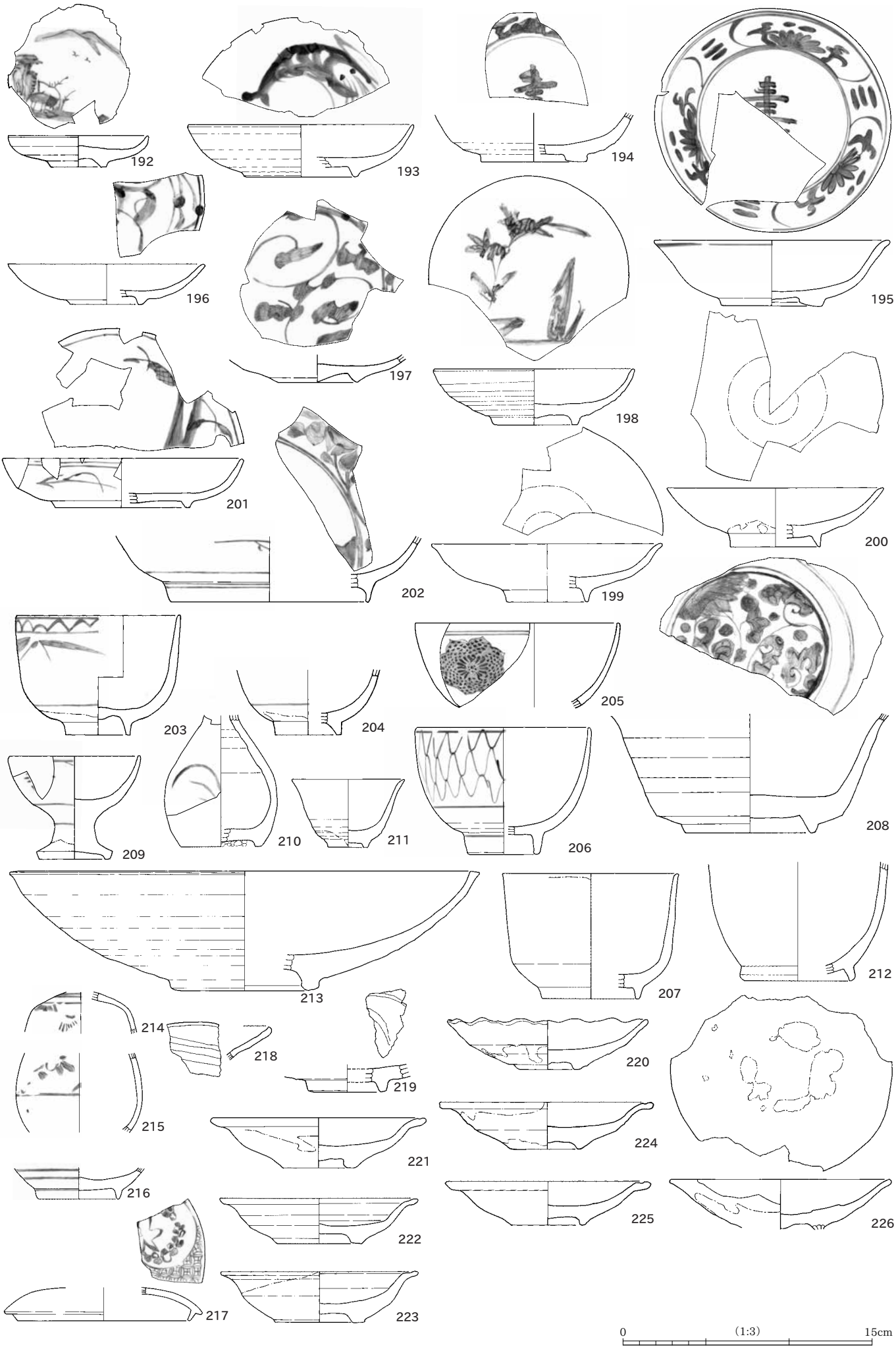

51
52
53
54
55
56
57
58
59
0
(1:3)
15cm

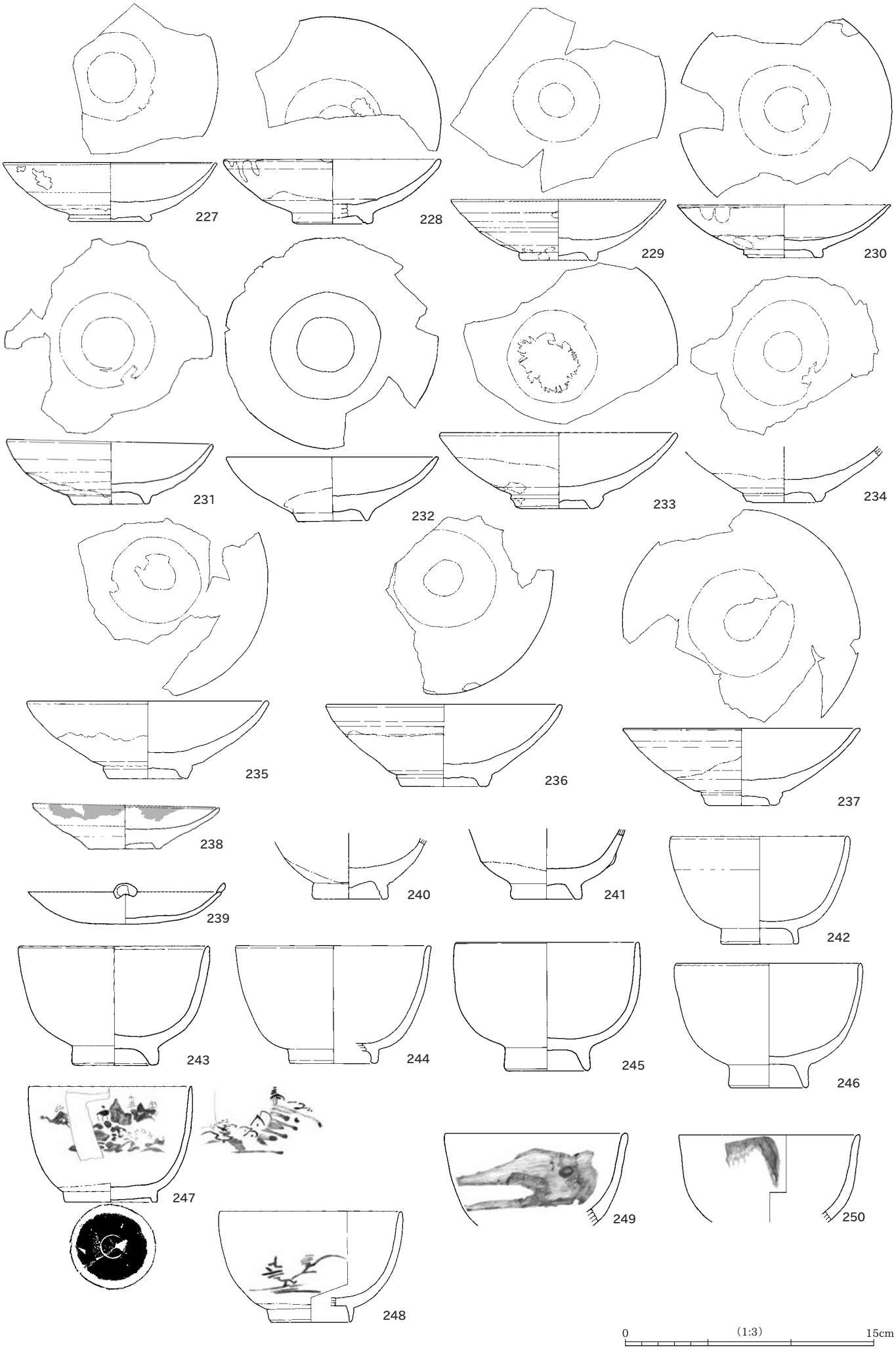

60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
0
(1:3)
15cm

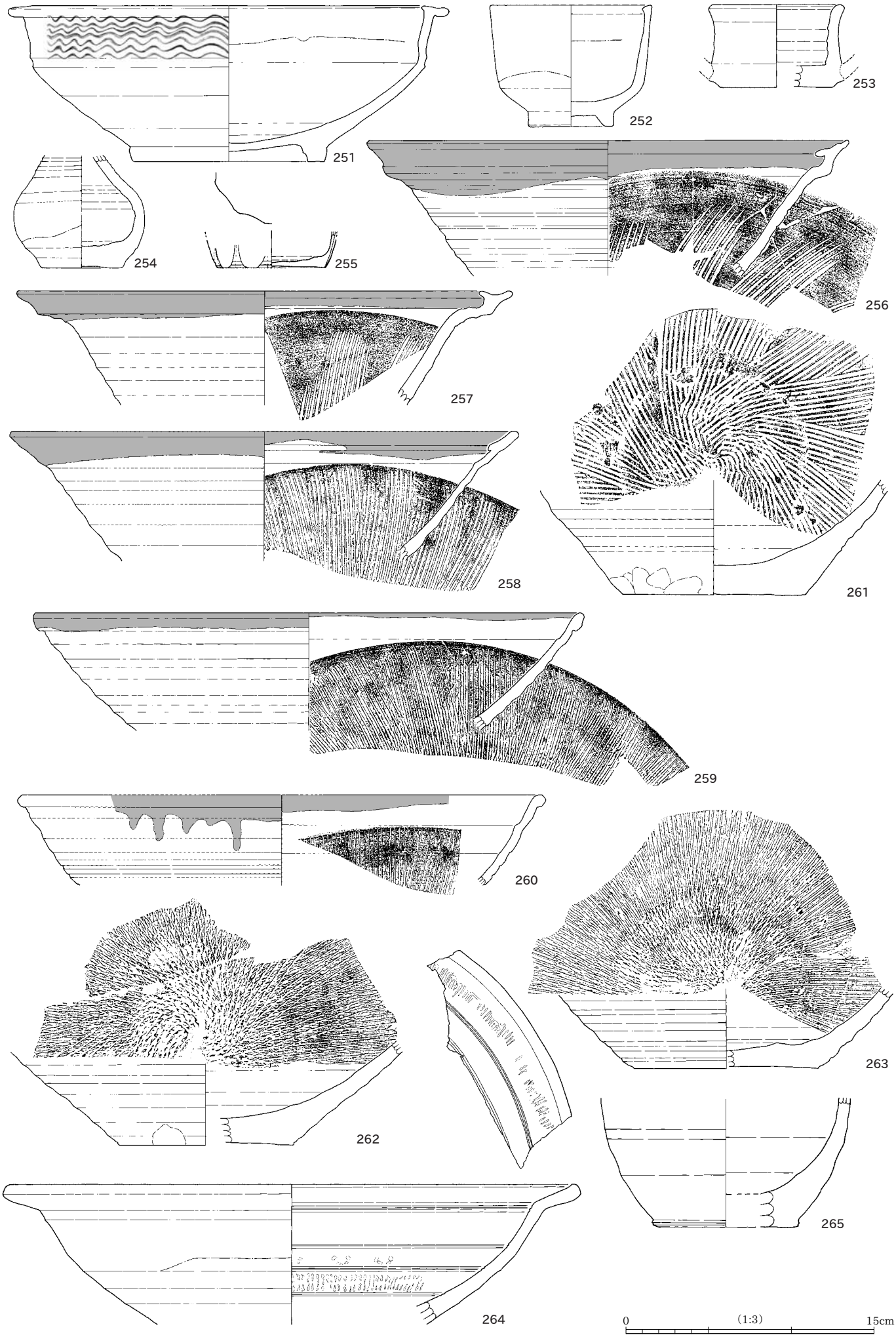

105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
0
(1:3)
15cm

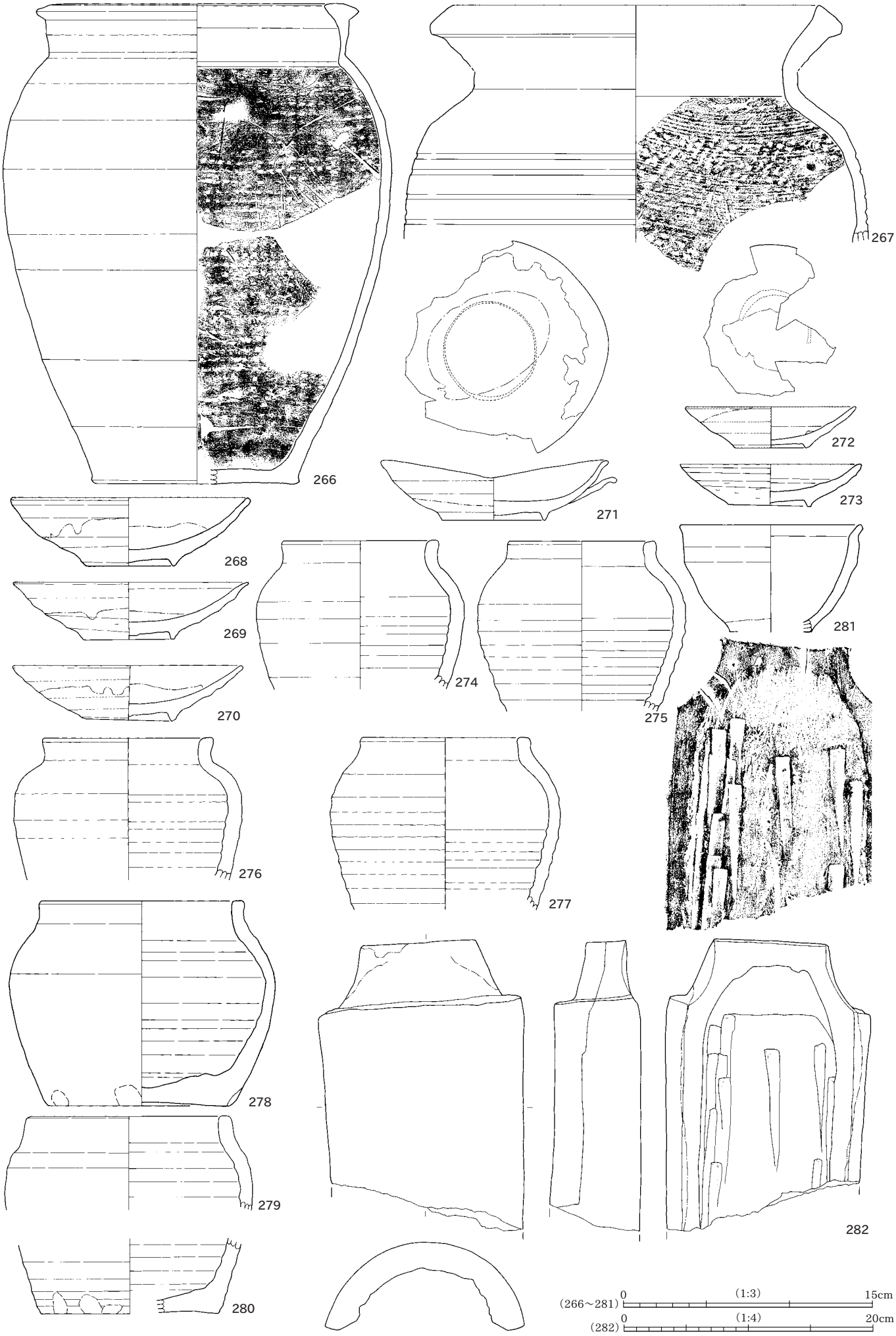

134
141
142
135
143
136
144
137
145
138
146
139
140
148b
148a
151
158
149
147
150
157
159
152
155
160
153
154
156
0
(1:3)
15cm

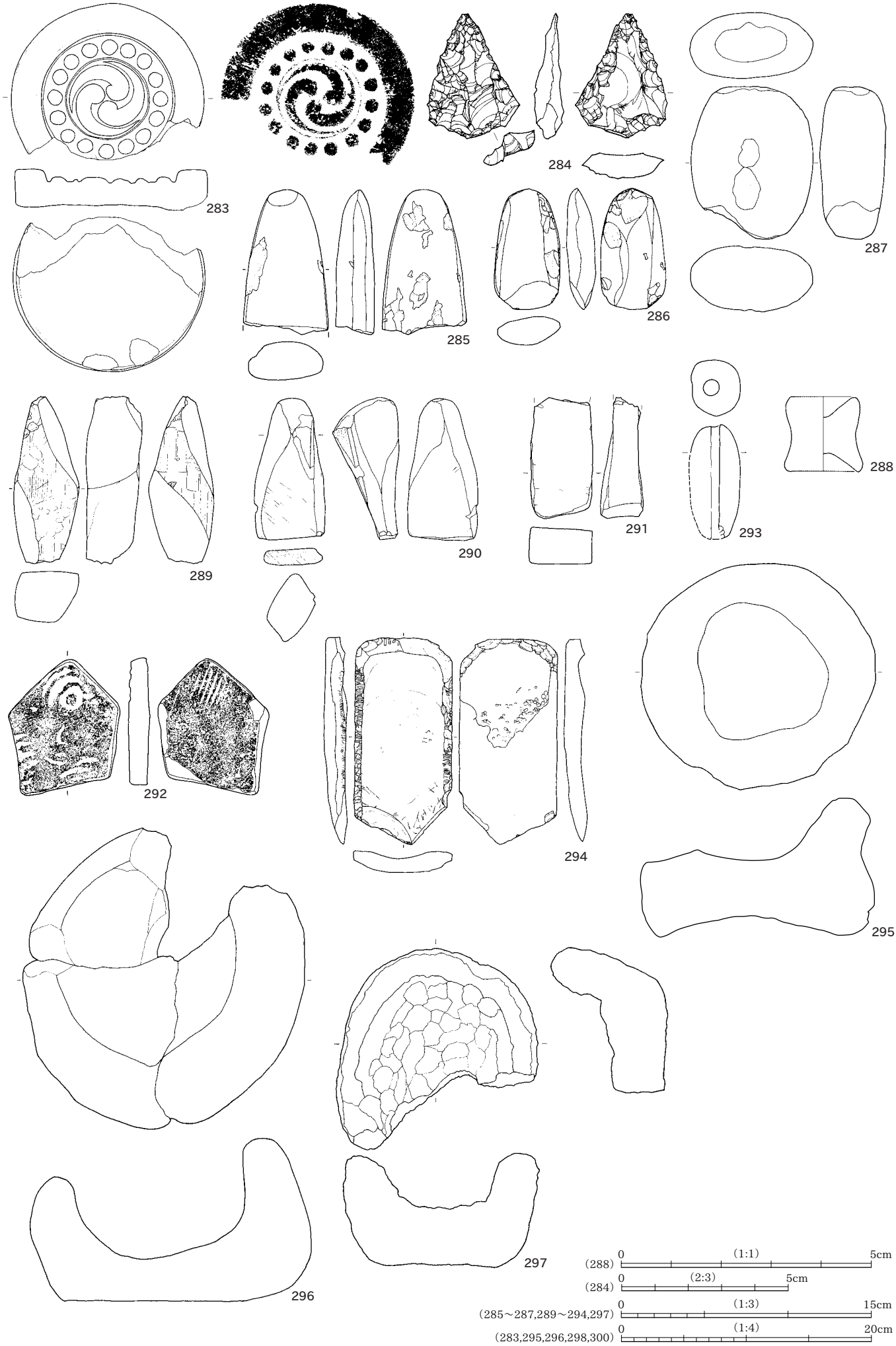

161
162
163
164
165
166
167
168
169
170
171
172
173
174
175
176
177
178
179
180
181
182
183
184
185
186
187
188
189
190
191
0
(1:3)
15cm

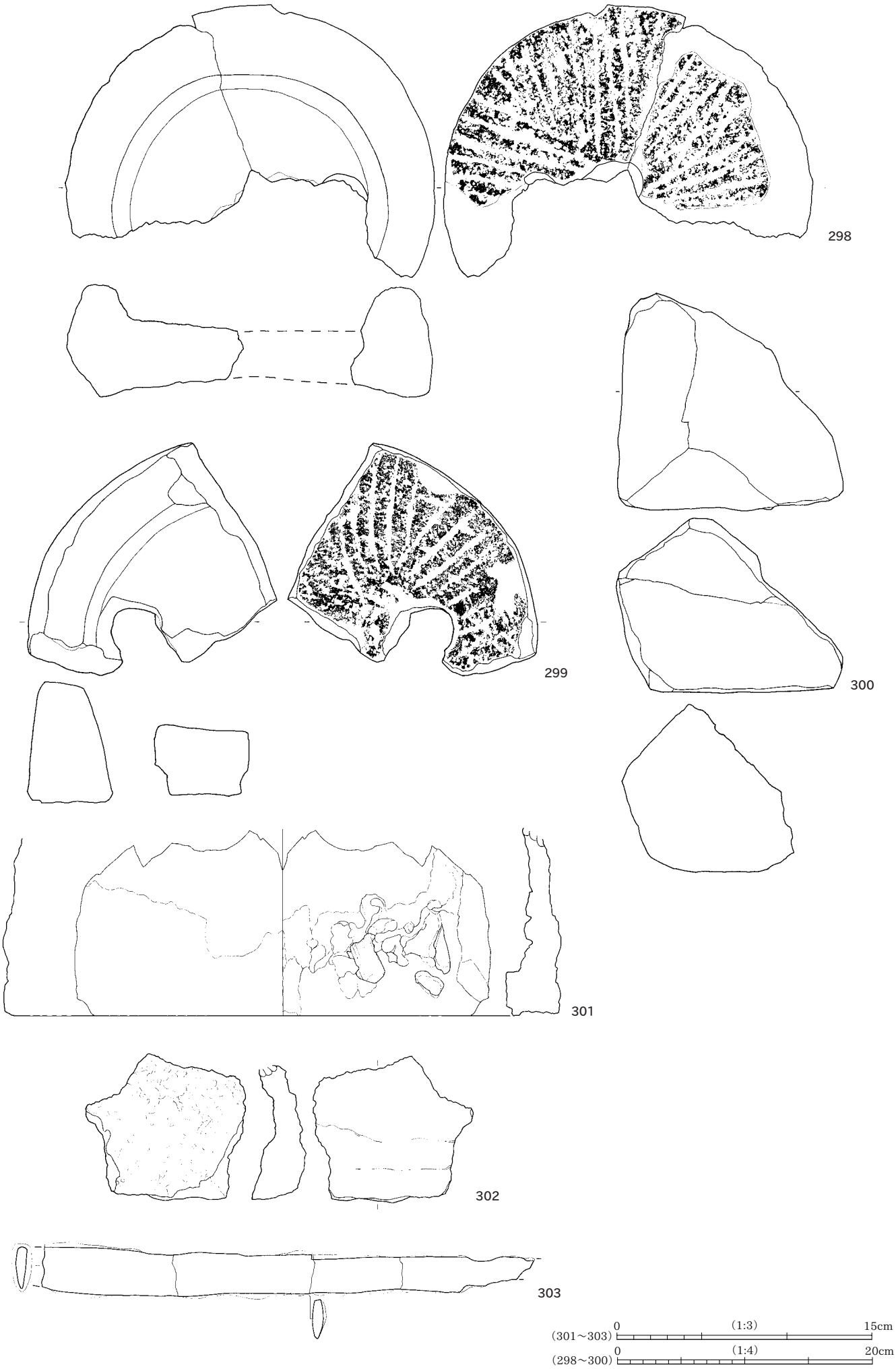

192
193
194
195
196
197
198
199
200
201
202
203
204
205
206
207
208
209
210
211
212
213
214
215
216
217
218
219
220
221
222
223
224
225
226
0
(1:3)
15cm


227
228
229
230
231
232
233
234
235
236
237
238
239
240
241
242
243
244
245
246
247
248
249
250
0
(1:3)
15cm


251
252
253
254
255
256
257
258
259
260
261
262
263
264
265
0
(1:3)
15cm


266
267
268
269
270
271
272
273
274
275
276
277
278
279
280
281
282
(266～281) 0 (1:3) 15cm
(282) 0 (1:4) 20cm


283
284
285
286
287
288
289
290
291
292
293
294
295
296
297
(288) 0 (1:1) 5cm
(284) 0 (2:3) 5cm
(285～287,289～294,297) 0 (1:3) 15cm
(283,295,296,298,300) 0 (1:4) 20cm


298
299
300
301
302
303
(301～303) 0 (1:3) 15cm
(298～300) 0 (1:4) 20cm

整地面　全景（北から）

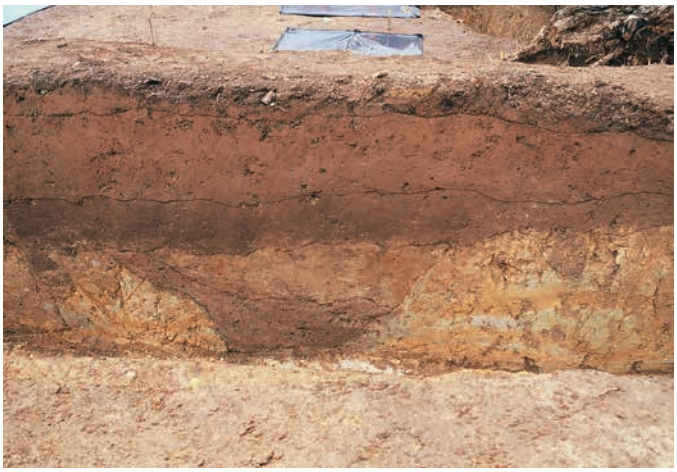
整地面　全景（西から）

沢　完掘

沢　掘削風景

沢　断面（F列）

沢　断面（C列）



沢　断面（A列）

沢　断面（B列）

盛土　断面（I列）

土墨　断面

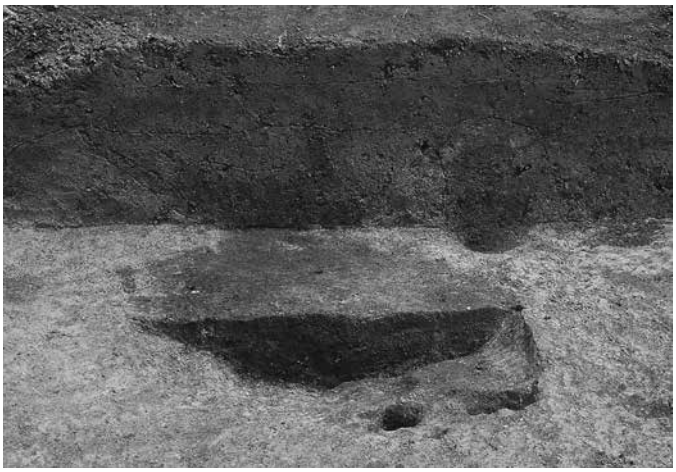
SK30　完掘

SK30　断面（北から）

SK31　完掘

SK31　断面（西から）

SK33　完掘

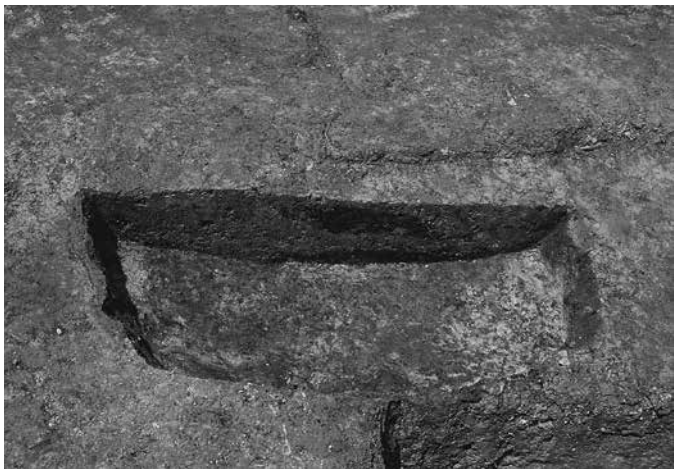


SK33　断面

SK20　完掘

SK13　検出状況（北から）

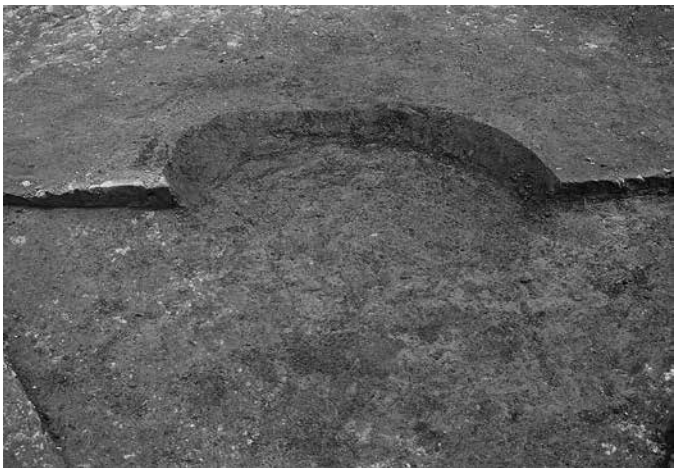
SK13　完掘（東から）



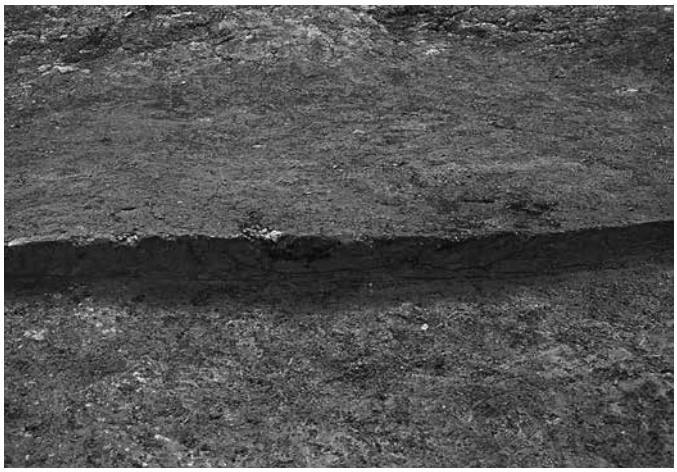
SK13　断面（東から）

SK14　完掘

SK14　検出状況（東から）



SK19　完掘



SK19　断面（西から）

SK28　完掘（北から）

SK28　断面（北から）

SK29　完掘（北から）

SK29　断面（北から）

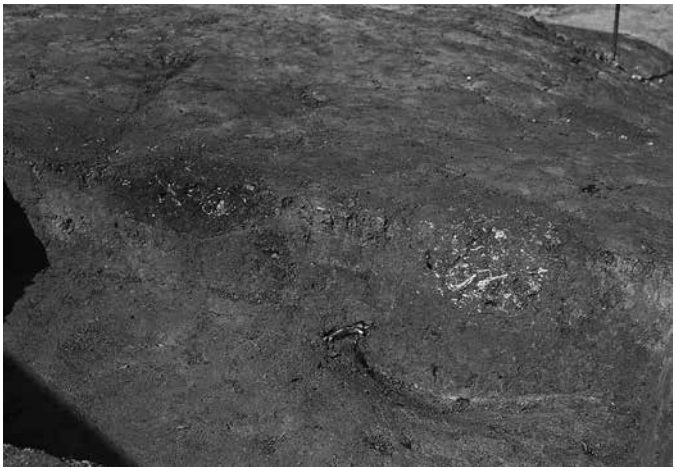
SK22　完掘（北から）

SK22　断面（東から）

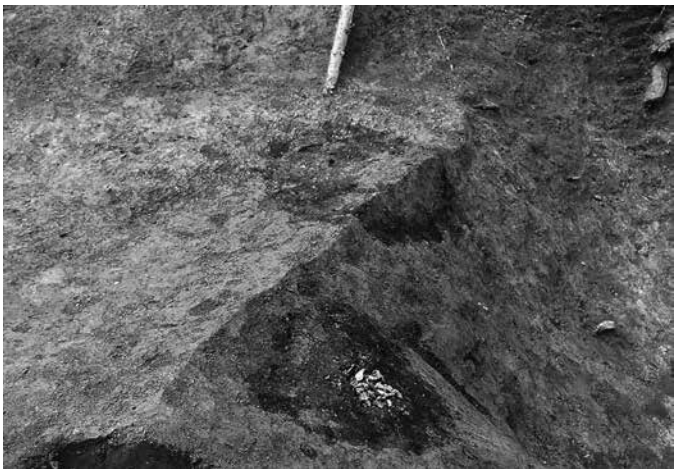
SK25　検出状況（東から）

SK25　断面（東から）

SK26・27　検出状況（東から）



SK26・27断面（東から）



SK11・12　検出（北から）

SK11・12　完掘（西から）

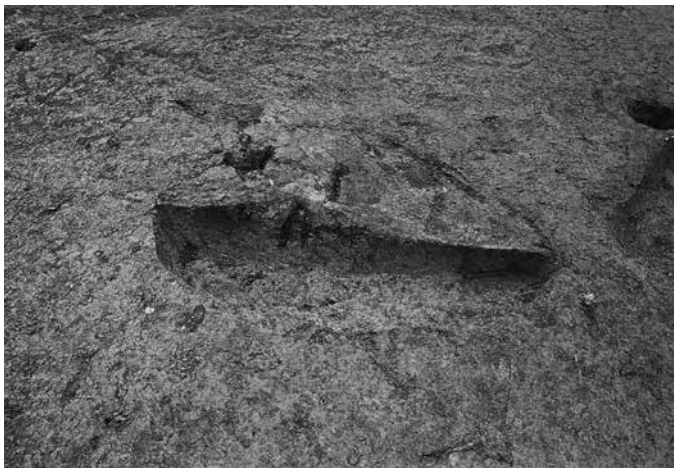
SK11　断面（西から）

SK12　断面（西から）

SK23　完掘（北から）

SK23　断面（西から）

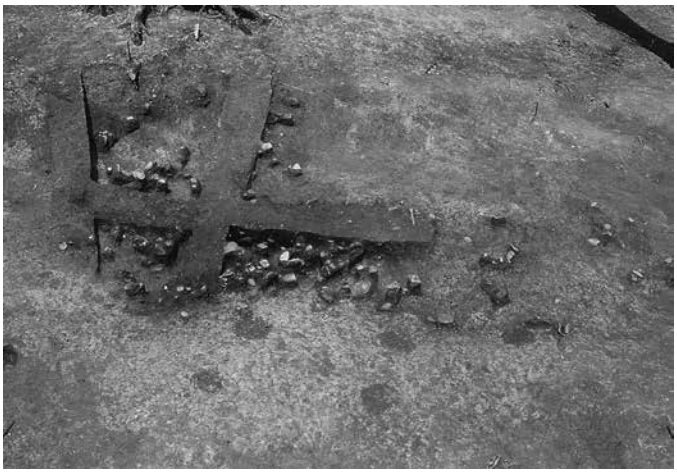
SK24　完掘（北から）



SK24　断面（北から）

SK21　完掘（東から）

SK21　断面



SK21　遺物出土状況（東から）

SK21　遺物出土状況（東から）

SK21　遺物出土状況（北から）

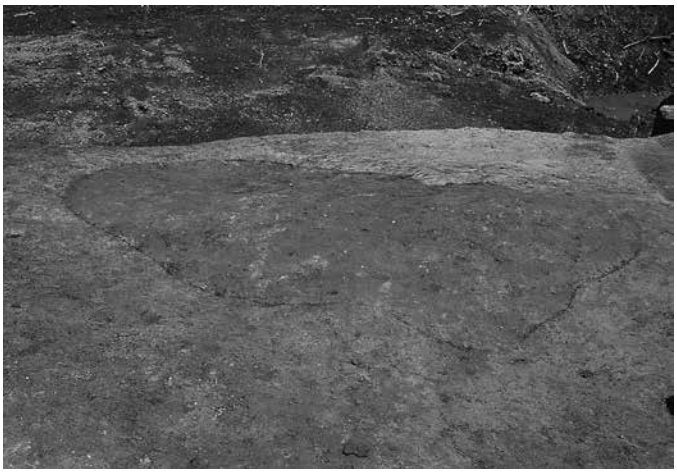
SK21　遺物出土状況（北から）

Pit8　礫出土状況

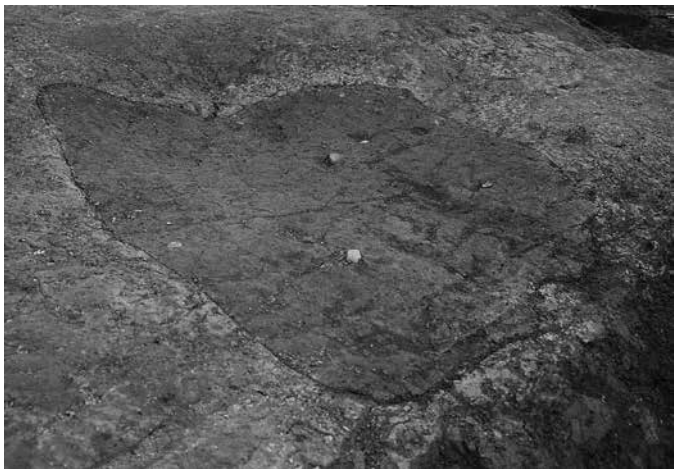
Pit8　周辺（東から）

SK5　断面

SK32　検出状況



SK1　検出状況



SK2　検出状況

SD2　完掘（東から）

SD2　完掘（南から）

SD2　集石検出状況（北から）

SD2　集石検出状況（南から）

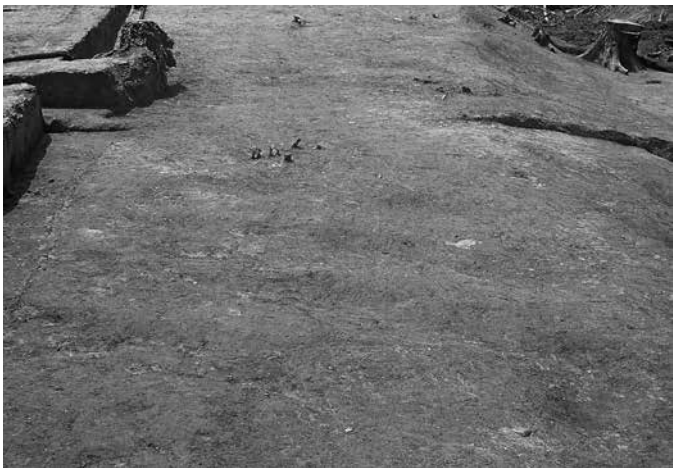
SD8　断面（a-a'）

SD7　断面（b-b'）

SD6　検出状況（東から）

SD3　完掘（北から）

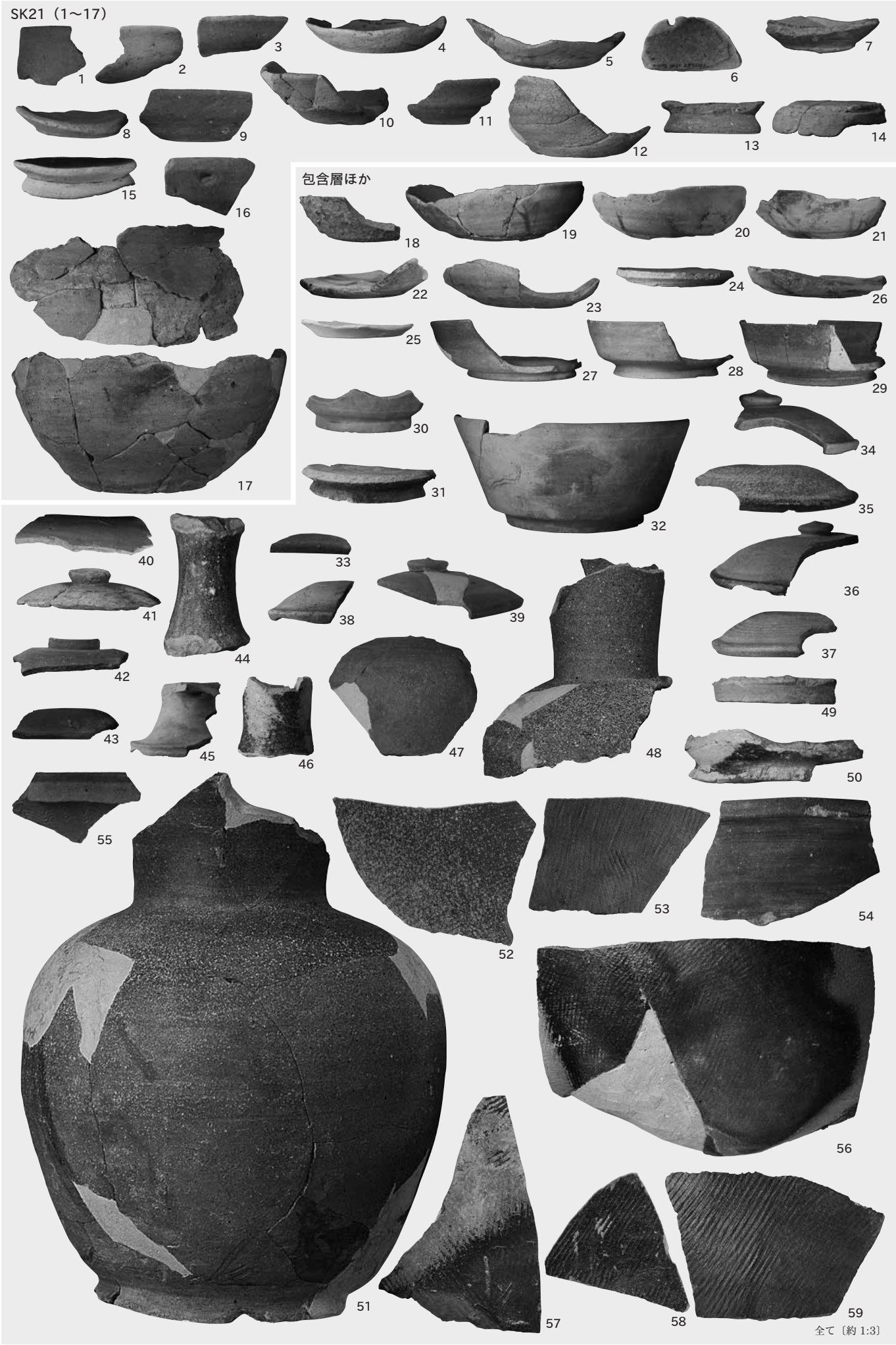
畝状遺構２　検出状況（西から）



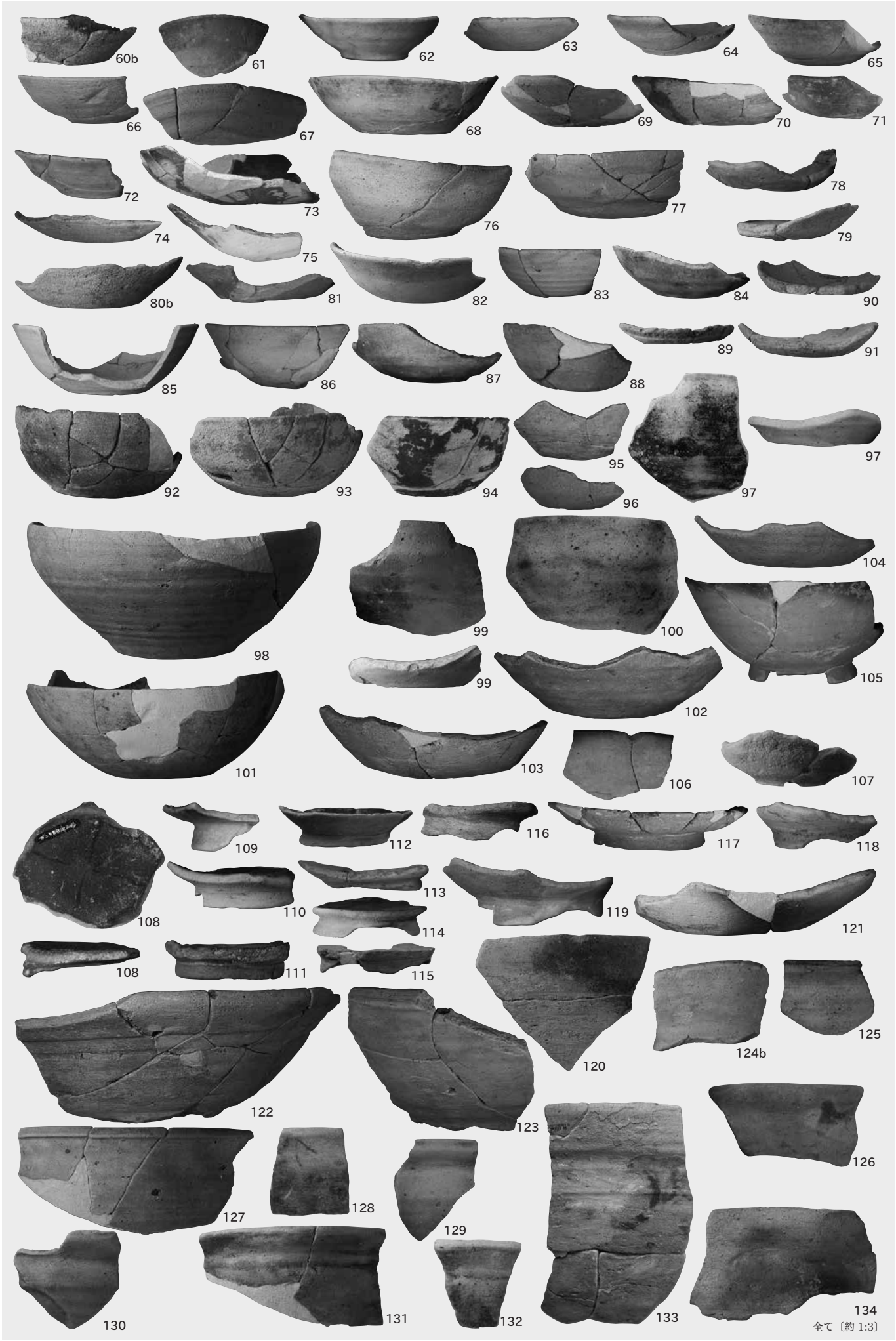
畝状遺構２　検出状況（東から）

畝状遺構１　検出状況（北から）

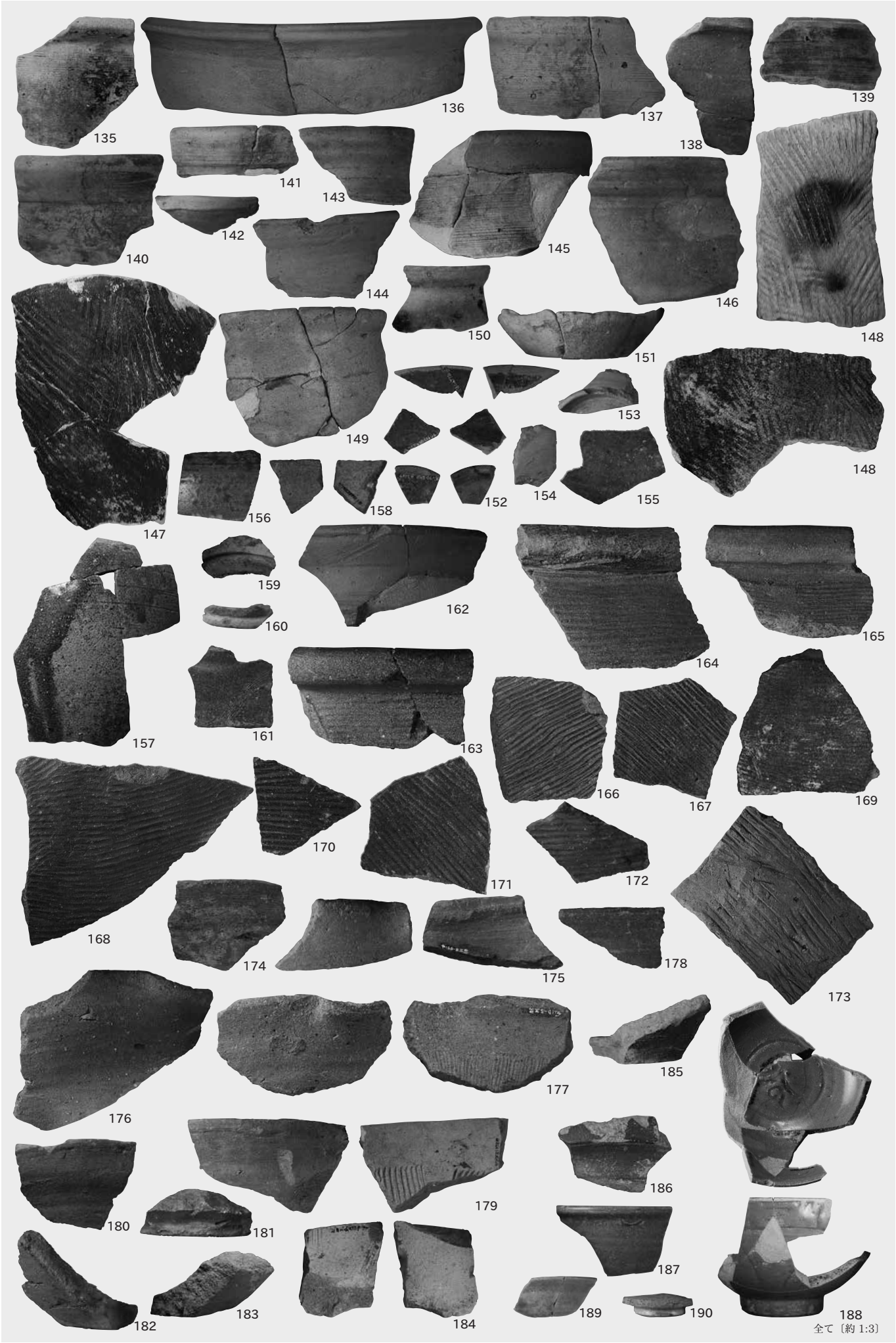
畝状遺構１　完掘状況（東から）


SK21（1～17）
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
包含層ほか
18
19
20
21
22
23
24
26
25
27
28
29
30
31
32
34
35
40
33
36
41
38
39
44
37
42
49
43
45
46
47
48
50
55
53
54
52
56
51
57
58
59

全て〔約 1:3〕


60b
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
76
77
78
74
75
79
80b
81
82
83
84
90
85
86
87
88
89
91
92
93
94
95
96
97
97
98
99
100
104
99
105
102
101
103
106
107
109
112
116
117
118
108
110
113
119
121
114
108
111
115
122
123
120
124b
125
126
127
128
129
130
131
132
133
134

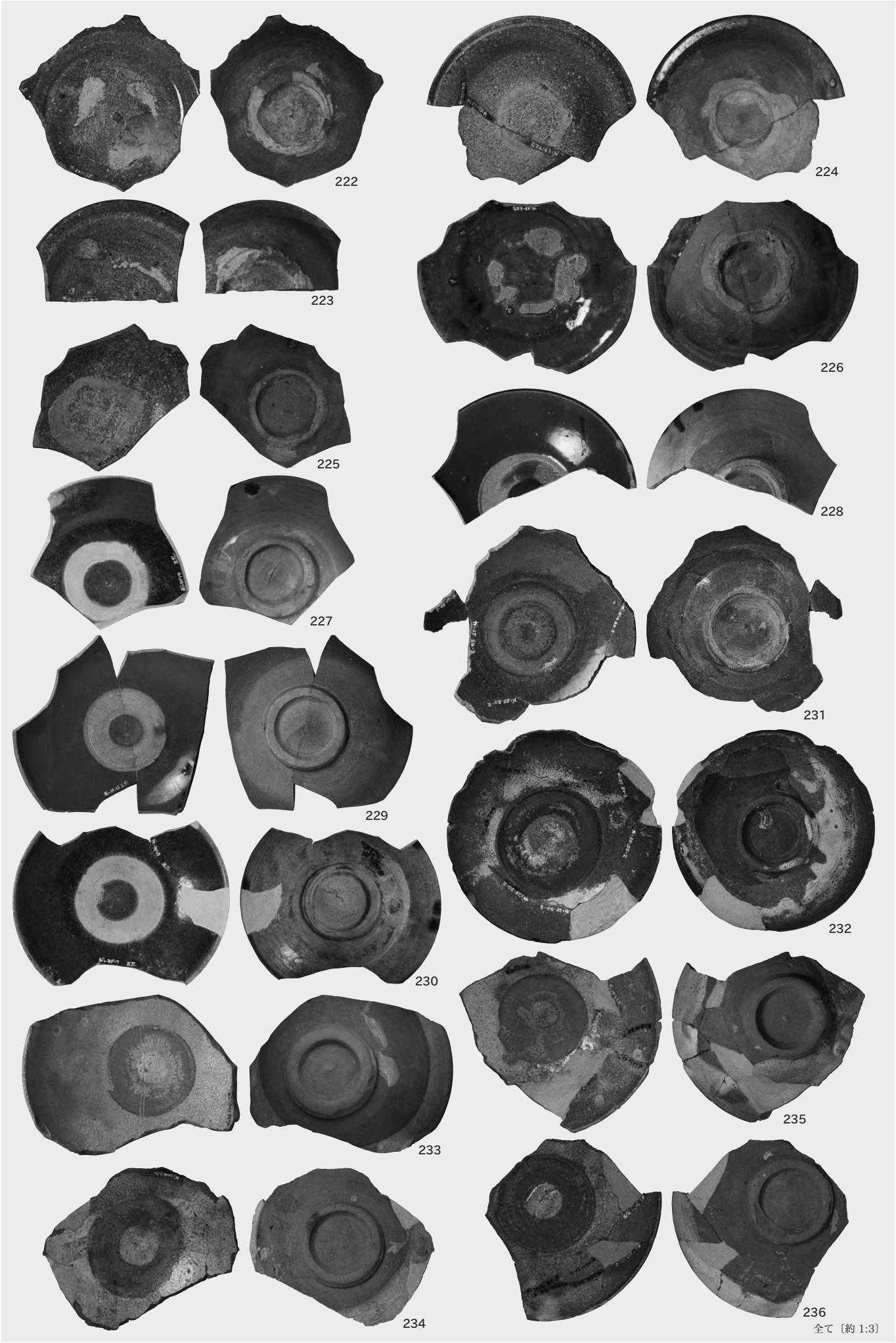
全て〔約 1:3〕


135
136
137
138
139
140
141
142
143
144
145
146
147
148
149
150
151
152
153
154
155
156
157
158
159
160
161
162
163
164
165
166
167
168
169
170
171
172
173
174
175
176
177
178
179
180
181
182
183
184
185
186
187
188
189
190

全て〔約 1:3〕

191
192
193
194
195
196
197
198
199
200
201
202
203
203
204
204
205
206
207
208
209
210
211
212
213
214
215
216
217
218
219
220
221

全て〔約 1:3〕

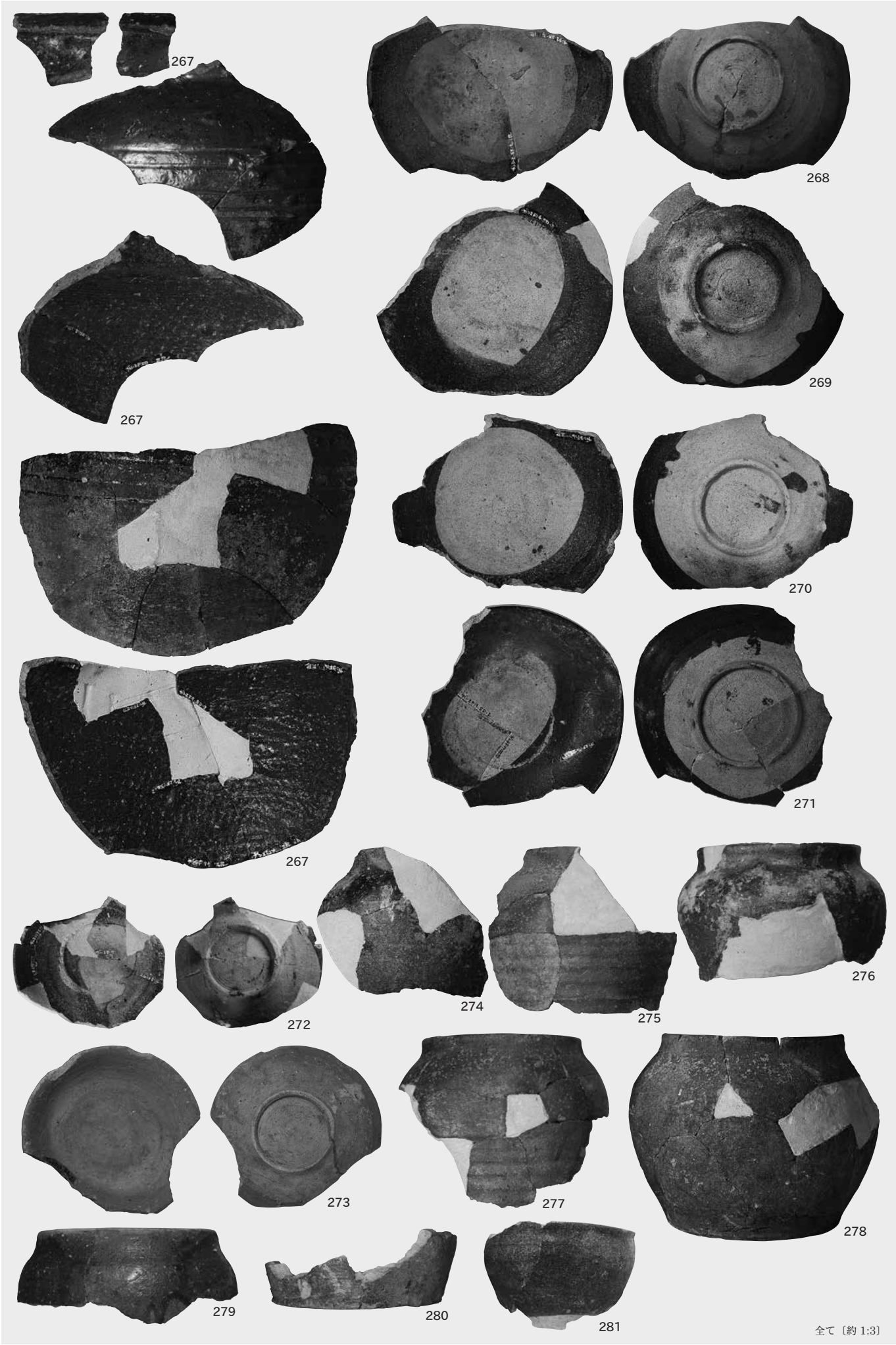



全て〔約 1:3〕

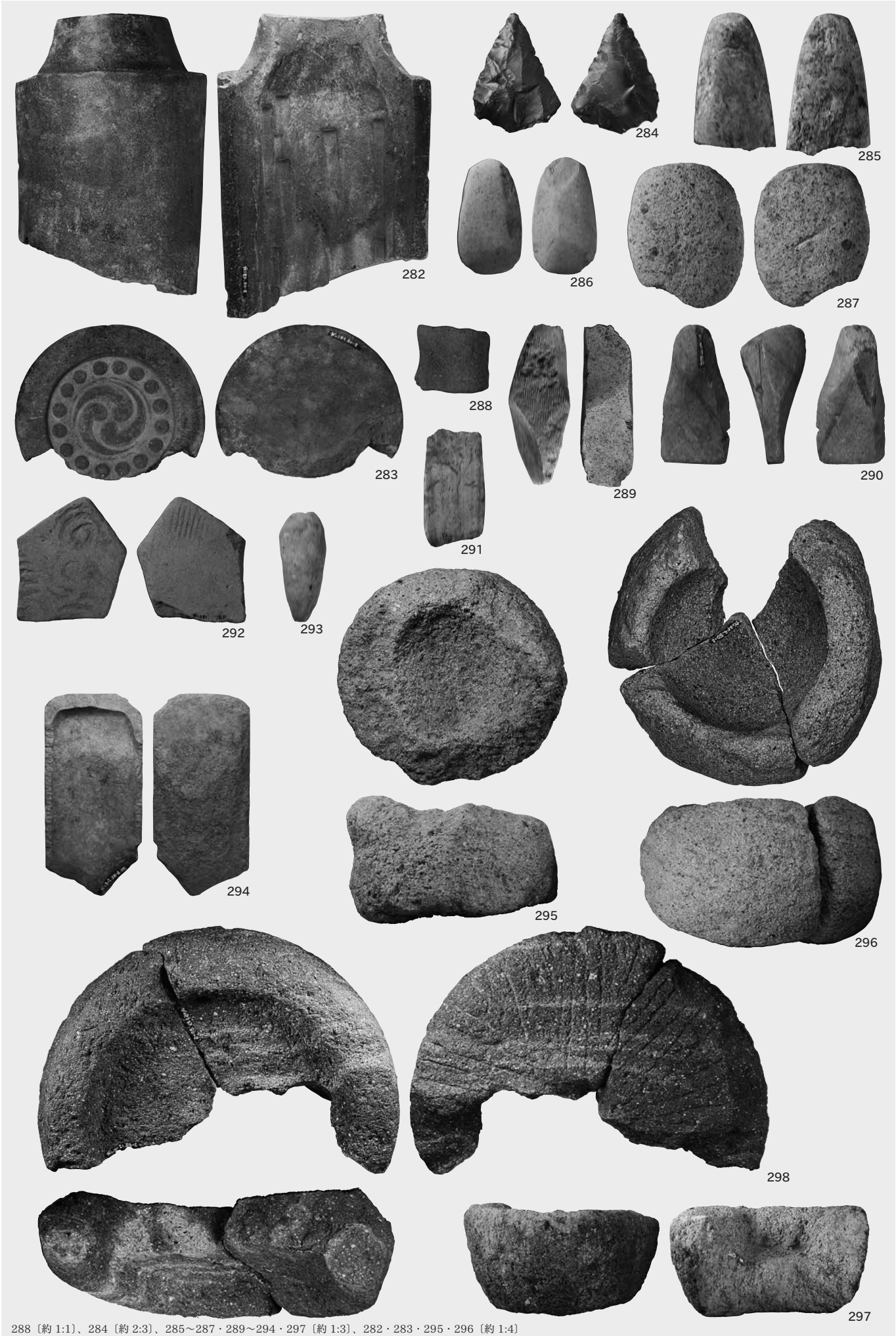
237
238
239
240
241
242
243
244
245
246
247
248
249
250
251
252
253
254
255
256
257
258a
259
260

全て〔約 1:3〕

全て〔約 1:3〕


267
268
267
269
270
267
271
276
274
275
272
273
277
278
279
280
281

全て〔約 1:3〕




288〔約 1:1〕、284〔約 2:3〕、285～287・289～294・297〔約 1:3〕、282・283・295・296〔約 1:4〕

299

300

301

302

303

301～303〔約 1:3〕
299・300〔約 1:4〕

# 報 告 書 抄 録

| | |
|---|---|
| ふ り が な | がんざわ |
| 書　　名 | 蟹沢遺跡 |
| 副　書　名 | 上信越自動車道関係発掘調査報告書 |
| 巻　　次 | XV |
| シリーズ名 | 新潟県埋蔵文化財調査報告書 |
| シリーズ番号 | 第137集 |
| 編 著 者 名 | 土橋由理子・高橋　保 |
| 編 集 機 関 | 財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団 |
| 所　在　地 | 〒956-0845　新潟県新津市大字金津93番地1　　TEL 0250（25）3981 |
| 発行年月日 | 西暦2004（平成16）年6月11日 |

| ふりがな<br>所収遺跡 | ふりがな<br>所在地 | コード<br>市町村 | コード<br>遺跡番号 | 北緯<br>°′″ | 東経<br>°′″ | 調査期間 | 調査面積<br>m² | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 蟹沢遺跡（がんざわいせき） | 新潟県上越市大字滝寺字蟹沢（にいがたけんじょうえつしおおあざたきでらあざがんざわ）928番地・字ほき立（あざほきだて）974番地ほか | 15222 | 234 | 37度<br>06分<br>58秒<br>(旧座標) | 138度<br>13分<br>06秒<br>(旧座標) | 一次調査<br>19951031～<br>19951102<br>二次調査<br>19960415～<br>19960912 | 3,750<br>m² | 上信越自動車道の建設 |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 蟹沢遺跡 | 集落跡 | 縄文 | | 石鏃・磨石・磨製石斧・土製耳飾 | |
| | | 古代 | 炭窯10基、土坑、溝状遺構 | 土師器・須恵器 | |
| | | 中世 | | 珠洲焼・越前焼・輸入陶磁器 | |
| | | 近世 | 井戸1基、畝状遺構2群、溝、土壙墓6基、地形改変跡 | 肥前系磁器・肥前系陶器・越中瀬戸・瓦・五輪塔・石鉢・粉挽臼・転用硯 | |


新潟県埋蔵文化財調査報告書　第137集

上信越自動車道関係発掘調査報告書XV

蟹沢遺跡

平成16年6月10日印刷
平成16年6月11日発行

編集・発行　新潟県教育委員会
〒950-8570　新潟市新光町4番地1
電話　025（285）5511

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
〒956-0845　新津市大字金津93番地1
電話　0250（25）3981
FAX　0250（25）3986

印刷・製本　長谷川印刷
〒950-2022 新潟市小針1丁目11番8号
電話　025（233）0321

新潟県埋蔵文化財調査報告書　第137集『蟹沢遺跡』　正誤表　　2018年11月追加

| 頁 | 位置 | 誤 | 正 |
|---|---|---|---|
| 抄録 | 北緯（旧座標） | ３７度０６分５５秒 | ３７度０６分５８秒 |
| 抄録 | 東経（旧座標） | １３８度１３分１２秒 | １３８度１３分０６秒 |